

国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース 日本のふるさとことば 集成：第8巻 長野・山梨・静岡

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002248

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第8巻 長野・山梨・静岡

国立国語研究所資料集 13-8

国立国語研究所
2004

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけれることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成16年6月

国立国語研究所長 甲斐睦朗

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子、CD-ROM、CD）には、以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
利用にあたって	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
目次	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

長野県木曽郡開田村1978

地図	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
話者・担当者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
解説	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
凡例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
談話	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
【小学校に通った頃、名前のこと、西野弁】			
文字化・共通語訳	<input type="radio"/>		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		<input type="radio"/>	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		<input type="radio"/>	
文字化 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
共通語訳 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
方言音声 (談話全体)			<input type="radio"/>
注記	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

山梨県塩山市1978

地図	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
話者・担当者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
解説	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
凡例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
談話	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

【はどうとう、食べ物】

文字化・共通語訳	<input type="radio"/>		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		<input type="radio"/>	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		<input type="radio"/>	
文字化 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
共通語訳 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
方言音声 (談話全体)			<input type="radio"/>
注記	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

静岡県静岡市1979

地図	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
話者・担当者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
解説	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
凡例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
談話	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

【お茶の話】

文字化・共通語訳	<input type="radio"/>		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		<input type="radio"/>	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		<input type="radio"/>	
文字化 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
共通語訳 text (談話全体)		<input type="radio"/>	
方言音声 (談話全体)			<input type="radio"/>
注記	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	<input type="radio"/>		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	<input type="radio"/>		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	<input type="radio"/>		
各地方言収集緊急調査実施要領	<input type="radio"/>		

各地方言収集緊急調査の実施について	<input type="radio"/>		
調査実施上の留意事項について	<input type="radio"/>		
「全国方言談話データベース」について	<input type="radio"/>		
Adobe Acrobat Reader		<input type="radio"/>	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz, 量子化ビット数16bit,
waveファイル, ステレオ

CD-ROMは、CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れことがあります。

本データベース編集にあたっては、個人のプライバシー等に配慮しました。
談話データの中には、現在では、その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが、学術的・歴史的資料の保存という観点から、そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ、お使いください。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記（2）は守ってください。

- (4) この冊子、CD-ROM、CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように、明記してください。
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CDの作成については、平成9(1997)～16(2004)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-8

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第8巻 長野・山梨・静岡

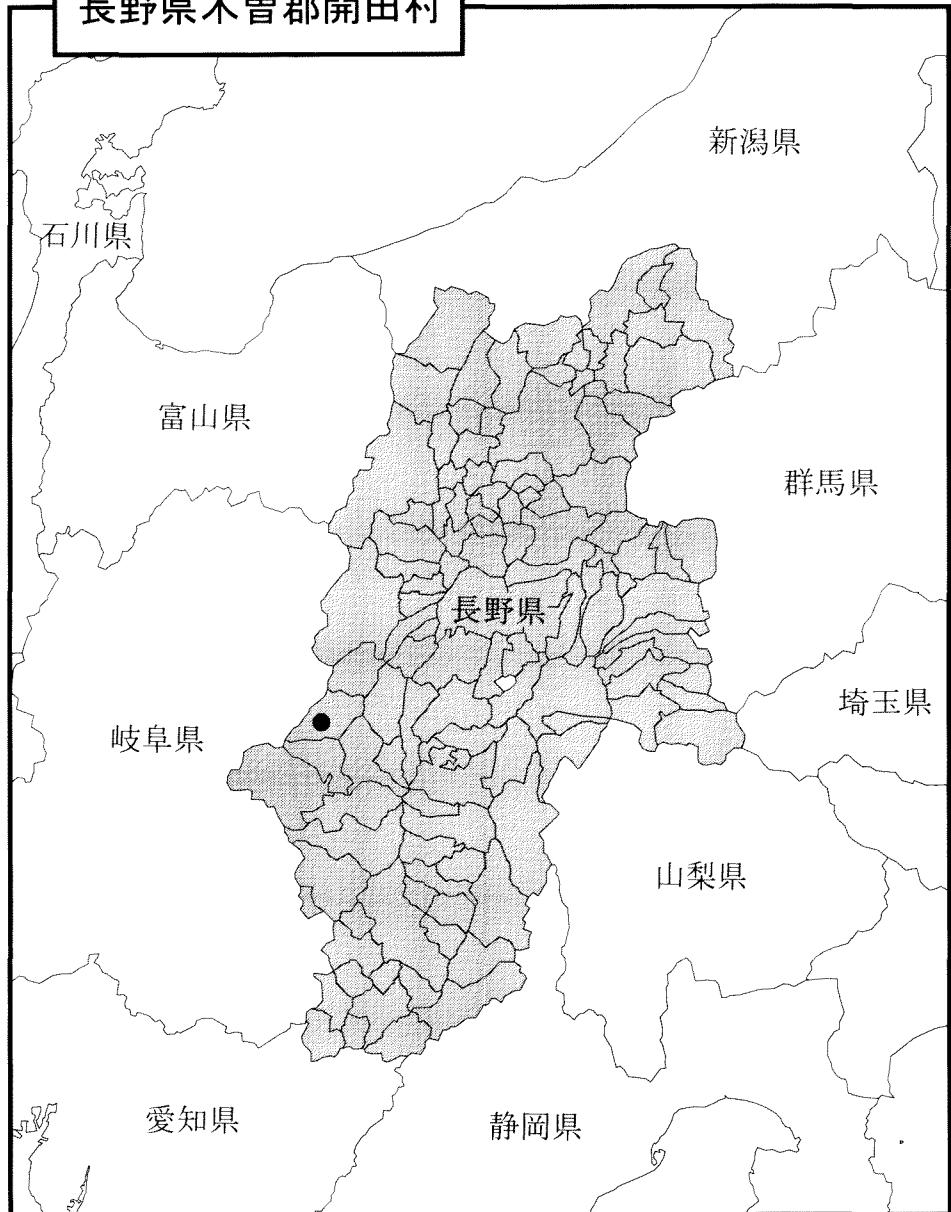
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 長野県木曽郡開田村1978 11	
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	20
談話	25
【小学校に通った頃、名前のこと、西野弁】	26
注記	60
II. 山梨県塩山市1978 61	
地図	62
話者・担当者	63
解説	64
凡例	70
談話	75
【ほうとう、食べ物】	76
注記	145
III. 静岡県静岡市1979 153	
地図	154
話者・担当者	155

解説	156
凡例	162
談話	167
【お茶の話】	168
注記	234
 作成・公開の経緯	239
「各地方言収集緊急調査」について	241
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	245
「各地方言収集緊急調査」地点地図	250
各地方言収集緊急調査補助全体計画	251
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	252
各地方言収集緊急調査実施要領	253
各地方言収集緊急調査の実施について	256
調査実施上の留意事項について	258
「全国方言談話データベース」について	264

I. 長野県木曽郡開田村
1978

長野県木曽郡開田村



長野県木曽郡開田村1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	中村 栄重 山下 千一 和田 みどり
収録担当者	青木 千代吉
文字化担当者	青木 千代吉
共通語訳担当者	青木 千代吉
解説担当者	青木 千代吉 山下 千一

(敬称略　項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	渡辺 喜代子 鳥谷 善史 熊谷 康雄

長野県木曽郡開田村1978解説

収録地点名

ながのけんきそぐんかいだむらおほあさにしの
長野県木曽郡開田村大字西野

収録地点の概観

位置

開田村は、長野県木曽郡の西部。中央西線木曽福島駅より、北西に約33km、長野県木曽郡と岐阜県大野郡高根村とが境を接するところに位置する。

交通

開田村へは、木曽福島駅から、国道361号線を走るバスで約1時間20分。

岐阜県高山市より旧中山道の木曽福島に通じる木曽街道に沿って、開田村の集落が形成された。木曽街道は、別に鎌倉街道の呼び名もあり、木曽では飛騨街道と呼んでいる。

地勢

木曽御嶽山の北東にひろがる、標高1,100m～1,200mの盆地状の高原。北方から南方に西野川が縦断して流れ、この川は三岳村黒沢で王滝川に合流し、王滝川は木曽福島町で木曽川に合流する。標高が1,100mを超える高原で、しかも御嶽山を南西に控えているため、気温は北海道なみで、典型的な寒冷地山村である。

行政区画

開田村域は、1871(明治4)年に名古屋県となり、伊那県、筑摩県を経て、1876(明治9)年に、筑摩県の廃止、長野県への統合によって、長野県に所属した。

1889(明治22)年4月1日、市町村制施行により、末川村・西野村が合併して、開田村が成立した。1968(昭和43)年には、郡名改称により、西筑摩郡から木曽郡となった。

戸数・人口

1955(昭和30)年には、世帯数610戸、人口3,873人。1975(昭和50)年現在では、世帯数638戸、人口2,677人となり、過疎化が進行している。

産業

開田村は、古来より日本の在来和種馬として有名な木曽馬や、「木曽の麻衣」^{あさぎぬ}の名で鎌倉時代の古歌にも詠われた麻織物の主産地である。従来は農業を主としていたが、寒冷地山村という不利な条件と、減反政策のため衰退しつつあり、最近では肉牛生産、野菜生産に重点が注がれている。また、御嶽山などの自然の景観を生かしたレジャー産業も盛んになってきている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

方言区画の上で、木曽地方一帯は、下伊那郡および上伊那郡南部地方とともに、南信方言地域である。この地域は、東西方言境界地帯としての性格を最も顕著に持つところであり、いわゆる東西方言の境界線のいくつかが、南信地方やその西南端に集中している。また、長野県の西南端に位置するという地理的条件により、隣接の東海地方および岐阜県地方の方言の色彩をも持っている。

開田村方言は、近隣の王滝村・三岳村・旧新開村方言とともに、奥木曽地方の方言としての共通の特色を持ち、木曽地方の中でもとりわけ方言色の強いところである。

音韻

(1) 共通語の「お」は「ヲ ([wo])」となる。

ヲトコ (男)

ヲノヲノ (おのおの)

ヲニ (鬼)

ヲボエ (覚え)

ヲノレ (己)

サヲ (竿)

この「ヲ」について、地元では、「オンタケ（御岳）以外のことばはみんな「ヲ」だ」と言われている。

(2) 共通語の「え」は「イエ ([je])」となる。

イエサ (餌)

イエンピツ (鉛筆)

イエライ (偉い)

ニワイエ (庭へ)

「や」「よ」も「イヤ」「イヨ」となることがある。

イヤイテ (焼いて)

イヤタテ (矢立)

イヨメ (嫁)

ワカラニイヨ (わからないよ)

(3) 語中・語尾のカ行音は、濁音化する傾向がかなりの割合で認められる。

オモシロガッタヨ (おもしろかったよ)

コッカラ ハガル ワグ (ここから測るわけ)

オーサガノ ヒトニヤ (大阪の人には)

ソーゆー ゴトワ デギン (そういうことはできない)

ロッカグダカ (六角だか)

文法

(1) 一段活用の動詞の命令形には、「～ヨ」という形が用いられる。

オキヨ (起きろ)

ミセヨ (見せろ)

ヤッテクリヨ (やってくれ)

(2) ナ行・バ行・マ行五段動詞の連用形が促音便化する傾向がある。

シツデ (死んで)

トツデ (飛んで)

ツツデ (積んで)

クツデ (汲んで)

ヤツデ (やんで)

(3) サ行五段活用の動詞にイ音便形が現れる。

オトイテ コワイタ (落としてこわした)

ケヤイテ (消して) 〈終止形は「ケヤス」〉

サイテ (挿して)

ウツイテ (写して)

(4) 形容詞「よい」「早い」の連用形にウ音便形が使われる。

ヨ一 ャットル（よくやっている）

ハヨ一 コイ（早く来い）

(5) 「する」にあたる動詞は「セル」である。「セル」は、「セ（未然形）」「シ（連用形）」「セル（終止形）」「セレ（仮定形）」「セロ（命令形）」と活用する。

キカ[。] セルカ[。]（気がするが）

(6) 存在を表す「いる」は「イタ」「イタル」「オル」である。「オル」は本州西部方言に特有なものだが、長野県では南信方言地域にだけ使われている。

イマ イタ モノワ（今いる者は）

コドモ フターリ オル（子どもがふたりいる）

(7) 断定の助動詞「ジャ」がごく限られた地点ではあるが使われる。

(8) 理由、原因を表す接続助詞「デ」が使われる。

チエカ[。] デテ クルデナー（知恵が出てくるからなあ）

ヨビステダデナー（呼び捨てだからなあ）

(9) 打消の助動詞は「ン」である。過去形は「ナンダ」、「ないで」「なくて」にあたる形は「ナンデ」「デ」である。

イカニヤナラン（行かねばならない）

ヨマンナラン（読まなければならない）

キニ トメナンダヨナ（気に入れなかつたよね）

アタラナンデ（あたらいで）

ドコニモ イカデ イエニ オッタ（どこにも行かないで家にいた）

ソンナコト セデモ イー（そんなことはしなくてもよい）

(10) 推量表現には、「ズラ」「ラ」「ツラ」「ズ（意志も表す）」「ダラー（下伊那郡南部地方のみ）」がある。「ダラー」以外の語は長野県中信地方全域にも分布している。また、「ズラ」は東信地方まで、「ズ」は北信地方まで分布している。

(11) 進行態は「～イタ」「～イタル」で表される。活用は、「～イタラ（未然形）」「～イ（連用形）」「～イタッ（連用形）」「～イタ（終止形・連体形）」「～イタル（終止形・連体形）」「～イタレ（仮定形）」「～イタレ（命令形）」とな

る。「～イタ」の過去形は「～イタッタ」である。

シータ（している）

ミータ（見ている）

シーテ（していて）

イキーテ（行きつつあって）

シータレ（していろ）

ミータレ（見ていろ）

シータッタ（していた）

ミータッテ（見ていて）

(12) 結果態は「～ティタ」「～ティタル」で表される。「～ティタ」の過去形は

「～ティタッタ」「～タッタ」である。

オボエティタッタ，オボエタッタ（覚えていた）

(13) 文末詞には次のようなものがある。

「ニヤー」は話しかけの場合に使われる。

アノニヤー（あのなあ）

イッタソニヤー，イッタスニヤー（行ったそうだよ）

「エ」は断定の語気を持って使われる。[n] 音に後続する場合には「ニエ」となることがある。

セツボエ（節分だよ）

ミタケアタリデワエナー（三岳あたりではなあ）

ワカラニエ（わからないよ）

「～ッダ」は希望・意志を表し、「～ッダ シッテ」のように、「シッテ（と言って）とともに用いられることが多い。

モラワッダ シッテ（もらおうと思って）

イカッダ シッテ（行こうとして）

ミッダ シッテ（見ようというので）

語彙

(1) 「こ」「そ」「あ」にあたる形は「キヤ」「シャ」「ヤ」である。

キーナ コト，キヤン コト（こんなこと）

シャーナ コト，シャン コト，シャーン コト（そんなこと）

ヤーナ コト, エーナ コト, ヤン コト (あんなこと)

キヤンノー (こういうもの)

シャンノー (そういうもの)

シャー ナル (そうなる)

シャー ナンノ? (それは何のことか?)

(2) 「イカン (どんな)」という語が日常語としてよく使われる。

イカン グアイニ (どんなふうに)

イカン シテモ (どうしても)

イカナ コトオ (どんなことを)

イカナル コトマデ (どんなことまで)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『長野県方言緊急調査報告書』(長野県教育委員会、1986年)による。)

長野県木曽郡開田村1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるよう、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「一」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うこととした。

記号

。 (句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、 (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A …….) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

* * * 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼー／＼モジナンデスナ、

／＼／＼／ 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉
方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。
例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて
＝ 〈全角〉
[] 内の＝は、意味の説明や、意訳であることを示す。
例：イマ ュー
今 いう [=今話題にあがった]
| | 〈全角〉
注意書きなど。
例：| Aに対して |
〔 〕 〈全角〉
注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・
共通語訳の後にまとめてある。〔 〕内の半角数字は、注記の番号を示す。
例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「長野01-1」はCD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「長野01-1」「長野01-2」……「長野01-7/02-1」……「長野09-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, …… 08↑09, 09↑ のように表示される。

第8巻のCD（69分11秒）には、長野県木曽郡開田村の談話、【小学校に通った頃、名前のこと、西野弁】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.26・ℓ.1	p.32・ℓ.1	0:02:10
02	p.32・ℓ.3	p.36・ℓ.5	0:01:56
03	p.36・ℓ.7	p.39・ℓ.15	0:02:04
04	p.39・ℓ.15	p.43・ℓ.7	0:02:02
05	p.43・ℓ.9	p.45・ℓ.1	0:02:18
06	p.45・ℓ.3	p.48・ℓ.17	0:02:01
07	p.48・ℓ.19	p.52・ℓ.11	0:01:56
08	p.52・ℓ.11	p.56・ℓ.13	0:02:00
09	p.56・ℓ.15	p.59・ℓ.11	0:02:11
計			0:18:38

長野県木曽郡開田村1978談話

収録地点 長野県木曽郡開田村大字西野

収録日時 1978（昭和53）年

収録場所 長野県木曽郡開田村大字西野

話題 小学校に通った頃、名前のこと、西野弁

話者

A 男 1909(明治42)年 (収録時69歳)

B 女 1910(明治43)年 (収録時68歳)

C 男 1913(大正2)年 (収録時65歳)

調査者

男 (収録談話中に発話なし) 大学教員

収録時間 (CD) 18分38秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、『長野県方言緊急調査報告書』(長野県教育委員会発行、1986(昭和61)年3月)が作成されている。

【小学校に通った頃、名前のこと、西野弁】

話し手

- A 男 明治42年生 (収録時69歳)
- B 女 明治43年生 (収録時68歳)
- C 男 大正2年生 (収録時65歳)

1 B : ムガシノ ガッコーダカ コノ オグダッタデ

昔の 学校だか[が] この 奥だったから

[↑01]

(C ンー ン。 ソーダ) ロー デゲー ロカ[°] ムーッツ

(C うん うん。 そうだ) 炉、 大きい 炉が 六つ

アッタネー Aニー (A ソーダ) ムーッツ。

あったなあ Aにいさん (A そうだ) 六つ。

(C ア ムーッツカ) ンー。

(C あ 六つか) うん。

(A ンー ムーッツ アッタナー) ン。

(A うん 六つ あったなあ) うん。

2 A : ロッカグダカ ハッカグダカ シランカ[°]

六角だか 八角だか 知らないが

(C ソー ソー ソー ソー) ン ンー。

(C そう そう そう そう) うん うん。

長野 01-2

3 B : シ、 ハッカクジヤ ナカッタカナ
うん、 八角では なかったかな

(A ン一 ソーカモシラン) ムツツバカ アッテ
(A うん そうかもしぬない) 六つばかり あって

(A ン) ソイツエ フントニ
(A うん) そいつへ ほんとうに

4 A : ソシテ コーイ アミダナカ[。] ツイタッテナー。
そして こういう 網棚が ついていてなあ。

(B ン) (C ン一 ン一) ソエ フユン ナルト
(B うん) (C うん うん) それで 冬に なると

セギヤヤ オニシカラ ハナムジワラジ[1] ジャ
関谷や 小西から 花文字わらじ[をはいては] ××

キチャーサ (C ソーダ ン) ソシテ アイツヲ
来てさ (C そうだ うん) そして そのわらじを

ココデ カワカイタモンダデ。
ここ [=炉]で 乾かしたもんだ。

5 B : カワカイタヨ。 (C ツルッテ) (A ン一 ン ン)
乾かしたよ。 (C 吊るして) (A うん うん うん)

ヒータキダ シテ (A ン一)
火焚きだ って言って (A うん)

長野 01-3

マインチ ヒトリ タノンデナ (A ソー ソー ソー)
毎日 一人 頼んでな (A そう そう そう)

イチンチニ コメ ゴンコ°一イエナー。
1日に 米 5合[の日当]だよなあ。

6 A : ソーイ コトダッタカイナ アレワ。
そういう ことだったかな あれは。

7 B : イチンチニ コメ ゴンコ°一 ニットーカ°。 (C アー)
1日に 米 5合 日当が。 (C ああ)

(A ンー)
(A うん)

8 C : ヒタキノ ニットーカ°。 (A・B ンー ンー)
火焚きの 日当が。 (A・B うん うん)

ニットーカ°ナー。

日当がなあ。

9 B : ン。 アノ イマノ ツバシ[2]ノ (A ンー)
うん。 あの 今の 土橋の (A うん)

X1ダ シッテナー。
X1だ と言ってなあ。

10A : ン ソーダ。 (C アー) (B X1ダ X1ダ シッテ)
うん そうだ。 (C ああ) (B X1だ X1だ と言って)

長野 01-4

ン　ン。 (C ソー ソー ソー ソー)
うん　うん。 (C そう そう そう そう)

11B：アイツ　イッテ　ヒノ　パン　ヒノ　パン　シテ。
　　の　人[が]　[学校へ]　行　て　火の　番　火の　番[を]　し　て。

サーッテ　コドモニ　タイテ　アタラシタヨナー。
　　う　や　つ　て　子　ど　も　に　焚　い　て　あ　た　ら　せ　た　よ　な　あ。

(A ソーダ)　ン。
(A そ　う　だ)　う　ん。

12A：ソシテ　キョージョーエ　ハイルト　アノ　センセー／ノ　コシニ
　　そ　し　て　教　室　へ　　入　る　と　　あの　先　生　の　側　に

ソレ　シカグナ　ナンダヤ　アリヤ、
そ　ら　四　角　い　何　だ　　あれ　は、

ヒバチガ°　アッテナ　ヒトツ。 (B ン　ン)
火鉢　が　あ　つ　て　な　一　つ。 (B う　ん　う　ん)

スミ　オコイチャ (B ン)
炭[を]　おこして　は (B う　ん)

(C アー　ア－　ア－、　ソ－)
(C あ　あ　あ　あ　あ　あ、　そ　う)

ヨ－　アイデ　ア－イ　サブイ　トキ、
よ　く　あれ　で　あ　あ　い　う　寒　い　時、

長野 01-5

フユ ス デキタ モンダイナー。
冬[に勉強が] × できた もんだなあ。

13C : ケッコー ソレデ ベンキョーシタダナー。 {笑}
結構 それで 勉強したんだよなあ。 {笑}

14A : ン。 イマノ ヨーニ エライ ザブトン
うん。 今の ように 大した 座布団[を]

モッテクジャ ナシ (B ン) アノ (C アー)
持って行く[わけ]じゃ ないし (B うん) あの (C ああ)

キノ コシカケエ コシカケチャー。
木の 腰掛に 腰[を]かけては。

15B : ソレデモ ベンキョー ス デキタデナー。
それでも 勉強 × できたからなあ。

16A : {笑} デキ ン ソリヤマー デキル (B ***)
{笑} ×× うん そりやまあ できる[には] (B ***)

17C : オオ*** センセーノ トコニ
／＼*** 先生の 所に

シカクナ アレカ° アッタデナー。
四角な あれが あったなあ。

18A : ソー ソー マエノ ホーニ (B ソーヤー)
そう そう 前の ほうに (B そうだよ)

長野 01-6

フン (C ソリヤー ソーダ) フン。

ふん (C そりや そうだ) ふん。

19B : ソレガ°ー イチニネン サンヨネンマデワ コーユー

それが 1、2年 3、4年までは こういう

イマノ ソラ ハンダイ、 ナーケ°ー ダイイエ。 (C ンー)

今の それ 飯台、 長い 台だ。 (C うん)

(A ンー ン) アイツーノ ハンブン、

(A うん うん) あれの 半分、

コレクライナ アツデナー、 (C ン)

これぐらいの [長い] やつでなあ、 (C うん)

コイツノ ハンブンノ アツデ、 (C ウン)

この 半分の やつで、 (C うん)

イチニネン サンヨネンマデワ

1、2年 3、4年まで[の子]は

コーヴ ヤツデ、 コシカケテー、 (C ンー ンー)

こう [いう] やつで 腰かけて、 (C うん うん)

ソシテ ゴログネン ナルト ヒトリツノ コシカケデ

そして 5、6年[に] なると 一人ずつの 腰掛け

(A アー ソーカー) (C アー ソーカ ウン)

(A ああ そうか) (C ああ そうか うん)

長野 01-7/02-1

ベンキョーサシタヤー。 (A ソーダッタナー) ン。
勉強させたよ。 (A そうだったなあ) うん。

[01↑02]

20A : マ イマワ アーユー サブイ トキ イマンナシャ
ま 今は ああいう 寒い 時 今よりも

アレ イギノ フリカタモ チカ°ッタリ (C アー サブ****)
あの 雪の 降り方も 違つたり (C ああ //****)

サムサモ チカ°ッタデナー。 (B ン一 ン一)
寒さも [今と]違っていたからなあ。 (B うん うん)

ヨー ベンキョー デキタ モンダヨナー。 (C ン一)
よく 勉強 できた ものだよなあ。 (C うん)

21C : ソレデ ソレコソ ヤスミジカン ナルト ミンナ {笑}
それで それこそ 休み時間[に] なると みんな {笑}

(A {笑})
(A {笑})

22A : アー アー。 (B ン一 ン一) (C ****) ミンナ ハイ
ああ ああ。 (B うん うん) (C ****) みんな もう
イノチカ°ヶデ トンデキタ {笑} (C {笑})
命がけで 飛んで来た {笑} (C {笑})

23B : オンナシューワ マゲテ、 ドーシテモ
女の子たちは 負けて、 どうしても

長野 02-2

オンナシユーワ マゲルデナー (A シ) (C アー アー)
女の子たちは 負けるからなあ (A うん) (C ああ ああ)

オトコシユーニ サリクズサレテ
男の子たちに かきのけられて

オトコシユーノ チット ヤンカナツワ
男の子たちの 少し いたずらなやつは

ヒキズリダサレテマー
[先生に]引きずり出されていても

アブランナン シテ、 (A・C {笑})
[火に]あたらなければならぬ と言って、 (A・C {笑})

ソーユー メニ アッタ コトモ アルゾ。 (C アー ソーダナ)
そういう 目に あつた ことも あるぞ。 (C ああ そうだな)

ン。
うん。

24A : ソーダ アイダケノ ロバタエ ゼンブ
そうだ あれだけの 爐端へ 全部[の者が]

アタランナラン ワケダデ
あたらなければならぬ わけだから

(B ヌ。 ゼンブ アタランナランデナー)
(B うん。 全部[の者が] あたらなければならぬからなあ)

長野 02-3

ソレア ア ア アブリキレンデナー。
それは × × [火に]あたりきれないからなあ。

25B：ソイデ アトカラ キタ ヤツダッテー (A ン)
それで あとから 来た やつだって (A うん)

ソイテー (C {笑}) オンナシュノー (C {笑})
そして (C {笑}) 女の子たちの[中の] (C {笑})

チート ヘボイヨーナ (A ン ン)
少し 弱いような (A うん うん)

アーイナツオバ (A ヒキダシテ) ヒキズリダイテ
そういうようなやつを (A 引き出して) 引きずり出して

ワレ アブッタデ デロ シッテ、 (A・C {笑})
「おまえ[は] あたったから 出ろ」 と言って、 (A・C {笑})

ソシテ シキズリダサレテ、 マーズ デカクナッテ
そして 引きずり出されて、 まあ [男の子は]大場所取って

アブッタ ヤツ アノ ヨー シッテヤ。 (C {笑})
[火に]あたった の[を] あの よく 知ってるよ。 (C {笑})

ン。 {間} イタノマノ ウイエー コ コノ トーリニ
うん。 {間} 板の間の 上に × この とおりに

コヤ カーッテ アブルヨーニ アブッタデ、
×× こうやって あたるように[して] あたったから、

長野 02-4

コノ トーリデ (C ***ナ) アブッタデ
この とおりで (C ***/) あたったから

(A ソー ソー) イタノマノ ウエー。 (A ンー ソーダ)
(A そう そう) 板の間の 上に。 (A うん そうだ)

ココ ココカ[。] ロダト
ここ ここが 炉だと

コノ トーリニ カーッテ アブッタヨナ。
この とおりに こうやって [火に]あたったよな。

26A : ンー ン ソーイ コトダ。 (C ソーダ ン)
うん うん そういう ことだ。 (C そうだ うん)

27C : ソリヤ タント アブレンモンデ。 (A ンー)
それは 長く[は] あたれないから (A うん)

28B : タント アブレンデ カーッテ (C アー。 {笑})
長く[は] あたれないから こうやって (C ああ。 {笑})

スワ スワッテワ アブレンデ タント アブレンデ
×× 座っては あたれないから 長く[は] あたれないから。

29A : スワレン スワレン アシ ナケ[。]ダイテナー。
座れない 座れない 足[を] 投げ出してなあ。

(B ナンジューニンモ アブレンモンデナー) (C ン)
(B 何十人も あたれないからなあ) (C うん)

30B：アシ ナケ°ダイテ (A ン) コノ トーリ。
足[を] 投げ出して (A うん) この とおり。

(A ソーダ) シセーワ コノ トーリ。
(A そうだ) 姿勢は この とおり[で]。

(A シセー ダケダ) {間}
(A 姿勢だけだ) {間}

[02↑03]

31A：アレデ ヨー カンガエリヤ イマワ ハエ アレダナー
あれで よく 考えれば 今は もう あれだなあ

ガッコーダ シタッテ イカナル コトマデ
学校だ といつても どんな ことまでも

(B セツビカ° イーデ) ソナエカ° ツイテ
(B 設備が いいから) 準備が ついて

(C ンー ンー) ン ン ン。 ヨクナッタ モンダ。
(C うん うん) うん うん うん。 よくなつた ものだ。

(B ン) {間}
(B うん) {間}

32B：チート アラソッ タタセラレタ アノ サブサ
ちょっと 嘩喧し[て] 立たせられた あの 寒さ

サブカッタ コトエナー。 (C ンー ンー) (A {笑})
寒かった ことだなあ。 (C うん うん) (A {笑})

長野 03-2

タッ チッ タッタリシテ (C {笑}) アー タッタ)
×× ×× 立ったりして (C {笑}) ああ 立った)

アブラセズニ。 (A {笑}) {間}
[火に]あたらせないで。 (A {笑}) {間}

33C : バーサマワ オラヨリ イクツク[°]ライ ウエノ ワケダッタヤ。
おばあさんは 僕より いくつぐらい 年上の わけだったかい。

34B : ン?
うん?

35C : イクツクライ トシウエノ ワケダッタヤ。
いくつくらい 年上の わけだったかい。

36B : オラ モー イッサイデ チョードニ ナルンダ。
私は もう 1歳で ちょうどに なるんだ。

37A : ヨロ ヨンジューサンネン メージョンジューサンネンノ ウマレダ。
×× 43年 明治43年の 生まれだ。

38B : ヨンジュー (C ア ソー ナル)
[明治]40 (C あ そう なる)

メージョンジューサンネン ウマレ。
明治43年 生まれ。

39C : モー スク[°] シャー ナル ワケ {笑} (A {笑})
もう すぐ そう なる わけ {笑} (A {笑})

40B：シャー ナル ワゲニヤ。 (C フー) ン。
そう なる わけだよ。 (C ふうん) うん。

ハ シチジューン ナルンダ。 ン。
× 70に なるんだ。 うん。

(C ハー、 ナルホドナー ソーカイ。 ン)
(C はあ、 なるほどなあ そうか。 うん)

ソシテ ドッカエ ビョーインエ、 ビョーイン シタラ
そして どこかへ 病院へ、 病院 といったら

エライ ビョーインモ イッタ コトノ
たいして 病院[へ]も 行った ことは

フクシマアタリ チト グアイ ワルクテ (C ウン)
福島あたり[へ] ちょっと ぐあい[が] 悪くて (C うん)

イシャエ イグ ワケ。
医者へ 行く わけ。

ソーストット カイテ ヤランナンデナー、
そうすると [名前を]書いて やらなくてはならないからなあ。

(C ン) メージ ジダ ジダイノ ヒトデ
(C うん) [そうすると]明治 ×× 時代の 人で

メズラシー ナマエダナー シッテ ュー ワゲ
珍しい 名前だなあ って 言う わけ[だ]。

オレヲ。 (A シー)

私のことを。 (A うん)

(C *** ソーズラ ソー オモウズラナー)

(C *** そうだろう そう 思うだろうなあ)

(A アー ナルホド) メージジダイノ ヒトデ (C {笑})

(A ああ なるほど) 明治時代の 人で (C {笑})

(A {笑}) ミドリ ミドリ トット ミドリ ト ュー

(A {笑}) みどり みどり // みどり と いう

ナマエワ メズラシー ナマエダナー シッテ。

名前は 珍しい 名前だなあ と言って。

(A・C {笑}) ホントニ ソーヤ。 (A・C {笑})

(A・C {笑}) ほんとうに そう言うよ。 (A・C {笑})

41C : アー ソリヤ ソーズラ。

ああ そりや そうだろう。

42B : ン。 イマワ ザラニ ミドリワ アルカ。

うん。 今は ざらに みどり[という名前]は あるが。

03↑04

(A {笑}) (C ハー) メージジダイデ

(A {笑}) (C はあ) 明治時代で

ミドリ ト イウ ナマエワ メズラシーナー シッテ

みどり と いう 名前は 珍しいなあ と言って

長野 04-2

アノ ウゲツケノ ヒトガ[。] イウヤ。 シー。
あの 受付の 人が 言うよ。 うん。

43C : ムカシワ ソレコソ (B アー?)

昔は それこそ[名前は] (B ああ?)

ハ ハツヤ アキダッタデ *** {笑}

× 「ハツ」や 「アキ」だったから *** {笑}

(A ン ソーダ ソーダ) (B ソーエー) {笑}

(A うん そうだ そうだ) (B そうだよ) {笑}

44B : オレワ アノ ソレ オリ ア ア ザックバラダナン シテ
私は あの ほら 私は × × 遠慮なく言う人だなんて 言って

オレワ ニカ[。]ツノ フツカニ ウマレテ、 (A ン)

私は 2月の 2日に 生まれて、 (A うん)

ソイテ ムガシワ キュードシダッタデ (C ン)

そして 昔は 旧年だったから (C うん)

ソエデ マツオ タッタデ、 (C ン) マツノ ミドリデ、

それで 松を 立てたから、 (C うん) 松の 緑で、

(A ハハー) (C シー) (A カンカ[。]エタ モンダナー)

(A ははあ) (C うん) (A 考えた ものだなあ)

マツ マツオ タッタモンデ マツノ ミドリオ タトエテ

松 松を 立てたもんだから 松の 緑を たとえて

長野 04-3

ミドリ ダ シテ トウケタッテ。
みどり × だって つけたって。

45A：フー ン。 (C ナールホドナー) ナールホド。
ふうん うん。 (C なるほどなあ) なるほど。

46B：ン。 ソイデー オレカ[。]ノー オトコオヤワ
うん。 それで 私のうちの 男親は

リゴーダッタンダンナ トモッテ ソー オモッタヤツ。 (C ン一)
賢い人だったんだな と思って そう 思ったんだ。 (C うん)

キュードシニ ウマレテ マツオ タットッテ、
旧年に 生まれて 松を 立てていて、

マツノ ミドリデ (A ン ン) ミドリオ
松の 緑で (A うん うん) みどり[という名]を

デ ツケタ シッテ (C ハハ一) ン。
それで つけた と言って (C ははあ) うん。

(C ナルホドナー) ホイデ メズラシー シッテ ソーヤ。
(C なるほどなあ) それで 珍しい って そう言うよ。

メージジダイデ タントワ イタラン ッテ。
明治時代で[は] 多くは いない って。

47C：マー イタランズラナー。
まあ いないだろうなあ。

長野 04-4

48A：ソーアイ コトズラナー。 (B ン) {間}
そういう ことだろうなあ。 (B うん) {間}

49B：ナカ°サカデモ ソッタダヨ (A ン一)
長坂[病院]でも そう言ったぞ。 (A うん)

ヨゴヤマ イッテモ ソッタダ (C {笑}) ン。
横山[へ] 行っても そう言った (C {笑}) うん。

ナカ°サカジャ ネヤ キソビヨーインイエ。 ン。
長坂[病院]じゃ ないや 木曽病院だよ。 うん。

(A フン) (C アー アー アー)
(A ふん) (C ああ ああ ああ)

メズラシー ナマエダナー メージジダイノ ヒトカ°
珍しい 名前だなあ 明治時代の 人が

ハエ オトシワ タントダニ。 (A・C {笑})
もう お年は たくさんなのに。 (A・C {笑})

50A：オトシワ タントン ナッタナ コレワ。 (B ハー) {笑}
お年は たくさんに なったな これは。 (B はあ) {笑}

シ シラン ウチニ オトシワ タントン ナッター
× 知らない うちに お年は たくさんに なった

(B オトシワ タントン ナッタヤ)
(B お年は たくさんに なったよ)

コーイ ハズジャ ナカッタカ。 (B ウン) (C {笑})
こういう はずじや なかつたが (B うん) (C {笑})

イツノマニガ {笑} (B ウン) トシワ イッチャッタ。
いつのまにか {笑} (B うん) 年は いっちやつた。

51B : ソイデ ニカ[°]ツノ フツカ ウマレダヨ オレワ。 (C フン)
それで 2月の 2日 生まれだよ 私は。 (C ふん)

ン。 (C ナルホド) ン。
うん。 (C なるほど) うん。

[04↑05]

イツカワナー ハツダー アギダー (C ンー)
いつかはなあ 「ハツ」だ 「アキ」だ (C うん)

(A ソーダ ソーダ) ン ハルダー シッテ。
(A そうだ そうだ) うん 「ハル」だ と言って。

52A : タイテー タイテー ハイ
たいてい たいてい もう

53B : ソレヨリシカイ
それだけしか[なかつた]。

54A : ソーバワ キマッタッタイナー。 {笑}
[名前のつけ方の]相場は 決まっていたよなあ。 {笑}

55B : ソーバワ キマットッタヨナー。 (C ンー) ンー。
相場は 決まっていたよなあ。 (C うん) うん。

長野 05-2

ハヤグ ウマレリヤ ハヤダ シッテ (A ンー)
早く 生まれれば 「ハヤ」だ と言って (A うん)

ナツ ウマレリヤ ナツダ シッテ。 (C {笑}) ン。
夏[に] 生まれれば 「ナツ」だ と言って (C {笑}) うん。

{間} ナ X2 オンニ カラガウ シッテ
{間} × X2[が] 私を からかう と言って

ミドリサーン シッテ {笑} (A {笑})
「みどりさーん」と言って {笑} (A {笑})

(C カラ {笑}) アー サッテ ワラワセルヤ。
(C から[かう] {笑}) うん そうやって 笑わせる[んだ]よ。

アッチ ツレテッタ トギ ソッタモンダデ
あっち[へ] 連れて行った 時 そう言ったもんだから

(A フーン) ンー。 (C {笑}) {間}
(A ふうん) うん。 (C {笑}) {間}

マツノ ミドリミタイニ トショリダケド マンダ (A {笑})
松の 緑みたいに 年寄りだけど まだ (A {笑})

アオアオトシテ ゲンキ エー ト エーガ°ヤー
青々として 元気[が] いい と いいんだがなあ

(A {笑}) トシオ シトルテ
(A {笑}) 年を [こんなに]取ると

長野 05-3/06-1

ゲンキヤ ドッカ ハシッチマッタ。 {間}

元気が どこか[へ] いってしまったよ。 {間}

05↑06

56C : ナ ナンダカ ジンニ ジンニ ミンナ アノ
× なんだか 順に 順に みんなあの

トシ ヨルデ ハエ アレダナー。
年[が] 寄ってくるから だんだん あれだなあ。

57B : ン一 ン一。 ハエ トシ ヨッテ
うん うん。 もう 年[が] 寄って

トショリバカン ナッチマッタナー。
年寄りばかりに なってしまったなあ。

58C : ソーデモ アレダズナー ソノ一 タシカ コトバワ
けれども あれだよなあ そのう たしか[に] ことばは
ダンダン ダンダン ムガシノ コトバ ナクナッチマ
だんだん だんだん 昔の ことば[が] なくなってしま[って]

59A : ソーリヤ ナクナルズラ。
それは なくなるだろう。

60B : コトバワ ナクナッチマウヤ。
ことばは なくなってしまうよ。

61A : ン一 ナクナッチマウ ナクナッチナウ。
うん なくなってしまう なくなってしまう。

長野 06-2

62B : コレ アノ (A ン) ヨソノ シュート
これ[が] あの (A うん) よその 人たちと

コーイウ コーサイ セルズラ。 (A ン ン ンー)
こういう 交際[を] するだろう。 (A うん うん うん)

(C ア) ソースルト シゼント (A ン ン ナクナル)
(C あ) そうすると 自然に (A うん うん なくなる)

(C ***ナ) ン。 ナクナッチマウワ。
(C ***/) うん。 なくなってしまうよなあ。

63A : ン ン ン。 (B ン)
うん うん うん。 (B うん)

64B : オラ ミナ X3ミタイニ
うちの ×× X3みたいに

トキョーデモ サイキョー[3]デモ
東京[から]でも 京都[から]でも

アーッテ ヨコシャー
ああやって [西野弁丸出しで電話を]よこすようだと

ナクナランノダカ。 {笑} (A {笑})
[西野弁も]なくならないのだが {笑} (A {笑})

ア一。 トキョーヤ オーサガノ ヒトニヤ
ああ。 東京や 大阪の 人には

長野 06-3

ツージンデ ズサネ[4]
[この西野弁は]通じないから さしつかえない

ソーウニヤ ウラ X3ワ。 (A {笑}) (C {笑})
そういうよ うちの X3は。 (A {笑}) (C {笑})

チットマー (C {笑}) イガン ***
////// (C {笑}) どんな ***

イグラ ニシノベンデ シャベッテモ アレダニワ ツージンデ
いくら 西野弁で しゃべっても 彼らには わからないから

(A {笑}) チットモ (C {笑})
(A {笑}) ちっとも (C {笑})

ズサネー シテ ソーウヨ。 {間}
さしつかえない って そう言うよ。 {間}

ト一 シメ デモッテ
「戸を 閉め」 で

アラ ト一 シメロ ソータ ナリヤ ワケダ (A・C {笑})
あれは 戸を 閉めろ と言った // わけだ (A・C {笑})

ト一 シメ ト一 シメント ズサネ ッテ
戸を ×× 戸を 閉めないと さしつかえない って

ワラワレル。 {間}
笑われる。 {間}

ホント コドモモ ソノ ホーカ° エーワ
ほんとう[は] 子どもも その ほうが いいよ

オラニワ ワガリヤスクテ。
私には わかりやすくて。

65C : ソリヤ ソーダ。 (B ン) ン。 (B ン)
そりや そうだ。 (B うん) うん。 (B うん)

66B : ヘタナ ベンコナ コトバ カケテ ヨコイテモ
なまじ 生意気な ことば[を] [電話で]かけて よこしても
(C フン) ハナシ セーンヨナー。 (C ソダ) ン。
(C ふん) 話[が] できないよなあ。 (C そうだ) うん。

67A : イキスキ° コイテナー。 (A・C {笑})
出しやばり[を] 言ってなあ。 (A・C {笑})

68B : ソレコソ イキスキ° コイテ、
それこそ 出しやばり[を] 言って、

ベンコ コイテ (C {笑})
生意気[を] 言われて[は] (C {笑})

ハナシ デギンヨ。
話[は] できないよ。

[06↑07]

ソスルト キキナオサンナンズラ。 (C {笑})
そうすると 聞き直さなければならないだろう。 (C {笑})

長野 07-2

キキナオサレル ゴト オソロシー シッテ (C アー)
聞き直される こと[が] 困る と言って (C ああ)

ニシノベンデ ヤリガエテ ヨコスヨ。 (A {笑})
西野弁で 言い直して よこすよ。 (A {笑})

69A : ソシタカ° コトバワ アレダワナー (B ハー?)
けれども ことばは あれだなあ (B はあ?)

コッカラ キューニー デレバ
ここから 不意に 出て行って

イチバン コマル コトワ コトバダヨナ。 (B ン) (C ンー)
いちばん 困る ことは ことばだよな。 (B うん) (C うん)

コレ コドモヤナニ ガッコエ イッタ
これ[で] 子どもやなんかが [上の]学校へ 行った

シタッテ ソーズラニ ハジマリワ。 (C ンー)
そういうたって そうだろうよ 初め[のうち]は。 (C うん)

70B : ソイデモ (A ヨソ ヨソノ ガッコエ) ニシノ
それでも (A ×× よその 学校へ) 西野[の]

コトバモ イエライ ツージン ワケデワ ネーヨナー。
ことばも それほど 通じない わけでは ないよなあ。

71A : ン一 ソリヤ ワカルニヤ ワカルンサ。
うん それは わかるには わかるのさ。

長野 07-3

72B : ン。 アノ アキタヤー アスコラノ (A ソー ソー)
うん。あの 秋田や あそこらの (A そう そう)

コトバヨリワ ヨッボド イエー トモウナー。
ことばよりは よっぽど よい と思うなあ。

73A : ン。 ソイ ン ン ソイツワ ソイツワ
うん。 ×× うん うん それは それは

イエードコジャネーカ°ヤ。
いいどころではないがなあ。

74B : ン。 ズーズーベンデ ヤリガサレチミリヤ ワカラニエ。
うん。ズーズー弁で やり返されてみたら わからないよ。

75A : ン ソイツア ソイツア ワカラ。 (C {笑})
うん それは それは わからない。 (C {笑})

ソシタカ° イ コッカラ イゲバ、 ヨソエ デレバ
それだが × ここから 行けば、 よそへ 出れば

ナンダ シッテモ イチバン アレダゾ コトバカ°
なんだ と言っても いちばん あれだぞ ことばが

(B ン ン) ン オラデモ ヒケオ トルデ。
(B うん うん) うん 僕でも ひけを 取るから。

76B : アノー ムコ°一デ シャベッテ ヨゴイテモ (A ン一)
あの 向こうで しゃべって よこしても (A うん)

長野 07-4

コッヂデ シャ オ アノ カエシノ コトバオ
こっちで ×× × あの 返事の ことばを

ユ一 ゴトカ° デキンテ。 (A ン一 ン)
言う ことが できないって。 (A うん うん)

ホイダモンダデ ハナシカ° デキン ワゲエナ。
それだから 話が できない わけだよな。

(C ン一 ン) ン。 {間}
(C うん うん) うん。 {間}

アノネーナヨーナ コト イッテヨコシャ
「あのねえ」のような こと[を] 言ってよこせば

コマルラ。 (A・C・B {笑})
[お互いに]困るだろう。 (A・C・B {笑})

77A：ソイツア コゴノ ヒト ドーシノ ハナシカ?
それは ここの人 同士の 話かね。

78B：アノネーノヨーナ コト イッテヨコシャ コマルワ。
「あのねえ」のような こと[を] 言ってよこせば 困るわ。

ボ一 シッテルデ オレ。
「坊」と言っているから 私。

79A：ソイツア ソイツア ソー ソイツア ソーダカ°。 (C {笑})
そいつは そいつは そう そいつは そうだが。 (C {笑})

長野 07-5/08-1

80B：クル ヤツ クル ヤツ オトコノコ ダモンダデ
[家へ帰って]来る のも 来る のも 男の子 だから

(A ウン) ボーダ シッテ、 (C ン一)
(A うん) 「坊」だ と言って (C うん)

ボーダ ボーダ シッテ、
「坊」だ 「坊」だ と言って[言うけど]

ダレカ° ヘッジシテ イーカ ワガランジャ ネーカ
誰が 返事して いい[の]か わからないじや ないか

シテ (A・C {笑}) アー ア。
と言って (A・C {笑}) ああ あ。

ア クセン ナッテ チーセー ウチカラ アノ ボーダ
× くせに なって[いて] 小さい 時から あの 「坊」だ

07↑08

シッテツラ、 (A ン ン ン ソイツア)
と言っていただろう、 (A うん うん うん そいつは)

(C アー ソー) ハイ クセン ナッチャッテ
(C ああ そう) もう くせに なってしまって

81A：ン ン ン、 ソイツア ソーダ。
うん うん うん、 それは そうだ。

82B：ナマエオ イエヤ テ、 (A ン)
「名前を 言えよ」 って、 (A うん)

長野 08-2

ナマエオ チャント トウケタッテモ (A ン ン)
名前を ちゃんと つけてあっても (A うん うん)

(C {笑}) ソイテ ン (C {笑})
(C {笑}) そして うん (C {笑})

ソアッテ アノ ミンナ ソロートナー
そうやって あの [子どもが]みんな そろうとなあ

83A : イチ イチ イチマインナッタ コドモ ツカメチャ
×× ×× 一人前になった 子ども[を] つかまえては

ボーダデナー。 (C {笑})
「坊」だからなあ。 (C {笑})

84B : ン一。 ドー ダレ ダレカ° ドイツカ° ヘッジシテ エーガ
うん。 // ×× 「誰が どいつが 返事して いいか

ワガランワ ババ一 シッテ (C {笑})
わからないよ おばあちゃん」と言って (C {笑})

ナマエ アルヤツダデ ナマエ イエ一 シテ イウカ°。
「名前[が] あるんだから 名前[を] 言え」 って 言うんだが。

(C {笑}) ソレカ° クセン ナッテ
(C {笑}) それが くせに なって[いて]

シランヤツ。 ワルキ°デ ユーヤツダ ネーカ°。
知らないの[ではなくて]。 悪気で 言うのじや ないが。

長野 08-3

(C ン) ソシテ フクシマニ オル アノ ボーワナー、
(C うん) そして 福島に いるあの坊はなあ、

アノ コドモ フターリ オルザ
あの 子ども[が] ふたり いるが

ハエ オーキーズラ (C ン)
もう [その孫は] 大きいだろう (C うん)

ソシテ ウチ一 クルト
そうして うちへ 来ると

アノ ウラ X4ダ ソーデナ、
あの うち[の子の名前]は X4だ そういうがな、

(A ン一) (C ン一) ヨー コドモ ツレテ クルト
(A うん) (C うん) よく 子ども[を] 連れて 来ると

ボーワ シテ
[X4のことを]「坊」だ って

ソー ワゲエナ (A ン一 ン一)
そう[いう] わけだよな (A うん うん)

ソースタ ハエ コドモ オゴッテナー
そうすると もう 子ども[が] 怒ってなあ

85A : ン マコ°カ°ナー。
うん 孫がなあ。

86B : ン マコ[°] カ[°]。 (A・C アー)

うん 孫が。 (A・C ああ)

ウチノ オトーチャンワ ボージヤナイヨ。 (A・C {笑})

「うちの おとうちゃんは 「坊」じゃないよ。 (A・C {笑})

オトーチャンダヨー X4ダヨー シッテ。

おとうちゃんだよ X4だよ」 と言って。

サーッテ ハエ コドモ ユーデ ユダン デキンゾ。

そのように もう 子ども[も] 言うから 油断[は] できないよ。

(C {笑}) ン。 (C ナルホド) ン。

(C {笑}) うん。 (C なるほど) うん。

ウチノ オトーチャンワ ボージヤ ナイゾ オバーチャン

「うちの おとうちゃんは 「坊」じゃ ないぞ おばあちゃん」

(C ン) (A {笑}) シッテ。

(C うん) (A {笑}) と言って。

ハエ オバーチャンオモ ハエ オバーチャンダ ソーワン、

「もう おばあちゃんを もう 「オバーチャン」だ そう言わない。

(A {笑}) ミドリダ シッテ ソー シッテ。

(A {笑}) 「みどり」だ って そう 言って。

(A・C {笑}) サーッテ ユッタ コト アルヤ。

(A・C {笑}) そのように 言った こと[が] あるよ。

長野 08-5/09-1

(C {笑}) ン。 アイヤ ゴメン ゴメン シッテ

(C {笑}) うん。「おやおや ごめん ごめん」と言って

ゾーイ ワケヤ。 {笑} (C ナー)

そういう わけ[だ]。 {笑} (C [そうだ]なあ)

ハ一 マコ[。]モ オーキク ナレバ

もう 孫も 大きく なれば

ゾーユ チエカ[。] デテ クルデナー

そういう 知恵が 出て くるからなあ

ソッダケ ハイエ アノ キヨイグカ[。] アルヤツエナー ハエ。

それだけ もう あの 教育が あるのでなあ もう。

オヤオ ボーダシテ ユワ (A {笑}) ユワレル ゴトオ

親を 坊だって ×× (A {笑}) 言われる ことを[=が]

ハエ セツナイヤツエナー。 {間}

もう 切ないのだよなあ。 {間}

08↑09

トショリシューワ ミンーナ オラト オンナジジャネガイナ

年寄りの人たちは みんな 私と 同じじゃないかな、

アノ コドモオ (C ***) ン。 {間}

あの 子どもを (C ***) うん。 {間}

トカイノ ヒトミタイニ ナニナニサンダヨーナ コトワ

都会の 人のように 何々さんだ[という]ような ことは

トテモジャネカ。 エマ イエ シッテモ
とてもじゃないが 今 言え と言っても [=言われても]

イエンナ。 (A {笑}) {笑} コドモニ。
言えないな。 (A {笑}) {笑} 子どもに [対して]。

87A : ソーシタカ° ヨソカラ キテ ミリヤ タマケ°ルワナ、
 そうだが よそから 来て みれば 驚くよな、

ココワ コ コトバ ヨビ ヨビステダデナー。
ここは × ことば ×× 呼びすてだからなあ。

88B : ソーエー ソダモンダテ ソーヤトー タマケ°ルワナー。
 そうだよ だから そういうことを 驚くよなあ。

89A : ンー ン タマケ°ル タマケ°ル。 (B ン)
 うん うん 驚く 驚く。 (B うん)

90B : イウ コトオ シラン ワケデワ ネカ° ハイ シゼンノ
 言う ことを 知らない わけでは ないが もう 自然の

コトバデ ソーイ フーニ ナッチマッテ
ことばで そういう ふうに なってしまって

91A : クセン ナッチャッタッテナ。
 くせに なってしまっていな。

92B : ン イ ュ ユエンヨ。 (A ン) ン。 ホイデ
 うん × × 言えないよ。 (A うん) うん。 それで

コレカラノ コドモワ ソーユー ゴトワ デギン
これからの 子どもは そういう ことは できない[し]

センワ。

[言えも]しないよ。

93A : セン セン ハイ コドモ。 (B ン ン)
しない しない もう 子ども[は]。 (B うん うん)

ン一。 {間}

うん。 {間}

94B : ウチノ オレカ[°]ノ コドモワ ババーダ ソウシ、
うちの 私の 子どもは 「ババー」だ そう言うし、

(A ン) マコ[°]ワ ババーダ ソウシ、

(A うん) 孫は 「ババー」だ そう言うし、

バーチャンダ ソウシ イロイロ アルヤ。 (C アー)
「バーチャン」だ そう言うし いろいろ あるよ。 (C ああ)

ン。 オーン オーンカ[°] チカ[°]ッテナー、

うん。 音 音が 違ってなあ、

ババート ババト オバーチャントノ (A {笑})
「ババー」と 「ババ」と 「オバーチャン」との (A {笑})

ン ミ ミイロ アルゾ、 ウチ ウチワ。 (C {笑})
うん × 3種類 あるぞ、 うち うちには。 (C {笑})

ン。 サエタマニ オル ヤツワ
うん。 埼玉に いる のは

ババー ババー シッチャ ヨコスカ[°]。
「ババー」 「ババ」 ってそう言っちゃ [電話を]よこすが、

サエタマニ オル ヤツア。 (C フーン) ン一。
埼玉に いる のは。 (C ふうん) うん。

ボードモワ ババーハン ゼンブ ババ。
息子たちは 「ババーハン」 全部[が] 「ババ」。

(A {笑}) マコ[°]ワ マタ オバーチャンダシ、
(A {笑}) 孫は また 「オバーチャン」だし、

イロイロニ イロイロニ デテ クルヨ。
いろいろに いろいろに 出て くるよ。

長野県木曽郡開田村1978注記

[1] ハナムジワラジ

緒のつけ方を、花文字のようにきれいにしあげたわらじ。

[2] ツバシ

地名。土橋。

[3] サイキョー

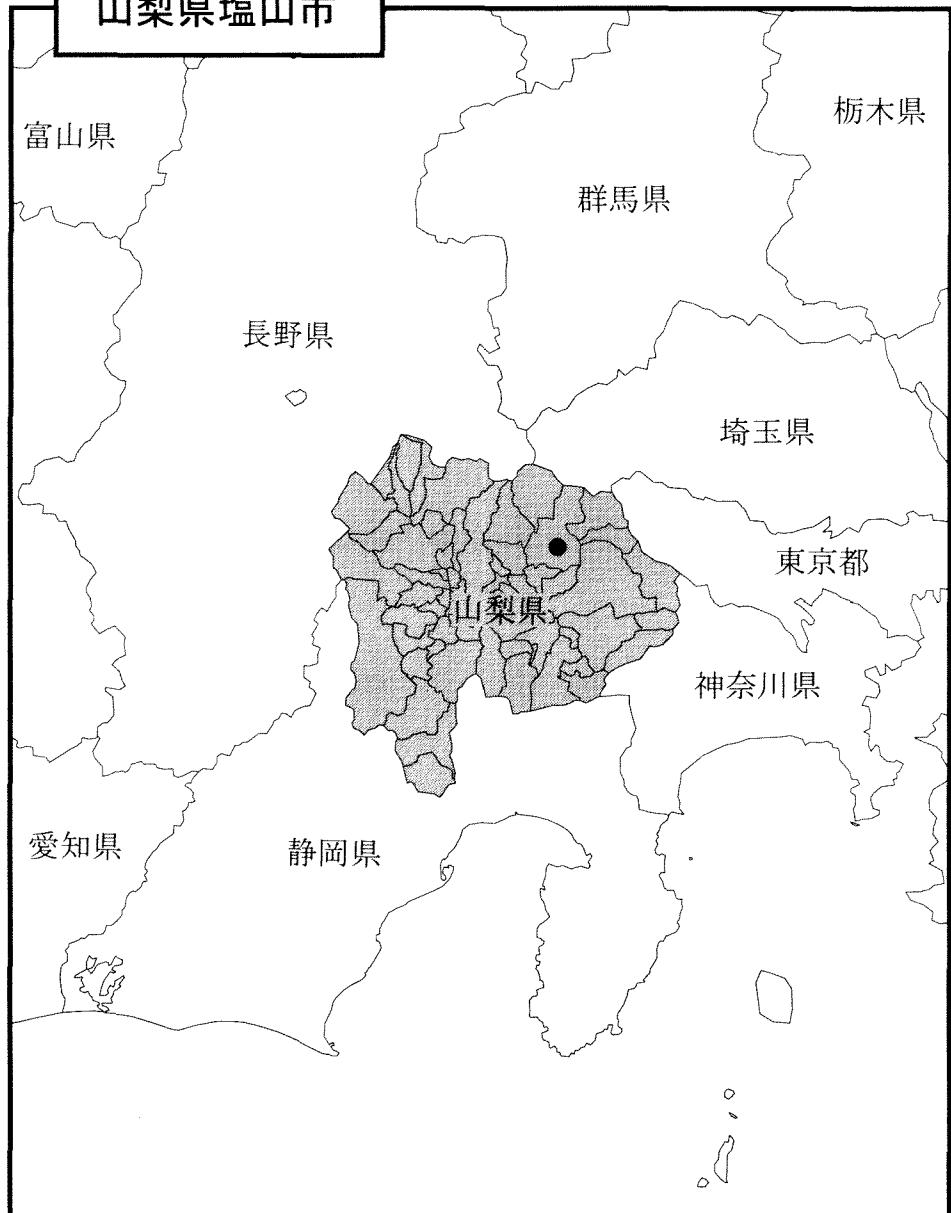
西京。西のほうにある都。京都。江戸を東京というのに対して、京都を西京といふことがある。

[4] ズサネ

ズサナイ。ズサイナイ。心配ない。たいしたことではない。さしつかえがない。

II. 山梨県塩山市
1978

山梨県塩山市



山梨県塩山市1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	武井 正義 矢崎 きよし 矢崎 道良
収録担当者	小林 是綱 日向 敏彦
解説担当者	小林 是綱 日向 敏彦

(敬称略　項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

文字化担当者	吉田 雅子 ※
共通語訳担当者	吉田 雅子 ※
編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	吉田 雅子 鳥谷 善史 熊谷 康雄

※ 「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」作成時に新たに文字化・共通語訳を行いました。

山梨県塩山市1978解説

収録地点名

やまなしけんさんさん し なかはら
山梨県塩山市中萩原

収録地点の概観

位置及び交通

塩山市は山梨県のほぼ中央に位置する。甲府駅から東へ18km、中央線で25分の所に国鉄塩山駅がある。収録地点の中萩原は塩山駅より北東へ自動車で約10分、5kmほど丘陵を登った所にある。

地勢

塩山市東部の萩原山恩若峰のふもとにあり、中央を佐野川が流れ、古くから開けた扇状地である。周囲を山に囲まれ、付近には下原・土塚・街道端・小山などの小字がある。近くを甲州から大菩薩峠を経て青梅（東京都）に至る、いわゆる青梅街道が走っていて交通上の要衝の地であった。

行政区画

江戸時代には幕府の直轄地で、米・柿・ころ柿の産地として知られていた。1875(明治8)年に中萩原、上粟生野、下粟生野の三か村が合併して大藤村と称し、1885(明治18)年に大藤村、玉宮村、神金村が連合して合同役場を中萩原に置いたが、1891(明治24)年に解散して単村となった。1954(昭和29)年に塩山町に合併し塩山市になり、現在に至っている。

戸数・人口

1980(昭和55)年3月19日現在、世帯数267戸、人口1,087人である。

産業

古くから米作と養蚕の地帯であるとともに、柿の産地としても知られていたが、戦後はぶどう栽培を中心とする果樹栽培地帯として発展している。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

塩山市の方言は、山梨県西部方言（国中方言）であり、東海東山方言に属している。甲府盆地を中心とする地域は、塩山市の位置する東部いわゆる東郡と、

西部いわゆる西郡に分かれ、両者の間には多少のことばの違いが見られる。

音韻

塩山市中萩原においては、発音および音韻組織は東京語とほとんど変わりはないが、次のような特徴がある。

(1) 連母音の融合がある。

アイ → エー

ウメー (うまい)

アエ → エー

オセール (押さえる)

イエ → エー

オセール (教える)

エー (家)

単語によっては、「オエ」「オイ」「ウイ」も「エー」と変化する。

(2) 母音の交替が見られる。

「イ」と「エ」の交替

カレル (借りる)

エレル (入れる)

サメシイ (寂しい)

メメズ (ミミズ)

「ア」と「エ」の交替

ソンネニ (そんなに)

「ウ」と「オ」の交替

ゾゾシイ (涼しい)

ムル (漏る)

「ウ」と「イ」の交替

イゴク (動く)

(3) [s] が [h] になる現象が指示代名詞に現れる。

ホーデス (そうです)

ホレダカラ (それだから)

(4) そのほか、次のような子音の交替が見られる。

[z] → [d]

ドーキン (雑巾)

[m] → [b]

サブイ (寒い)

ヒボ (紐)

(5) [ŋ] [r] などが脱落することがある。

ニー_二ヤカ (にぎやか)

ソイカラ (それから)

(6) 音節が促音化することがある

ウツパシル (うち走る)

ブツタタク (打ちたたく)

また、促音が加えられることがある。

イシツコロ (石ころ)

ソトツカワ (外側)

(7) 音節が撥音化することがある。

ケンドモ (けれども)

テンドー (手伝う)

イチンチ (1日)

また、撥音が加えられることがある。

トンビオリル (とび降りる)

アクセント

塩山市中萩原のアクセント体系は東京式アクセント体系と同じである。しかし、語彙によってはアクセントの異なるものがある。

中萩原

東京

アサヒカ°

アサヒカ° (朝日が)

イノチカ°

イノチカ° (命が)

スカ°タカ°

スカ°タカ° (姿が)

ナミダカ°

ナミダカ° (涙が)

ツケル

ツケル (漬ける)

マコ°カ°

マコ°カ° (孫が)

文法

(1) 否定形は、動詞の未然形に助動詞の「ン」「ナンダ」「ナー」をつける。

イカン (行かない)

イカナンダ (行かなかった)

イカナー (行かないよ)

(2) 未然形に「ズカ」「ツカ」がついて、自分の動作について相手の意向をたずねる表現になる。

イカズカ (行こうか)

イカツカ (行こうか)

(3) 連用形に「チョ」「ジョ」がつくと禁止表現となる。この後に終助詞「シ」が付加されることもある。

イッチョ (行くな)

イッチョシ (行くな)

(4) 仮定の表現は「受ければ」「見れば」と共通語で言うところが、「ウケリヤー」「ミリヤー」というように、接続助詞「バ」と融合する。「ジャー」の形もある。

カキヤー ヨカッタ (書けばよかった)

ハヤク ミリヤー ヨカッタ (早く見ればよかった)

ハヤク シルジャー ヨカッタニ (早くすればよかったのに)

ただし、カ行変格活用の場合は「コーバ (来れば)」となる。

打消の仮定を表す「ネバ」は、「行カネーバ (行かねば)」のように長音化する。

(5) 「来る」の命令形は「コー」となる。

ハヤク コー (早く来い)

(6) 共通語の「する」は、未然形「シ」、連用形「シ」、終止形「シル」、連体形「シル」、仮定形「シレ」、命令形「シロ」というように、上一段活用となる。

仮定の形は次のようになる。

ハヤク ヘンジョー シリヤー ヨカッタ

(早く返事をすればよかった)

ハヤク シレバ ヨカッタニ (早くすればよかったのに)

- (7) 推量の助動詞として「ズラ」「ツラ」「ラ」がある。

「ズラ」は動詞・形容詞の連体形、形容動詞の語幹、体言、助動詞の連体形などに接続する。

アメカ[。] フルズラ (雨が降るのだろう)

スイシャー マワシトーズラ (水車を回したのだろう)

イマー ヘー ネーズラ (今はもうないのだろう)

「ラ」は動詞・形容詞の終止形に接続する。

マダ オキテルラ (まだ起きているのだろう)

「ツラ」は過去の推量を表す。

アノトキ キイツラ (あの時間いただろう)

- (8) 断定の「ダ」は体言および動詞の連体形につく。

ソーユー コトン ヨクアルダ (そういうことがよくあるのだ)

ミズー クミー イクダ (水を汲みに行くのだ)

- (9) 過去・確認の「タ」、断定の「ダ」は、それぞれ「ト一」、「ド一」となることもある。

サキヤー スキダットト一 (酒は好きだった)

イソイデ イットトド一 (急いで行ったのだ)

カシテ モラットトド一 (貸してもらったのだ)

- (10) 文末表現として、「ジャン」がよく使われる。

アッタジャン (あったのだ)

ナンジューネンモ イノージジャン (何十年もいないのだ)

ナイテテ コマルジャンカ (泣いていて困るではないか)

- (11) 格助詞「ガ」「ノ」は撥音化する。

ゲンヤンチュー ヒトン アットー (源やんという人があった)

カジン アットートキ (火事のあった時)

- (12) 接続助詞「ケンド」「ケン」「ケード」は「ケレド」が変化したものであろう。ほかに、「ケレド+ガ」が変化した「ケーガ」「ケンガ」「ケレガ」「ケガ」もある。

イットケンド (行ったけれど)

オベーカ° アルダケン (覚えがあるのだけれど)

ハナシニ キクケード (話に聞くけれど)

ワスレチャット一ケーガ° (忘れてしまったが)

- (13) 終助詞「ケ」は体言・連体形につき、疑い・問い合わせ・反語・詠嘆・誘いを表す。

ホンナコトン アット一ケ (そんなことがあったのか)

- (14) 目的地を表す場合、格助詞「ヘ」が「ニ」より優勢である。

- (15) 人称代名詞の自称は「ウラ」「オラ」、対称は「オメー」「アンタ」をよく使う。

(以上の解説は、基本的に、『山梨県方言緊急調査報告書』(山梨県教育委員会、1983年)による。)

山梨県塩山市1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるよう、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「一」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。 (句点) 〈全角〉

ポーズがあつて、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

 そうです。 そうです。

、 (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていらないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなつても、読みやすさを優先して、取り去つた場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A …….) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

* * * 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

／＼＼ 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼー／ モジナンデスナ、

／＼＼＼ 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意訳であることを示す。

例：イマ ュー

今 いう [=今話題にあがつた]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して |

[] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・

共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「山梨10-1」は CD トラック番号が10で、その1ページ目ということである。「山梨10-1」「山梨10-2」……「山梨10-6/11-1」……「山梨22-6」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

[↑10], [10↑11], …… [21↑22], [22↑] のように表示される。

第8巻のCD（69分11秒）には、山梨県塩山市の談話、【ほうとう、食べ物】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
10	p.76・ℓ.1	p.81・ℓ.9	0:02:04
11	p.81・ℓ.11	p.86・ℓ.15	0:02:06
12	p.86・ℓ.17	p.91・ℓ.3	0:02:04
13	p.91・ℓ.5	p.96・ℓ.15	0:02:04
14	p.96・ℓ.15	p.101・ℓ.15	0:02:01
15	p.101・ℓ.15	p.107・ℓ.15	0:02:03
16	p.107・ℓ.15	p.112・ℓ.7	0:02:02
17	p.112・ℓ.7	p.117・ℓ.11	0:02:03
18	p.117・ℓ.11	p.123・ℓ.3	0:02:02
19	p.123・ℓ.5	p.128・ℓ.19	0:02:02
20	p.128・ℓ.19	p.134・ℓ.1	0:02:04
21	p.134・ℓ.3	p.139・ℓ.7	0:02:03
22	p.139・ℓ.9	p.144・ℓ.3	0:01:58
計			0:26:36

山梨県塩山市1978談話

収録地点 山梨県塩山市中萩原

収録日時 1978(昭和53)年10月19日

収録場所 山梨県塩山市中萩原 慈雲寺

話題 ほうとう、食べ物

話者

- A 女 1907(明治40)年 (収録時71歳)
- B 男 1915(大正4)年 (収録時63歳)
- C 男 1896(明治29)年 (収録時82歳)

調査者

- D 男 高等学校教諭
- 男 (収録談話中に発話なし) 図書館司書

収録時間 (CD) 26分36秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、『山梨県方言緊急調査報告書』(山梨県教育委員会編集・発行、1983(昭和53)年3月31日)が作成されている。

【ほうとう、食べ物】

話し手

- A 女 明治40年生 (収録時71歳)
B 男 大正4年生 (収録時63歳)
C 男 明治29年生 (収録時82歳)
D 男 昭和22年生 (調査者)

1 A : ダケンド オホートー[1]ワ チョット ウスメニ シテ、
 だけど ほうとうは ちょっと 薄めに して、

[↑10]

ソレデ キッ キッ タイラニ ノシタ[2] ヤツオ、
それで ×× ×× 平らに 押し広げた やつを、

コンダ タタンデ、 ホイデ ホーチョーデ キッテクノ。
今度は 疊んで、 それで 包丁で 切っていくの。

ホーチョーデ キッテ。 ホイデ[3] ソレニ モー ヤサイオ
包丁で 切って。 それで それに もう 野菜を、

アノー オッキー ナベー エレテー[4] ニテルノ、 ヤサイオ。
あのう 大きい 鍋に 入れて 煮ているの、 野菜を。

ソレワ ヤサイワ カブチャオ イレタリ、 ニンジンオ イレタリ
それは 野菜は かぼちゃを 入れたり、 にんじんを 入れたり

ソレー シ シロイモオ イレタリ シテ、 ソイデ アノー
それへ × 里芋を 入れたり して、 それで あのう

山梨 10-2

ニタ トコエ ソノ一 キッタ オホート一オ イレテ、
煮た ところへ そのう 切った ほうとうを 入れて、

ハイデ ソレデ ニルダケド[5]
それで それで 煮るのだけれど、

ハイデ ネキ[。]ワ モー アトデ イレテ ミソモ イレテ。
それで ねぎは もう 後で 入れて 味噌も 入れて。

ソレデ オホートワ ソレデ デキル。
それで ほうとうは それで できる。

2 C : ソリヤ マー、
それは まあ、

3 B : オレタチダッテワネ、 メーデ[6] (A エー)
俺達だってね、 ほら (A ええ)

オレタチワネー オトコッキョーダイカ[。] オーイズラ ? [7]
俺達はねえ 男兄弟が 多いだろう？

(A エー) ネ。 ダカラ デッチテ[8] モレーバ[9]ネー、
(A ええ) ね。 だから こねて もらえればねえ、

(A エー) ノスナンカネー、
(A ええ) 押し広げるのなんかねえ、

オン[10] ノ ノシテ ヤッタダヨ。
俺、 × 押して やったんだよ。

山梨 10-3

ノシテ テンダッタ[11]ダヨ、 オ オフクロサンニ。
押し広げて 手伝ったんだよ、 × お袋さんに。

オフクロサンニ ノシテ テンダッタヨ。 (A ヘー)
お袋さんに 押して 手伝ったんだよ。 (A ヘえ)

コーエーノネー、 ノシイタッテネ、
こういうのね、 のし板ってね、

コーエーナ イタカ[。] アル ツチュー[12] ワケダ。
こういうような 板が ある という わけだ。

コレエネー イマノヨーニネー、 デッチタノネー、
これにねえ いまのようになえ、 こねたのねえ、

コーエーナ ヤツオネ、 ヤッテ、 (A タマオ シテ)
こういうような やつをね、 やって、 (A 玉を して)

コーエー ノシンボーッテネ、 マルイ ボーデネ、
こういう のしん棒ってね、 丸い 棒でね、

コ一 ヤッテ[13] ジュンニ ノス、
こう やって 順に 押し広げる、

アノ、 ヒロケ[。]ルッチュー ワケダ、 ネ。
あの、 広げるという わけだ、 ね。

ホイデ ツキ[。]ニワ アノー チット ヒロカ[。]レバネ、
それで 次には あのう ちょっと 広がればね、

コー カランデネ

こう 絡んでね、

ホシテ コーユーフーニ ヤッテネ、 コー ヤッテ、
そして こういうふうに やってね、 こう やって、

ホイデ テーラニ ノスッチュ一 ワケダ。 ネ。
それで 平らに 押し広げるという わけだ。 ね。

ホイデ コンダ コッチ ヤッタラ コッチ ヤッテ、
それで 今度は こっち やつたら こっち やって、

ソ一 シテ オレタチダッテ ソ一 ヤッテ
そう して 俺達だって そう やって

コセール テンダッタダヨ、
こしらえる[のを] 手伝ったんだよ、

オトコッキョーダイカ。 オ一カ オ一カッタカラ。
男兄弟が ××× 多かったから。

オレワ ソーリョーダカラネ、
俺は 惣領[=長男]だからね、

オ オフクロサンニ テンダッタダ。 (A ヘ一)
× お袋さんに 手伝ったんだ。 (A ヘえ)

ホーシテネ、 オホートッチュ ヤツワネ、
そうしてね、 ほうとうという やつはね、

山梨 10-5

イマノ ニコミダカラネ、 イナカデモッテネ、 (C ウン)
今の 煮込みだからね、 田舎でもってね、 (C うん)

イナカノ アカミソデネ、
田舎の 赤味噌でね、

ヨク オデージン[14]ノ ミソ ト イッテネ、
よく 「お大尽の 味噌」と 言ってね、

イクネン[15]モ タッタ ミソノ
何年も たった 味噌の[=は]

ナ ヨク ナレテ クルカラネ、 (C ウン)
× よく なれて くるからね、 (C うん)

イマデノーワ[16] イチネンク°レーデモッテ
今のは 1年ぐらいで

タベチモー[17]ケンドネ、
食べてしまうけれどもね、

フンダカラ イロカ° シロイ ッチュ ワケダ、
そうだから 色が 白い という わけだ、

アカイ ミソワ、 (C ウーン) ネ、
赤い 味噌は、 (C ううん) ね、

アジワ ワルクワ ネーケンドモ、 ムカシノ ホンダカラネ
味は 悪くは ないけれども、 昔の それだからね、

オホートーイ コセールニヤー ネ、
ほうとうを こしらえるには ね、

ムカシノ ジミソノ アカイネー、
昔の 地味噌の 赤いねえ、

イクネンモ タッタヨーナ ミソデ ヤレバ、 ネ、
何年も たったような 味噌で やれば、 ね、

オフクロノ アジ トイッテネ、 (C {笑}) ソノ、 ネ、
「お袋の 味」と言ってね、 (C {笑}) その、 ね、

ソノ ミソシルノ アジカ°、 マタ、 ベツ。 ネ。
その 味噌汁の 味が、 また、 別。 ね。

[10↑11]

4 A : ソノ ミソー ミンナ ウチデ ツクッテネ。
その 味噌を みんな うちで 作ってね。

5 B : ミンナ ツクッタダカラネ。
みんな 作ったのだからね。

6 A : エー ウチデ ツクッテ、 ソレデ アノー、 マー、 ニネン、
ええ うちで 作って、 それで あのう、 まあ、 2年、
ニネンカ サンネンカ° イチバン オイシー トコデ。
2年か 3年が いちばん おいしい ところだ。

7 B : ホーダ。 オ オラカ°タダーネー、 (A ハハ一) ホラー、
そうだ。 × 僕のところではねえ、 (A ははあ) ほら一、

山梨 11-2

シッテルヨーニ ジューニンク[°] ラシダカラネー (A エー ソー)
知っているように 10人暮らしだからねえ、 (A ええ そう)

ショーユオケナンカ モー コンナノー デカイ ヤツカ[°]、
醤油桶なんか もう こんなもの 大きい やつが、

イマモ アルケンドネ、 ミソオケドーッテモ [18]
今も あるけれどもね、 味噌桶だっても

デカイガ[°] アルッチュ ワケダ。 (A ソー)
大きいのが あるという わけだ。 (A そう)

デ ホンデネー アレカ[°] キ キソノネ アノー カイドーガ[°]
で それでねえ あれが × 木曽のね あのう [木曾] 街道が

ア一 ュー トコノダカラネー、 イーモン チュー ワケダ、
ああ いう 所のだからねえ、 いいもの という わけだ、

ナンボ ヒナタニ オイトッテ [19] ネ、
いくら 日なたに 置いたってね、

イッソー [20] クルワンダヨ。
少しも 狂わない [=曲がらない] んだよ。

ダケンド (A キソノ サワラデ)
だけれども (A 木曽の さわらで)

ツカワンニヤー モッテーネー モシチマーカ ト
使わなければ もったいない、 燃やしてしまおうか と

山梨 11-3

オモーケンドネー、 イッソ イマワ ツカワンダカラネ、
思うけれどもねえ、 全く 今は 使わないのでからね、

ソリヤ ミンナ アカイ ミソダ。 {笑} ネ。 (B {笑})
それは みんな 赤い 味噌だ。 {笑} ね。 (B {笑})

ホイデ アユ アノー オレタチモネ ャッパ ソーユーノネ
それで ×× あのう 俺達もね、 やはり そういうのね

オホートー ジョーショクデネ アー クッタワケダケンドモ、
ほうとうを 常食でね、 ああ 食ったわけだけれども、

ソノー ホートーノ アジワネー タシカニネ アノ ヨク一
そのう ほうとうの 味はねえ、 確かにね あの よく

オキヤクン[21]ナン イクトネ、 ジョ ジョーショクノ
お客様なんて 行くとね、 ×× 常食の

オホートーナン ダスダケンカ ッテ
ほうとうなんて 出すのだけれどもか [=出せるか] って

イッショーケンメー、 ネ、 コセーテ クレルラ[22] ウドンオ。
一生懸命、 ね、 こしらえて くれるだろう、 うどんを。

オリヤー ソンナ モナー ウドンドーッテネ
俺は そんな ものは うどんだってね、

ホリヤ ウドンワ ウドンノ アジダケンドモネ
そりや うどんは うどんの 味だけれどもね、

山梨 11-4

ウドンノ アーユー オメンルイ[23] ッチュ ヤツワネ
うどんの ああいう 麺類 という やつはね、

コリヤー ホントーニ オツユノ アジッチュー ワケダ。ネ、
これは 本当に おつゆの 味という わけだ。ね、

オツユノ アジカ。 ウマクナクネーバ[24] ヘー[25] ダメダ。
おつゆの 味が うまくなければ もう だめだ。

ソレヨリワネ、 ホンナ モノ コセールヨリヤーネ、
それよりはね、 そんな もの[を] こしらえるよりはね、

オホートーカ。 イーズ ッテ
ほうとうが いいぞ って

オリヤー コッチカラ ュー ッチュー ワケダヨ。
俺は こっちから 言う という わけだよ。

マタネー ゴトゴトゴトゴトネー (A イロイロネ)
またねえ グツグツグツグツ[と]ねえ (A いろいろね)

イロイロネー ムカシッカラ ヤセーボーッ、 ン
いろいろねえ 昔から 野菜ほうとう、 ん、

(A ヤセーボートー ッテ) カボチャノ、 カ カボチャノ
(A 野菜ぼうとう って) かぼちゃの、 × かぼちゃの

ンー ホートー ッチュ ヤツワネ、 ウマイモンナラ
うん ほうとう という やつはね、「うまいものなら

山梨 11-5

(C ウマ アー ソー ソー) (A チャ**)

(C ×× ああ そう そう) (A //**)

カボチャノ ホートー ッチュークレー、
かぼちやの ほうとう」 といいくらい、

ウマイ カボチャー イレトー オホートーナンカ
うまい かぼちやを 入れた ほうとうなんか

マタ コテーラレンダカラネ。
また こたえられないのだからね。

フンダカラ、 オホートーデ インケンダトカ シロイモダトカネ、
そうだから、 ほうとうで いんげんだとか 里芋だとかね、

ホイ サツマイモモ アルシネ、
ほら さつまいもも あるしね、

カズ一 ョ ヨッケ オ オホートー イレレバ、 ネ、
数を × 余計 × ほうとう[に] 入れれば、 ね、

ヤサイオ イレル ホーガ° イー ッチュ ワケダヨ。
野菜を 入れる 方が いい という わけだよ。

ホーユー コン[26]デネ、 オレワ オキャクニ イッテモネ
そういう ことでね、 俺は お客様に 行ってもね、

へー ウドンナン コサエテ クレナー[27]。
もう うどんなんて こしらえて くれない[=くれるな]。

オホートーデ イーワ[28] ッテ。 マタ ウマイモノ、 ネ。
ほうとうで いいわ って。 また うまいもの、 ね。

ニコミノ オホーット一 ッチュ ヤツワ。
煮込みの ほうとう という やつは。

(A ウン、 ウマイ。 ソレコソ) (C ソレオ)
(A うん、 うまい。 それこそ) (C それを)

カラダノ タメニモ ホンダー (A エー)
体の ためにも そうだ、 (A ええ)

イー ッチュー ワケダヨ。
いい という わけだよ。

8 C : ソノ ホートーオ ムカシワ ソノ ジョーショクニ
その ほうとうを 昔は その 常食に

シトーダケン イチンチニ ューカタ イッカイク[°] レーワ
したのだけれども 1日に 夕方 1回ぐらいは、

へー ヨルワ カナラズ ソノ クッタク[°] ライノ モンダカラ、
もう 夜は 必ず その 食ったぐらいの ものだから、

ソノ一 コナモ タクサン ツクットカネー[29] イカンシ、
そのう 粉も たくさん 作っておかなければ いけないし、

[11↑12]

ソノ ヤサイモー タクサン アテトカネーバ[30] コマル。
その 野菜も たくさん 用意しておかなければ 困る。

山梨 12-2

ソノ スコシバッカノ ヤサイジャ タチマチ ナクタッチモー。
その 少しばかりの 野菜では たちまち なくなってしまう。

フンダカラ カボチャナンカモ モー、 ソノ、
そうだから かぼちゃなんかも もう、 その、

オラントコラジャ カボチャダナナンチュー コシラエテネ
俺のところあたりでは かぼちゃ棚なんていう[ものを] こしらえてね、

ソーシテ ソノー ナカ°キデモッテ チャーント タナー ツクル。
そうして そのう 長木でもって ちゃんと 棚を 作る。

ソノ タナエネー、 カボチャオ ミンナ
その 棚へねえ、 かぼちゃを みんな

ツルシテネ、 ソレオ (A タノシンデル {笑}) ソノ
つるしてね、 それを (A 楽しんでる {笑}) その

トキバッカ タベルジャ ナクテ ズーット フユニ ナッテモネ
時だけ 食べるのでは なくて ずっと 冬に なってもね、

(A・B {笑}) ソレオ チャーント ソノー タカイ トケー
(A・B {笑}) それを ちゃんと そのう 高い ところへ

エ ケケテ[31] シマットイテ、 コダシニ シテ
× のせて しまっておいて、 小出しに して

タベルク°ライニ シタ。 ソレカラ サツマイモナンゾモネ
食べるぐらいに した。 それから さつまいもなんかもね

山梨 12-3

ソノ トッタ トキ タベルデ ナクテ、 イモアナト ユーノオ
その 採った 時 食べるのでは なくて、 芋穴と いうのを

ミンナ ヘー ツクットイテ
みんな もう 作っておいて

ソレエ ヘー チャーント クサラセンヨーニ ヘー
それへ もう ちゃんと 腐らせないように もう

アノ スクモ[32] ト ユーノオ イレテネ、
あの すくも と いうのを 入れてね、

コリヤー コムキ^ノ カラダ、
これは 小麦の 賀だ、

ソリヨー イレテ ソーシテ ヌクヌクサセテネ
それを 入れて そうして ぬくぬくさせてね、

アナン[33] ナカエ ホカンシテ ソーシテ シマットイテ
穴の 中へ 保管して そうして しまっておいて

ソレオ コダシニ シテ タベタ。
それを 小出しに して 食べた。

サトイモモ タダ オイトージャ ジキ クサッチモーカラ
里芋も ただ 置いたのでは すぐ 腐ってしまうから

フカイ アナー ホッテ、 ソレー イケテ[34] ソーシテ マー
深い 穴を 掘って、 それへ 埋めて、 そうして まあ

山梨 12-4

シマットイタ モンダ。 ホーシテ コダシニ シテ、 ホートーモ
しまっておいた ものだ。 そうして 小出しに して、 ほうとうも

カナリ ムカシ セーセー〔35〕 タベタモンダッタネ。 {笑}
かなり 昔 たくさん 食べたものだったね。 {笑}

9B：カボチャナンカ モー アノ コロワ ミンナ ホラ
かぼちゃなんか もう あの 頃は みんな ほら

カボチャダナ ツテネ ミンナ タナー ツクルダッタダヨ
かぼちゃ棚 ってね、 みんな 棚を 作ったんだよ、

ホースリヤ ホラ (A オッキー タナー) (C ンー)
そうすれば、 ほら (A 大きい 棚) (C うん)

ニワエ ヒカ[。] アタルカラネ。 ヒヨケニモ ナッタ。
庭へ 日が 当たるからね。 日除けにも なった。

(C ウン ブドーダナミタイダッタ)
(C うん ぶどう棚みたいだった)

10A：ソーレコソ オッキー タナデネ、 コ ド ドコノ ウチデモ
それこそ 大きい 棚でね、 × × どこの 家でも

ミーンナ タナデ。 **
みんな 棚で。 **

11C：ニワニ ソヤッテネ、 ソレカ[。] ヒヨケニモ ナッタリ、
庭に そうやってね、 それが 日除けにも なったり、

リヨートクダッタ。

両得だったんだ。

12A：ヒヨケニ シタリスルシ (C ウーン) ソコエ。

日除けに したりするし (C うーん) そこへ。

ソイデ ソノ一 オホートー ツクルニヤ ヤッパシ コムキ[°]オ
それで そのう ほうとうを 作るには やはり 小麦を

ア タンボエ ミンナ ツクッテ、 ソレオ一 アノ一
× 田んぼへ みんな 作って、 それを あのう

ヨッチョイク[°]ルマ[36] ッテ ュー クル アノ一
「よっちょいぐるま」 って いう ×× あのう

クルマヤ[37]カ[°] アッタ。

水車小屋が あつた。

13C：スイシャ スイシャコ[°]ヤデネ。

水車 水車小屋でね。

14A：スイシャコ[°]ヤカ[°]。 スイシャノ。 ソレデ アノ一 モ一 ソレ
水車小屋が。 水車の。 それで あのう もう それ

ヒツキニ イッカイワ マワッテ クルノ、
ひと月に 1回は 回って くるの

アノ、 キョーワ ドコノ バン、 ドコノ バン ツッテ、
あの 今日は どこの 番、 どこの 番 といつて、

山梨 12-6/13-1

ホイデ ソノ バンノ トキヤ アサ ハヤクッカラ
それで その 番の 時は 朝 早くから

ユーガ[。]タマーデ コムギ[。]オ ヒキドーシ コナー ヒーテ、
夕方まで 小麦を 挽き通し 粉を 挽いて、

12↑13

ソレデ アノー、 コナー ヒーテ ソリヨー
それで あのう、 粉を 挽いて それを

ヒ ヒトツキジュー ソノ タベルホド ヒイテル チュー ワケダ。
× ひと月中 その 食べるほど 挽いている という わけだ。

コメオ ツイテ コナオ ヒーテ。
米を 搗いて 粉を 挽いて。

15C : ドーリョクノ セーメーキナン ナカッタカラネ、
動力の 精米機なんて なかったからね、

(A イマワ エー イマワ ソー**)
(A 今は ええ 今は そう**)

コットンコットンコットンコットンテネー ミンナネ アノ、
コットンコットンコットンコットンとねえ、 みんなね あの、

16A : ソレコサ ソレガ[。] コメオ ヒクガ[。]
それこそ それが 米を 挽くが

(C イシオス[38] ッチューデ ヒータダ)
(C 石臼 というもので 挽いたのだ)

エライ [39] ダヨ

大変なのだよ

アサッカラ、 ユーカ[。] タマーデ ゴットゴトゴトゴト、
朝から、 夕方まで グツグツグツグツ[と]、

オーゼー／ノ ウチホド エライ。
大勢の 家ほど 大変だ。

ミンナ ソノ オーゼー／ノ シ [40] カ[。] タベル ヤツオ、
みんな その 大勢の 人が 食べる やつを、

17C : コナデ カオナン マッシリニ ナッチャッテネ、
粉で 顔なんて 真っ白に なってしまってね、

オシロイ ヌッタヨーニ。 {笑} (A イッカイツ) ン一。
おしろい[を] 塗ったように。 {笑} (A //) うん。

18A : ホーシテ マッタクネー (C ソー ン)
そして まったくねえ (C そう うん)

アレダヨ、 ワスレモセン
あれだよ、 忘れもしない、

アノー オッキー ハラノ トキニ
あのう 大きい 腹の 時に [=妊娠中に]

アノー、 アソコデ ヒーテタラ X1ノ オバサンカ[。] ネー[。]
あのう、 あそこで 挿いてたら X1の おばさんがねえ、

山梨 13-3

(C アー) キューリオ モッテキテネ

(C ああ) きゅうりを 持って来てね、

オバサンワ デカイ ハラデネー コンナー イ ア アツイ トキニ
「おばさんは 大きい 腹でねえ、 こんなに × × 暑い 時に

エライカラ ナンテ キューリ ミゾー ツケテキテ、
大変だから」 なんて きゅうり[に] 味噌を つけて来て、

ホイデ コレオ タベナガ[°]ラ ヒケシ[41] ッテ
それで 「これを 食べながら 挽きなさいよ」 って

イマノ オバサンガ[°]ネ、 ソノ {笑}
今の おばさんがね、 その {笑}

キューリエ ミゾー ツケテ モッテキテクレテ、
きゅうりに 味噌を つけて 持って来てくれて、

マッタク イマモ ワスレラレンネー、 {笑} ソンナ コン、
まったく 今も 忘れられないねえ、 {笑} そんな こと、

(C オラダチモ コドモノ コロ) ソレオ タベナガ[°]ラ、

(C 俺達も 子どもの 頃) それを 食べながら、

19C : コドモノ コロネ ソノ スイシャエ イッタダ。 (A フン)
子どもの 頃ね その 水車へ 行ったんだ。 (A ふん)

ソーシテ コットンコットン ヤレ ッチューカラ
そして コットンコットン やれ [=粉を挽け] と言うから

山梨 13-4

ヤッテタケン ソノウチニネ
やっていたのだけれども そのうちにね

ウ一 ウットリ ネーッチャッタダ。
×× うとうと 寝入ってしまったんだ。

ソーシタトコロカ°
そうしたところが[=したら]

ウエニ アノ一 イショースノ ウエニ アルネ コムキ°カ°ネ
上にあのう 石臼の 上にあるね、 小麦がね

カラニ ナッテ カラマワシオ ガラガラガラガラ ッテ一テネ
空に なって 空回しを ガラガラガラガラ つていってね、

ナンダ コンナ コンジャ ダメジャネーカ ナンツッテネ、
「何だ、 こんな ことでは だめではないか」 なんて言ってね、

オコラレタ コトモ アッタケンドネ。
怒られた ことも あったけれどもね。

20B：ホーシテ X2サンノ アノ オフクロサンズラ？
そうして X2さんの あの お袋さんだろう？

アレー ホラ カ カラマッタジョン[42]。
あれへ ほら、 × からまつたじやないか。

ムカシャー キモノー キテテ ヤッタダカラネ。
昔は 着物を 着ていて やったんだからね。

21C : ソー ソー。

そう そう。

22A : ナンダッケ。

なんだっけ。

23B : コーヤッテ、

こうやって、

24C : ソデオ ヒカレテネー、(B ネ)

袖を 引かれてねえ、(B ね)

シンジヤッタ ヒトガ° アル、ソノ クルマヤノネ。

死んでしまった 人が ある、その 水車小屋のね。

25B : クルマノ ワエ、コノ ネー

車の 輪へ、この ねえ

(C ハク°ルマニ、ハク°ルマエ カマレチャ)

(C 歯車に、歯車へ かまれた)

イショース イシウスッテネー、イショースト イッテネ

石臼 石臼ってね、石臼と いってね、

グルグルグルグルネ コー ハデモッテ コ マワッテクルダネ、

グルグルグルグルね、こう 歯でもって × 回ってくるんだね、

コー コーデ[43]、ソレエネー、

こう、こうで、それへねえ、

(A ムカシワ コーユー ホラ) ムカシワ キモンデ
(A 昔は こういう ほら) 昔は 着物で

(A キモンデ タモトダカラ、 フンダカラ コレカ° ホラ)
(A 着物で 術だから、 そうだから これが ほら)

イマデノヨーナ フクデ ヤランカラネ。
今のような 服で やらないからね。

ン コレカ° ヒッカラマ
うん これが //

26A : ダカラ タスキオ カケテ ャッテルダケンド
だから 檻を 掛けて やっているのだけれども

コレカ° カラミツイチャッテ。
これが からみついてしまって。

イマデノヨーナ コー ュー カッコジャ イーケドネ、
今のような こう いう 格好では [=だと] いいけれどもね、

キモノデ タモトダカラ。 イロイロネー。
着物で 術だから。 いろいろねえ。

13↑14

27C : ソレカラ セーメーキカ° デルヨーニ ナッテッカラワ
それから 精米機が 出るように なってからは

へー ダンダン ホートーモ アンマリ タベンヨーニ
もう だんだん ほうとうも あんまり 食べないように

ナッチャッテ。
なつてしまつて。

28A：ツクランヨーニ ナッタカラワ。
作らないように なつたから。

29C：ア一 ツクランヨーニ ナッタ。
ああ、 作らないように なつた。

30A：ツクランヨーニ ナッタカラ。 (C ウン)
作らないように なつたから。 (C うん)

ダカラ イマ タベルジャ[44] カッテネ、
だから 今 食べるなら 買ってね、

ヤッパシ マダ ツクッテル、 ウチアタリ。
やはり まだ 作っている、 うちあたり[では]。

アツ アノ一 フクロデ コナー カッテキテ、
×× あのう 袋で 粉を 買って来て、

ソレデ ヤッパシ ネッテネ、 ホイデ イマワ アノ
それで やはり 練ってね、 それで 今は あの、

キカイデ コンダ ノスノ、 キカイデ コーユー。
機械で 今度は 押すの、 機械で、 こういう[ように]。

ナカ一 イレテ ヤレバ コ一 マーッテ。
中に 入れて やれば こう 回つて。

山梨 14-3

31C：ホーシテ ソノ コロダ オネリモ ソノ コロ、
 そして その 頃だ、 おねりも その 頃、

ソノ ジダイニ ハヤッタ ヤッパリネ。
 その 時代に はやった、 やはりね。

オネリト ユーノモ ヤッパリ タダ ゲンリョーワ
 おねりと いうのも やはり、 ただ 原料は

モロコシノ コナ ツチュー コトデ、
 とうもろこしの 粉 という ことで、

ホートーワ コムキ[°]ノ コナダケンド、
 ほうとうは 小麦の 粉だけれども、

オネリワ カナラズ モロコシノ コナダ。
 おねりは 必ず とうもろこしの 粉だ。

モロコシノ コナオ エレテ、
 とうもろこしの 粉を 入れて、

ヤサイワ ヤッパリ イマ ユー カボチャトカ イモトカネ、
 野菜は やはり 今 言う かぼちゃとか 芋とかね、

サトイモ、 ジャガ[°]イモ、 ソーヨーヨーナ モノオ イレテ、
 里芋、 じゃがいも、 そういうような ものを 入れて、

ソーシテ ソレオ、 ヤサイノ ニエタ トキニ コナオ オトシテネ
 そして それを、 野菜の 煮えた 時に 粉を 落としてね、

山梨 14-4

チョード テキトーニ、 ネ ネルダケド、
ちょうど 適當に、 × 練るのだけれども、

ホイデ グツグツ ネルカラ オネリ ッテ。
それで グツグツ 練るから おねり って[いう]。

32B : ホシテ ネ ネ ネリンボー ッテネ (A ネリンボー)
そして × × 練りん棒 ってね、 (A 練りん棒)

コーウーノネ、 アノ マナ マナマシ[45] ッテ
こういうのね。あの ×× 真魚箸 という

コー タケオネー フトク キッタヨーナノデネ、
こう 竹をねえ、 太く 切ったようなのでね、

コンデノ ヤツ ヤル ヤル
このぐらいの やつ[を] やる、 やる

ニホン ャッテ ヤル イエモ アルケンドネ、
2本 やって[=使って] やる 家も あるけれどもね。

ホントニネー オーゼイク°ラシナンカジャネー
本当にねえ 大勢暮らしなんかではねえ、

ネリンボー ッテネ コーウー マルイ {笑} ポーデモッテネ、
練りん棒 ってね、 こういう 丸い {笑} 棒でね、

コー ネル ッチャーワケ、 カマデ。
こう 練る というわけ、 釜で。

山梨 14-5

ホーシテ ネルホド ウマイ ッチュ ワケダヨ、
そうして 練るほど うまい という わけだよ、

ホシテ ヤセーオネ タクサン イレルホド ウマイ ッチュ ワケダ、
そうして 野菜をね たくさん 入れるほど うまい という わけだ、

(A オイシーデスヨ) ネ、 (A ソレコサ) アノ
(A おいしいですよ) ね、 (A それこそ) あの

カボチャニシロ、 ネ、 (C ア) イモデモ (A シロイモ)
かぼちゃにしろ、 ね、 (C あ) 芋でも (A 里芋)

サツ ア サツマデモ シロイモデモ
×× × さつまいもでも 里芋でも、

(A シロイモ タクサン ン)
(A 里芋 たくさん うん)

ネ、 マ ソーユー ダイタイ モンダケンドネ、 コンダ
ね、 ま そういう だいたい ものだけれどもね、 今度は

ホラ、 (D モチワ) イ インケ°ントカ ソーユー モノワ
ほら、 (D 餅は) × インゲンとか そういう ものは

イレン チュ ワケダ、 オネリワ。 (A モチワ イレナイノ)
入れない という わけだ、 おねりは。 (A 餅は 入れないの)

オネリワネ カボチャトネ、 コンダ モロコシノ コナト、 ネ、
おねりはね かぼちゃとね、 今度は どうもろこしの 粉と、 ね、

カボチャト、 サキニ、 ニ ニルカ。 カボチャト、 ネ、
かぼちゃと、 先に、 × 煮るのが かぼちゃと、 ね、

イモト、 コンダ シロイモ、 サトイモト、
芋と、 今度は 里芋、 里芋と、

サツマミターナ イモ ッチュ ワケダ、 ネ、
さつまいもみたいな 芋 という わけだ、 ね、

ソイツオ ヨーク ニテ、 ソレー コンダ、 ネ、
そいつを よく 煮て、 それへ 今度は、 ね、

カナリ ニエタッテッカラ アノー
かなり 煮え立ってから あのう

(A ス スコ ニエタ トコエ
(A × ×× 煮えた ところへ

スコーヒズツ コー オトシテクノ)
少しづつ こう 落としていくの)

コナオ エレナガ^アラ コノ イマ ネリ ネリモチオ、
粉を 入れながら この、 今 ×× 練り餅を、

14↑15

ネ ネリンボー ダ、 ネリ オネリ ト イッテ
× 練りん棒 だ[から]、 ×× おねり と 言って

コー ネリコシ[46]ダ オネリ ト イッタ。 {笑}
こう ねりこしだ[から]、 おねり と 言った。 {笑}

33A：ソレワ モーネ、

それは もうね、

34C：ソレオ アッタカイ ウチニ タベル。

それを 温かい うちに 食べる。

35B：マタ ウマカッタネー。

また うまかったねえ。

36C：ヒエチャ一 マズイ。

冷えては[=冷めては] まずい。

37A：ソレガ°ネー モー モチノヨーニ ナッチャウノ、

それがねえ もう 餅のように なってしまうの、

ネルト、 コーユーヨーニ モチノヨーニ。

練ると、 こういうように 餅のように。

ホイデ ウチアタリワ オトコカ° ロクニン アッテネ、

それで うちあたりは 男[の子]が 6人 いてね、

ホイテ オンナカ° サンニンデ クニンダッタデスヨ、

そして 女[の子]が 3人で 9人だったんですよ、

ホイダカラ ジューイチニン、 オヤン マーシテ[47]

それだから 11人、 親を 加えて

ジューイチニンカゾクテ、 ホイデ オネリオネ

11人家族で、 それで おねりをね、

カマデ ネルノ イッショーカ[。]マデ。
釜で 練るの、一升釜で。

ユーユー オッキー カマデ。
こういう 大きい 釜で。

ソレデ ネルダケドネー アサー ハヤク オキテ
それで 練るのだけれどもねえ 朝 早く 起きて

ヒッシー コーヤッテ イチバン
必死に こうやって いちばん[に]、

ソレオ タベナキヤ モーネ、アサー、
それを 食べなければ もうね、朝、

38C：アサノ ショクジダッタヨ。
朝の 食事だったよ。

39A：アサ アサノ ショクジノ ヒツニ ナッテルカラ。
×× 朝の 食事の 一つに なっているから。

ホイデ ネッテルト コンダ コドモカ[。] オキテキテネー、
それで 練っていると 今度は 子どもが 起きて来てねえ、

アノー オカーチャン オンニモ ネラシテクリヨー[48]
あのう 「お母ちゃん 僕にも 練らしてくれよ

オンニモ ネラシテクリヨー (C {笑}) ッテネ
僕にも 練らしてくれよ」 (C {笑}) ってね、

山梨 15-4

ウント コドモカ。 ミンナ スキデネ ソレオ、
うんと 子どもが みんな 好きでね それを。

ホイデネ、 サンニンク[°]ライネ コドモカ。 キテネ
それでね、 3人ぐらいね 子どもが 来てね、

ジュンジュンニ コー ネッテクレルノ、
順々に こう 練ってくれるの、

ホイダケン トナリノ ウチデネ ミエル ッチュー ワケ
ただけれども 隣の 家でね、 見える という わけ。

コーヤッテ ネッテルト
こうやって 練っていると、

ター[49] トナリノ ウチデ ミテルカラ
「まあ 隣の 家で 見ているから

オマン[50] ソコ ハヤク シメテーテ ネッテクリョーや
おまえ そこ[を] 早く 閉めといて 練ってくれよ」

ッテネ ホラ ユージャン。 {笑}
ってね ほら いうしか[ない]。 {笑}

アノ ホイデ アノー コドモカ。 シメテネ
あの それで あのう 子どもが 閉めてね。

サンニンデ、 サンニンク[°]ライデ ウント ネルノ。
3人で、 3人ぐらいで うんと 練るの。

ソーシル[51]ト ソレカ[。] モー モチノヨー。
そうすると それが もう 餅のよう。

ホントニ モチノヨー。 ネバッテ。 (D アー)
本当に 餅のよう。 粘って。 (D ああ)

ソノ オイシーナンテ イッタラ
その おいしいなんて いたら

マッタク イマモネ ワスレラレング[。]ライ オイシイノ。
まったく 今もね 忘れられないぐらい おいしいの。

40B : ネルダケ ウマイカラネ。 (C ソレデ)
練るだけ [=練れば練るほど] うまいからね。 (C それで)

41A : ホイデ イマ タベタラネ、 モー ノド トーラン。
それで 今 食べたらね、 もう のど[を] 通らない。

マズクテ。 {笑} (B・C {笑}) イマジヤ。
まずくて。 {笑} (B・C {笑}) 今じや。

ネルホーモ、 **
練る方も、 **

42C : イマジヤ ゲンリョーカ[。] ナイカラ、
今では 原料が ないから、

43A : ゲンリョーカ[。] スクナイカラ、
原料が 少ないから、

44C：ナイダ。
ないんだ。

45A：フンダカラ、 ソノ
それだから、 その

46C：モロコシナン ナイカラダ。
どうもろこしなんて ないからだ。

47A：ムカシノ ソノ オイシー アマミモ ナンニモ ナイ。
昔の その おいしい 甘みも 何も ない。

48B：ソレガ[°] ホラ、 カボチャ、 ウー アー ネ、 (A エー)
それが ほら、 かぼちゃ、 ×× ×× ね、 (A ええ)

ウマイ カボチャトネー、 (A エー) アノー、
うまい かぼちゃとねえ、 (A ええ) あのう、

49A：シロイモオ タクサン イレテ
里芋を たくさん いれて

50B：シロイモト、 (A ン) アレオ ホラ、 オンダ
里芋と、 (A うん) あれを ほら、 ×××

サツマダッテ エレロバ[52] アマクナラー
さつまいもだって 入れれば 甘くなるわ

(A サツマモ イレネー ヤッパシ ダメダ)
(A さつまいもも 入れなければ やはり だめだ)

アマクナーラ。 (A エー) ホイデ カボチャダッテ
甘くないだろう。 (A ええ) それで かぼちゃだって

ウマイ カボチャオ イレロバ アマイヤネ。 (A ソ)
うまい かぼちゃを 入れれば 甘いよね。 (A そう)

(C ウン) イロカ[。] ツクシ。
(C うん) 色が 付くし。

51A : ホヤー マッタク オイシ***。 (B マー)
それは まったく おいし***。 (B まあ)

52C : フンダカラ ソノ コロワネー、
それだから その 頃はねえ、

イー ウマイ カボチャノ オ ツクルトネ、
いい うまい かぼちゃ× を 作るとね、

ソノ タネオ ミンナ キンジョノ ヒトカ[。] ホシカ[。]ルダヨ。
その 種を みんな 近所の 人が 欲しがるんだよ。

ソレデネー、 アノー クッテミテネー ウマイ ッテ イエバネー
それでねえ、あのう 食ってみてねえ うまい って 言えばねえ、

15↑16

ライネンワ ヒツタネオ トットイテ クリョ ッテ
「来年は ひとつ 種を 取っておいて くれよ」 って

カナラズネ、 キンジョノ シカ[。] ューデ、
必ずね、 近所の 人が 言うので、

ソノ ソノクレー ヤッパリネ、
その、 そのくらい やはりね、

ツクル ッチュ コトエモ オモキオ オイタダネ。
作る といふ ことへも 重きを 置いたんだね。

53B：イマジャー ゲンリョーカ[。] ネーカラ ヘー (C フン)
今では 原料が ないから もう (C ふん)

クイタクモ クエナイヤ。
食いたくても 食えないよ。

54C：イマジャー コナモ ナイシ、
今では 粉も ないし、

カボチャナンカモ ホンネン ツクランシ、
かぼちゃなんかも そんなに 作らないし、

アーチ ソーユー モノワ ヘー
ああ、 そういう ものは もう

55A：ダカラ イマー オシノ[53]ノ ホーエ イケバ
だから 今は 忍野の 方へ 行けば

マダー コナオネー、 モロコシオ ツクッテ
まだ 粉をねえ、 とうもろこしを 作って

コナオ ウッテルカラ、 オシノエ、
粉を 売っているから、 忍野へ、

山梨 16-3

ダカラ ソコエネー カイー イッテ {笑}
だから そこへねえ 買いに 行って {笑}

ソレデ カッテ キテ、 ツクッテ タベルケドネ
それで 買って 来て、 作って 食べるけどね、

トテモ ムカシノ ア ヨーニ、 ウマクナイ。
とても 昔の × ように、 おいしくない。

56C：ソーアイテ ソノ コロノ ムカシノ ヒトニ、 ハナシオ キクト、
そうして その 頃の 昔の 人に、 話を 聞くと、

ソーゆー モノオ タベテル
そういう ものを 食べている[と]

オサンカ° カルイ ト イッタダネ。 オサンカ°。
お産が 軽い と 言ったんだね。 お産が。

ソレデネー、 アノー、 ワシノネー オヤジノネ アノ イトコニネ
それでねえ、あのう、わしのねえ おやじのね あの いとこにね

アノー X3ト ユー ヒトカ° アッタダケンドネ、
あのう X3と いう 人が いたのだけれどもね、

X3。 ソノ ヒトワネ、 オサンオ スルノニネ、
X3。 その 人はね、 お産を するのにね、

ソノ オヤカ°ネ、 ナンダカ コイバ[54]デ ウンダダッタソーダ。
その 親がね、 なんだか 肥場で 産んだのだそうだ。

山梨 16-4

ソノネ イマデノヨーニ オサンバサンナン タノムジャナイ。
そのね 今のように お産婆さんなんて 頼むのではない。

ソノー マー コイバッチュ一 ホラ タイヒバダケンドネ、
そのう まあ 「こいば」という[のは] ほら 堆肥場だけれどもね、

ソコエ イッタラ スルスルーント デテ、 (A {笑})
そこへ 行ったら スルスルーンと 出て、 (A {笑})

ウマレテシマッタ ッチュ、 クライデネ、
産まれてしまった という、 くらいでね、

マッタクネ ウソッパナシノヨーナ ハナシダケンドモ、
まったくね 嘘のような 話だけれども、

ソーユー モンダゾ ナンツッテ
そういう ものだぞ、 なんていって、

ムカシワネ、 ソーユー ハナシオ シテネ。
昔はね、 そういう 話を してね。

アノー ナカ°イモオ クエバ カルイトカネ
あのう 長芋を 食えば 軽いとかね、

イロイロ ソノ ショクジデ ダイブ
いろいろ その 食事で だいぶ

ソーユー コト イッタダネ。
そういう こと[を] 言ったんだね。

山梨 16-5

トニカク オサンバサンナンカ タノム ッチュー コトワ ナカッタネ。
とにかく お産婆さんなんか 頼む という ことは なかつたね。

57A : エンザンニ X4サン[55]ガ° イッケンシカ (C ン)
塩山に X4さんが 1軒しか (C うん)

ナカッタカラネ。 オサンバウンワ。
なかつたからね。 お産婆さんは。

58C : ヨクヨクノ ヒトダ、 オサンバオ タノム ッチュ ヒトワ。
よくよくの 人だ、 お産婆を 頼む という 人は。

59A : ホントニ ムズカシクテ アブナイ ッテ ヒトデ ナクネ
本当に 難しくて 危ない という 人で なければ

オサンバサンワ タノマナンダ。
お産婆さんは 頼まなかつた。

ホダカラ モー オナカン イタクナルト
そうだから もう おなかが 痛くなると [=陣痛がはじまる]

アノ オバサン ハー[56] キトクリョー
「あの おばさん 早く 来てください、

ハラガ° イタクナッタカラ ッテ、
腹が 痛くなつたから」 つて。

ホイデ ウラノ オバサンモ キトクレ、
それで 裏の おばさんも 来てくれ、

マエノ オバサンモ キトクレ、
前の おばさんも 来てくれ[と頼んで]

ミーンナカ° ヨッチャッテ [57]
みんなが 集まって

ハー シンジャー アノ タマコ° ユーイシティヤルカラ
「もう それでは あの 卵[を] 用意してやるから

コレオ一 ノンデネー、 アノ、 ナンテ
これを 飲んでね」 あの、 なんて、

[16↑17]

ミンナカ° テツダッテクレテ、
みんなが 手伝ってくれて、

ソイデ ンナ ウム ッチュー ワケ。
それで ×× 産む という わけ。

オユー ワカス ヒトワ ワカシテ クレルシネ、
お湯を 沸かす 人は 沸かして くれるしね。

ダカラ キ キンジョ トナリデ ミンナ ジュンジュンニ
だから × 近所 隣で みんな 順々に

アノ ソーユーニ オテツダイ シナカ°ラ ヤッテタ。
あの そういうように お手伝い しながら やってた。

60B : タシカニ モロコシ ッチュー ヤツワネ
確かに とうもろこし という やつはね

山梨 17-2

カラダノ タメニワ イーダ。
体の ためには いいんだ。

61A：ソーヨ。
そうよ。

62B：ソイツモ ャッパリ ミンナ ホラ、 アノー、
そいつも やはり みんな ほら、あのう、

オレモネー、スキダカラネー、
俺もねえ、好きだからねえ、

ヤッテ ミタ コトカ° アルケンドネー、
やって みた ことが あるけれどもねえ、

コムキ°ジャーネー アノ、ダメダ、
小麦ではねえ、あの、だめだ、

アノ、ネマ アノ スベッコク、
あの、×× あの すべっこく [=なめらかで]、

スペッコイノワ スベッコイケンドネ、
すべっこいのは すべっこいけれどもね、

モロコシナクチャー ャッパリ ダメダヨ。
とうもろこし[が]なければ やはり だめだよ。

63A：ホイダケン ソノー シューセン一 トージ、
ただけど そのう 終戦 当時、

山梨 17-3

シューセンゴニネー モー ソーユー モンモ ナクナッテ
終戦後にねえ もう そういう ものも なくなって

ミンナ キョーシュツデ モー タベモンカ。 ナクナッテ、
みんな 供出で もう 食べ物が なくなって、

ホイカラ アノ フスマオ コナー ヒータ フスマカ。 ネ、
それから あの ふすまを、 粉を 挽いた ふすまが、 ね、

(C ン) ソレオ マタネー コンド クルマヤエ モッテッテ、
(C うん) それを またねえ 今度 水車小屋へ 持っていって、

ソレオ マタ ヒキナオシチモーノ、 フスマッチュ ヤツ、 カスオ、
それを また 挽き直してしまうの。 ふすまという やつ。 かすを。

ソレオ ヒイテ イクドカ ヒケバ
それを 挽いて 何度か 挽けば

ソレカ。ネ コー アノ コナニ ナッチャ、
それがね こう あの 粉に ×××

アノ コー クロイヨーナ コナニ ナッチャウノ、
あの こう 黒いような 粉に なってしまうの。

ソレマーデ アノ オネリニ シテ タベタ。
それまで あの おねりに して 食べた。

オウチアタリワ シランケンド。
あなたのところあたりは[そうしたか] 知らないけれど。

64C：イエ、 ヒトッキリ [58] ワネ、

いえ、 一時期はね、

アノ ゼンビキニ シタ コトモ アル。 (A ソレコサ)
あの 全挽きに した ことも ある。 (A それこそ)

アノ コムキ[。]ノ フスマオ トラズニ、 (A エー)
あの 小麦の ふすまを 取らずに、 (A ええ)

カワゴ[。]テラ ゼンブネ ゼンビキニ シテ。
皮ごと 全部ね 全挽きに して。

65A：ソレジャ マダ イーケンド、 フンダケンド
それでは まだ いいけれども、 そうだけれども

イー トコワ、 オホートーヤ ウドンニ シナキヤ ナランカラ。
いい ところは、 ほうとうや うどんに しなければ ならないから。

カシバッカデ
かしばかりで

66C：イヤ イチバン イヤ X5サンノ ヒトイ ウチジャーネ、
いや いちばん、 イヤ X5さんの ××× うちではね、

アレダッチューヨ、 モロコシノ ホッタ [59] オ タベタ。
あれだというよ、 とうもろこしの 芯を 食べた[と]。

モロコシオ カイテシマッテ
とうもろこし[の実]を かきとつてしまって、

山梨 17-5

ゼンブネ アノ、 アノ ホッタオ コナニシテ クッタ ッチュー。
全部ね あの、 あの 芯を 粉にして 食った という。

67A：ソーリヤー キータコト
それは 聞いたこと

68C：ソノ ハナシモ キータヨ。
その 話も 聞いたよ。

69B：ソーイッタオー[60]ワ シランケンドネー、 (A ソリヤー)
そういうことは 知らないけれどもねえ、 (A それは)

アノ ヒトコロネー (C ン一) ヒヤクショードーッテネ
あの ひところねえ、 (C うん) 百姓だってね

エライ モノオ クッタ コトカ° アルダワネ、
大変な ものを 食った ことが あるんだよね。

(A エライ モノオ タベタ。 ソレコサ ソノ ***)
(A 大変な ものを 食べた。 それこそ その ***)

ホーシテ ホラ、 メーデ、 アノ オーサカノ ホーワネ、
そうして ほら、 ほら あの 大阪の 方はね、

オンノ オトートカ° アッコデ スンドーット トキニ、
俺の 弟が あそこで 住んでいた 時に、

キョー、 アノ、 ナコ°ヤダッタカナー？
××× あの、 名古屋だったかなあ？

キシャベンニネー、 コー コムキ[°]ノ ヒキワリカ[°] ヘーッテタヨ。
駅弁にねえ、 こう 小麦の 挽き割りが 入っていたよ。

コー、 ソリヤネ、 キシャベンデ。 アノコロワ
こう、 それはね、 駅弁で。 あの頃は

70A：ソ エ アノ カエリニネ
そう × あの 帰りにね

コミキ[°]オ フタツニ ワッタ ヤツカ[°]、 (B シー) コムキ[°]
小麦を 二つに 割った やつが、 (B うん) 小麦

アノ キシャデ、 トチューデ オベントー カッテキタラ、
あの 汽車で、 途中で お弁当 買ってたら、

ソレ ミンナ コムキ[°]デ、 ワッタノデネ、
それ[は] みんな 小麦で、 割ったのでね、

17↑18

ソーユー オベントー。
そういう お弁当。

71B：ヒトコロ エラカッタワネ、 ショクリョーナンダナンテ
ひところ 大変だったね、 食糧難だなんて

(C シー シー) ュー トキニワー、 エラカッタ。
(C うん うん) いう 時には、 大変だった。

ホイデ マー オヤキッテ ヤツワ ホラ、
それで まあ おやきって やつは ほら、

山梨 18-2

イマ アノ モロコシ、 タイガ[°]イ マー モロコシーデ
今あのとうもろこし、 たいがい まあ とうもろこしで

(C ソレー ヤセーオ マゼズニネ。ン) ***
(C それへ 野菜を 混ぜずにね。うん) ***

ヤッタモンダケンドモ、 アノ ナカエ、 ネ
やったんだけれども、 あの 中へ、 ね

アズキダマ[61] ニト一、 ネ、
小豆[を] 煮た、 ね、

ソイト サトーデモ ホケー イレテ アンコーデモ イレトーワ
それと 砂糖でも そこへ 入れて あんこでも 入れたのは

ン一 マタ ウマカッタワネ。
うん また うまかったよね。

72A：ソンナ コト シナンデネ、 (B {笑}) サツマイモオネ、
そんな こと[を] しないでね、 (B {笑}) さつまいもをね、

アノー ユデテ、 ソイデ チョット ツブシテ、
あのう ゆでて、 それで ちょっと つぶして、

サトーナンカ ナイカラ ソレオ ツブシテ
砂糖なんか ないから それを つぶして

ホレオ アンコニ イレテ、 ホイデ オヤキオ ヤイタリ。
それを あんこに[して] 入れて、 それで おやきを 焼いたり。

山梨 18-3

ミソ イレテ ヤイタリ、
味噌[を] 入れて 焼いたり、

ホイデ アノ コー ヒジロッチューノカ° アッテネ、
それで あの こう ひじろ[=囲炉裏]というのが あってね、

ムカシ (C ソコデ ヤケバ ウマイ) ソコデネ
昔 (C そこで 焼けば うまい) そこでね

アノー ヒオ モシタ[62] コノ ハイオ カケテ、
あのう 火を 燃やした この 灰を かけて、

ソイデ ソノー ヌクミデ コー ヤクダケンド
それで そのう ぬくみで こう 焼くのだけれども

ソレカ° マター オイシーダヨ、 ジョーズー ヤケテ。
それが また おいしいんだよ、 上手に 焼けて。

(C ン ソー) ソレカ° オイシーダ、 ソレカ° オヤキ。
(C うん そう) それが おいしいんだ、 それが おやき。

73C：ウマイモンダ ソリヤー。 (A エー。 オイシー)
うまいものだ、 それは。 (A ええ。 おいしい)

ホリヤー ウマカッタ
それは うまかった

74B：ソレワ ムカシノ ヒジロ ッチューダカラ、
それは 昔の 囲炉裏 というのだから、

山梨 18-4

へー、 へーノ ナカエ、 ネー、 へー、 へーデ、
灰、 灰の 中へ、 ねえ、 灰、 灰で、

ホラー、 アレカ。 イーダワネ。
ほら、 あれが いいんだよね。

75A：ホイデ オヤキダッテ アノ ソノー アー モロ、
それで おやきだって あの そのう ×× ××

コナオネー モ モロコシワネ、 ネルワネ、
粉をねえ × どうもろこしはね、 練るのはね、

ニタッタ オユデ ネル ツチュー ワケ。
煮立った お湯で 練る という わけ。

ガラガラ ニタ ヤツデ、 (C アー) ネッテ、
ガラガラ 煮た やつで、 (C ああ) 練って、

ソーシテ デッチテ ツクルダヨ。
そして こねて 作るんだよ。

ホイデ アン ナベオ ココエ アーユーニ シ カケティテ、
それで ×× 鍋を ここへ ああいうように × かけていて、

ヒバチエ、 ナンジャー、 ナンツーダ コリヤー。
火鉢へ、 なんだ、 なんと言うんだ これは。

76C：ウデルデ ナイカラネー
ゆでるので ないからねえ、

山梨 18-5

ヨーブンカ[°] ホントニ ニケ[°]ン ワケダ。
養分が 本当に 逃げない わけだ。

ウデダンコ[°]ト ユーノカ[°] アルケンド (A ウデダンコ[°]ダネ)
ゆでだんごと いうのが あるけれども (A ゆでだんごだね)

ソレノカ[°] マズイダ。
それの[方]が まずいんだ。

(A ソー ソー オ ツクッ ソー ソー)
(A そう そう × ××× そう そう)

77B：オヤキッテ ヤツワ ソーヤッテ ヤクカラ オヤキ ト ュー***。
おやきって やつは そうやって 焼くから おやき と 言う***。

(C ンー) (A オヤキ) {笑} ヘーデ
(C うん) (A おやき) {笑} それで

78A：ヒジロノ マワリ イッパイ コーシテ ヤイテ、
囲炉裏の 周り[に] いっぱい こうして 焼いて、

(C ホンナモノ)
(C そんなもの)

79B：ムカシノワ ヒジロ ッチュノカ[°] (C ンー)
昔のは 囲炉裏 というのが (C うん)

ヘーノ ナカエ コー アッテ ャ ャク ッチュ ワケダヨネ、
灰の 中へ こう あって × 焼く という わけだよね、

山梨 18-6

コー グルグル マワシテ。 ヒトトコバカ コケ[。]ンヨーニ。
こう グルグル 回して。 ひとところばかり 焦げないように。

80C : ソレオ カンカンヤキニネ ホヤリッテ (B {笑})
それを よく焼いてね こんがりと (B {笑})

(A ソーネー) ベッコーイロニ ヤケバネ、
(A そうねえ) ベっこう色に 焼けばね、

ソレカ[。] ウマカッタ。
それが うまかった。

81A : オイシー、
おいしい、

82D : モロコシノ コナデスネ?
とうもろこしの 粉ですね?

83B : エ? (D モロコシノ コナ?) ダイタイ モロコシコナ、
え? (D とうもろこしの 粉?) だいたい とうもろこし粉、

(A モロコシ *** エー)
(A とうもろこし *** ええ)

(C エー モロコシ エー)
(C ええ とうもろこし ええ)

ンー、 デ ヤルッチュー ワケダネ。
うん、 で やるという わけだね。

コレアー アノー コムキ[。]ッコナデノモネー[63]

これは あのう 小麦粉でなくてもねえ

コメノ コナデモ デル[64]ケンドネ ナンデモ。

米の 粉でも できるけれどもね、何でも。

18↑19

ホーヤッテ (A ホデモ イクラカ ソレー)

そうやって (A それでも いくらか それへ)

ソーシテ ャケバ オヤキ、 ャケバ、

そして 焼けば おやき、 焼けば、

ヤクカラ オヤキ ッチュ ワケダ。 {笑} ダケド ダイタイワ
焼くから おやき という わけだ。 {笑} だけど だいたいは

(A イクラカ マ ア コムキ[。]オ マゼロバ オイシーデ)

(A いくらか × × 小麦を 混ぜれば おいしいよ)

ダイタイワ アー ウン モロコシノ コナ ッチュー ワケダ。
だいたいは ああ うん とうもろこしの 粉 という わけだ。

84C : ソレデ ソノ モロコシオ ツクリノカ[。] ソノ

それで その とうもろこしを 作るのが その

コノ ムラヨリモ カミカネ[65]カ[。] イチバン セーダイダッタ。

この 村よりも 神金が いちばん 盛大だった。

アキニ ナレバ カミカネナンカジヤ マズ モロコシカ[。]

秋に なれば 神金なんかでは まず とうもろこしが

山梨 19-2

ヘーノ マーリニ ソレコソネー ミコ[。]トナ モンダッタダデ、
堀の 周りに それこそねえ、 見事な ものだったんだよ、

ギッシリト ホズレ[66]ガ[。] ツルサッテタ。
ぎっしりと 穂が ぶらさがっていた。

ソレカ[。] ゴコ[。]ナン イクトネ
それが 午後[に]なんて 行くとね、

チョード ューヒニ ハエテネ、
ちょうど 夕陽に 映えてね、

ソリヤー キレーナ モンダッタダデ、 ソノ モロコシカ[。]
それは きれいな ものだったんだ、 その とうもろこしが。

85B：ホラ アキニヤー ホラ テンデーッコ[67]オ シテネ、
ほら 秋には ほら 手伝いっこを してね、

ホイデ ソー ソノ イエー イッテ、
それで そう その 家に 行って、

ホシテ ムイテ テンダッテ ホーシテ ツズ、
そして [とうもろこしの皮を]剥いて 手伝って そうして ××

アノ アンデ、 ホーシテ ツルス ッチュー ワケダ、
あの 編んで、 そうして つるす という わけだ、

フンダカラ イマノ ウシノヨーッ タッテネ、
それだから 今の 稲架けのよう[なものを] 立ててね、

山梨 19-3

ソレエ コー ツルシタリ、 ネ、 (A シー) ウオー
それへ こう つるしたり、 ね、 (A ううん) ××

ウチントコジャ一 ホンネニジャ一 ナカッタケンドネ、
うちのところでは そんなにでも なかつたけれどもね、

カミカネアタリ イケバ イエノ マワリカ[。]ネ (C ギッシ)
神金あたり[に] 行けば 家の 周りがね (C ぎっしり)

マッキー ナ アー ナルホド ズーッ イエノ マワリン
真つ黄に × ああ なるほど ×× 家の 周りに

ズット タカクニ ツルシテアルッチュ ワケダ。
ずっと 高く つるしてあるという わけだ。

86A：ヤッパシ アノ、 タカ[。] スケナクテ、 (B シ)
やはり あの、 田が つけなくて [=作れなくて] (B うん)

ネ (C シ) コメカ[。] ナイカラ モロコシカ[。]、
ね (C うん) 米が ないから とうもろこしが、

87C：サンド サンド クッタ チュ ハナシモ キータネ。
3度 3度 食った という 話も 聞いたね。

サンド サンド {笑}
3度 3度 {笑}

88B：ホーダ。 ンダカラ ヤマノ、 ホラ イマノネー、
そうだ。 だから 山の ほら 今のはえ、

ゴレカンマワシ[68]ナンカ オッテネー
ごれかんまわしなんか[を] 追ってねえ、

オヤキオ、 ネー (A モッテ) モッテッテ ヤマエ イッテ
おやきを、 ねえ (A 持って) 持っていって 山へ 行って

ヤキモチオ モッテッテ、 タベタダヨ。 {笑}
焼き餅を 持っていって、 食べたんだよ。 {笑}

89C : ソーシテネー カミカネノ セートカ°
そうしてねえ、 神金の 生徒が

アノコロ クルマカ° ナカッタカラネー
あの頃 車が なかつたからねえ、

ミンナ ホラ エンザンエ クダールニ
みんな ほら 塩山へ 下ってくるのに

アルイテ クダッテ クルダ ゾロゾロゾロゾロ、
歩いて 下って 来るんだ、 ゾロゾロゾロゾロ、

ソーシルトネ カミカネノ ガッコーナンテ アンダ
そうするとね 神金の 学校なんて なんだ

モロコシガッコーダナンテ、 {笑} (A・B {笑})
「どうもろこし学校だ」なんて、 {笑} (A・B {笑})

モロコシガッコーノ セートカ° キタワ ナンツッテネ、
「どうもろこし学校の 生徒が 来たよ」 なんていってね、

{笑} ソノクレーニ。

{笑} そのくらいに。

90A : {笑} モロコシオ クッテルカラ

{笑} どうもろこしを 食っているから

(C ソノクレーン イッタモンド)

(C そのくらい 言ったもんだ)

トビツコ[69]モ ハヤイシ {笑} (B ダケンド アノネー)

駆けっこも 速いし {笑} (B だけれど あのねえ)

アタマモ イイ ナンツッテ イッテ。

頭も いい なんていって、 言って。

91C : ン ダケンド タイカクワ ヨカッタネ。 ミンナ。

うん だけれど 体格は よかったね。 みんな。

92B : アンコデモ ヘー アンコデモ ヘーット ウマイモノ、 マタ。

あんこでも へえ あんこでも 入ると うまいもの、 また。

(A ***)

(A ***)

93C : タイカクガ[°] ヨカッタ。

体格が よかった。

94A : エ？ アタマモ イー。

え？ 頭も いい。

95C : シー。 アタマモ イーダ、 (A エー)
うん。 頭も いいんだ、 (A ええ)

エライ ヒトカ[°] デタリ。
偉い 人が 出たり。

96A : ゾー。
そう。

97C : ソンナ ムラカラモネー モトノ テーシンダイジンモ デタシネ、
そんな 村からもねえ 元の 通信大臣も 出たしね、

ホイカラ オーサカフチジン ナッタ ヒトモ デタシ、 ネ、
それから 大阪府知事に なった 人も 出たし、 ね、

ジツー[70]サンナン ゾーダ。 {笑}
治通さんなんか そうだ。 {笑}

98A : タナベ。
田辺。

99C : タナベジツー。
田辺治通。

100A : ネ、 ジツーサン。 (C フンフン) ダイジン。
ね、 治通さん。 (C ふんふん) 大臣。

101C : ホイデ ワリアイネー、 サンカ[°]サン[71]デ
それで わりあいねえ、 三か村で

山梨 20-2

ソノバニ ナッテ サンガ[。]サンデ
その場に なって 三か村で

ナンダ オーフジ[72] カミカネ タマミヤ[73]デネー、
なんだ、 大藤、 神金、 玉宮でねえ、

ナンダ キョーキ[。]カイダ ナンツッテ ヨク ヤッタ、
なんだ 競技会だ なんて言って よく やった、

コドモノ コロ ヤッタ トキモ アルケンド、
子どもの 頃 やった 時も あるけれども、

ワリアイ ソノ カミカネカ[。] ツヨイ。
わりあい その 神金が 強い。

102A : ツヨイ。

強い。

103C : ソノ ト ユーエ

その × いう

104A : オネリヤ オヤキオ クッテルカラ {笑}
おねりや おやきを 食っているから {笑}

105C : ソレデネー トブ コトナンカモ ハヤイ。
それでねえ 走る ことなんかも 速い。

106A : ホーシテ ミンナ ワラニ ***
そうして みんな ///* ***

山梨 20-3

107C : ホーシテ チカラモ アルダ、 ワリアイネ チカラモ。 {笑}
そうして 力も あるんだ、 わりあいね、 力も。 {笑}

108B : タシカニ エーヨーワ アルダネ。
確かに 栄養は あるんだね。

109C : オー。 エーヨーワ アル。
おお。 栄養は ある。

110A : ホントニ一、 ムカシワ ムキ[°]オ イマノヨーニ
本当に、 昔は 麦を 今のように

ツブシタヤツデ ナクテ、
つぶしたやつでは[は] なくて、

マル、 マルイ ムキ[°]オネ、 ソレー エマシテ[74]、
×× 丸い 麦をね、 それを 煮て柔らかくして、

ホーシテ アノー マー ムキ[°]ノ ホーカ[°] オーイデ、
そうして あのう まあ 麦の 方が 多くて、

コメワ ホンットーニ、
米は 本当に、

サンブンノイチカ ナンボシカ イレテナイデ、
3分の1か いくらしか 入れてなくて、

ホイデ ボクボクシタヨーナ ソノ ムキ[°]ノ ゴハンオ タベテ、
それで ボソボソしたような その 麦の ごはんを 食べて、

ソーユー モンデ。

そういう もので。

タカ[°] スクナクテ コメカ[°] ナカ、 トートカッタ[75]カラ。

田が 少なくて 米が ×× 貴重だったから。

111C : コナイダ シズオカノ ホーエ イッテ カエリニネ、

この間 静岡の 方へ 行って 帰りにね、

アチノ アッチノ クロコ[°]マ[76]ノ ホーオ トーッタダ

あっちの、 あっちの 黒駒の 方を 通ったんだ、

ミサカチョー[77]ノ ホーネ。

御坂町の 方ね。

ソーシタラ ソノ トーリデ ミンナ モロコシオ

そうしたら その 通りで みんな とうもろこしを

ドコノ ウチデモ ウッテルダヨ アノ。

どこの 家でも 売っているんだよ、 あの。

ホレカラ アノ カッテ タベタダケンドネ、

それから あの、 買って 食べたんだけれどもね、

ヤッパリネ、 ソノ イビリューモロコシ[78]デモネ、

やはりね、 その 焼きとうもろこしでもね、

ナンダ ヘー コサエトー モノワネー

なんだ もう こしらえた ものはねえ、

山梨 20-5

ヤッパリ ムカシノヨーナ アジワ ナイダ。
やはり 昔のような 味は ないんだ。

ソノ ムカシノ イビルクモロコシ[79]ナンテ イッタラ
その 昔の 焼きとうもろこしなんて いいたら

マタ ウマカッタ。
また うまかった。

フンダケンド ソレワネー、 ムダダ トモ イッタネ。
そうだけれども それはねえ、 無駄だ とも 言ったね。

ソレワ ナゼカト イエバネー、
それは なぜかと いえばねえ、

モロコシノ ホー イッポン アレバ、 アノー、
とうもろこしの 穂[が] 1本 あれば、あのう、

ヒトカタケ アル ト イッタダ。
「ひとかたけ ある」[=1食分ある] と 言ったんだ。

ヒトカタケ ッチューワネ、 イマノ ホラー、
「ひとかたけ」 というのはね、 今の ほら、

イッショク ッチュー コンダ。 (A {笑})
「1食」 という ことだ。 (A {笑})

アノ オーキー ホーカ。 イッポン アレバネ、
あの 大きい 穂が 1本 あればね、

山梨 20-6

ヒトカタケ アル ト トショリカ。 イッタダヨ
「ひとかたけ ある」と 年寄りが 言ったんだよ、

ソノ トージ。 (A {笑}) ソレオ ムザムザ ナ
その 当時。 (A {笑}) それを むざむざ ×

アノ オナカイレ[80]ニ タベチモーダカラ、
あの 間食に 食べてしまうのだから、

フンダカラネ、 ソンニヤー ソンナ ワケダ、
それだからね、 損には [=損と言えば] 損な わけだ。

フケーザイダ、 ソリヤ。
不経済だ、 それは。

112D : アンノ バーイニ ヨッチャ
あの 場合に よっては

エマシテ ッチューヨーナ モンジャ
煮て柔らかくして というような ものでは

113A : エ? ドーシタダヨ オマンワ、 ドー ネー ジューン、
え? 「どうしたんだよ おまえは、 ×× ×× ×××

アノ ゴハンオ タ メシオ クワナンデ、
あの ごはんを、 × 飯を 食わないで、

ナイテテ コマルジャンカ ナンテ ューカラ、
泣いていて 困るではないか」 なんて 言うから、

ソンナ クサイー メシジャー イヤダ ッツッテネ、
「そんな 臭い 飯では いやだ」 と言ってね、

20↑21

ホイデ ナイテテ、
それで 泣いていて、

ホイジャ シヨンネー、 オマンニダケ アノー ムカシノヨーニ
「それでは しようがない、 おまえにだけあのう 昔のように

ムキ°ノ メシオ フンジャ ニテヤラー[81] ナンチュッテ
麦の 飯を それでは 煮てやるよ」 なんて言って

ホイテ オヤカ° ニテクレタケドネ。
それで 親が 煮てくれたけどね。

114B : クイツケン モノワ。 {笑} クイツ***
食いつけない ものは。 {笑} 食いつ***

115A : タベラレン。 (C クイツケンカ) *** モ一
食べられない。 (C 食いつけない) *** もう

サンカ°ニチナンテ オショーカ°ツニ イチンチク°ライシカ
三が日なんて[いう] お正月に 1日ぐらいしか

ソノ一 シロイ ゴハン チューワ タベタ コトン ナイカラ
その 白い ごはん というのは 食べた ことが ないから、

ムキ°バッカ タベ、 ムキ°トカ
麦ばかり ×× 麦とか

山梨 21-2

ソーユー モンバッカ タベテタカラ。
そういう ものばかり 食べていたから。

116B : ホーサ コメナンカ オキヤクデモ コネーバ
そうさ 米なんか お客様でも 来なければ

コメノ メシナンカ ニタ コター ネーダカラネ。
米の 飯なんか 炊いた ことは ないんだからね。

ヒヤクショ一 ッチュー ヤツワ。 {笑}
百姓 という やつは。 {笑}

イマノヨーナ ムキ[°]メシバカ クッテ
今のような 麦飯ばかり 食って

(C ザツコ[°]クオ タベタ)
(C 雜穀を 食べていた)

ムキ[°]メシ ホートーナンカバカ クッテ。 {笑}
麦飯、 ほうとうなどばかり 食って。 {笑}

117A : ホダカラ ソノ一 シロイ メシカ[°]ネー
だから そのう、 白い 飯がねえ、

コー クサイヨーナ キガ[°] シテネー
こう 臭いような 気が してねえ、

ノドー ト トーラン。 (C ン)
喉を × 通らない。 (C うん)

山梨 21-3

118B : ソレカ[°] イマー カンケ[°]ルトニー、 アノコロノ ホラ、
それが 今 考えるとねえ、 あの頃の ほら、

イマ イッタ、 アノ、 エマシト イッテネ、
今 言った、 あの、「えまし」と 言ってね、

ゴトゴトゴトゴト ムキ[°]ノネー、 チックイ ツブノオネー
グツグツグツグツ 麦のねえ、 小さい 粒をねえ、

エマシテ コンネン デカクナルヨーナ ツブデ、
煮て柔らかくして こんなに 大きくなるような 粒で、

ソーシテ エマシテ
そうして 煮て柔らかくして

ソノ一 ミズワネ ウント エーヨーガ[°] アル ッチュー ワケダヨ、
その 水はね うんと 栄養が ある という わけだよ、

ゴトゴトゴトゴト ニダスカラ、 ムキ[°]ノ ナカノ エーヨーワ
グツグツグツグツ 煮出すから、 麦の 中の 栄養は

ミンナ ダシチモー。
みんな 出してしまう。

ソイツワネー カチクニ クレチモー[82]ダヨ、
そいつはねえ 家畜に やってしまうんだよ。

アラッテネ、 ネ、 ヨク アラッテネー
洗ってね、 ね、 よく 洗ってねえ、

ホーシテ コメト ニルズラ、
そうして 米と 煮るだろう、

フンダカラ ソノ エーヨーオ トッタ アト
それだから その 栄養を 取った 後、

エーヨーワ ミンナ ウシニ、 ク ウマヤ ウシニ クレチモー。
栄養は みんな 牛に、 × 馬や 牛に やってしまう。

フンダ カスミタイナ モンダ。 ネ。 {笑}
そうだ[から] かすみみたいな ものだ。 ね。 {笑}

カスミタイナ ワケワ、 エーヨー、
かすみみたいな わけは、 栄養、

ゴトゴト ニダシト エーヨー ウマニ クレチモーダカラ。
グツグツ 煮出した 栄養[を] 馬に やってしまうのだから。

バカ一 シタ モンダワネ、
ばか[なこと]を した ものだよね。

ホイデ ソノゴン ナッテ セーメージョカ° デテ、
それで その後に なって 精米所が できて、

コンダ ムキ°ノ ヒキワリ ッチューヨーナノ、
今度は 麦の ひきわり というようなの、

オシムキ° ッチューヨーナノ ナッテ。 (A ツブシ)
押し麦 というようなの[に] なって。 (A つぶし)

ソレオ イレルヨーン ナッテッカラーネー、
それを 入れるように なってからねえ、

オレダチワ ウマ ウマイナー ト オモッタネ。
俺達は ×× 「うまいなあ」と 思ったね。

(C ソレワ オシムキ°ノ ホーカ° イー)
(C それは 押し麦の 方が いい)

エーヨーモ アルシネ。 イマノヨーニ
栄養も あるしね。 今[話したこと]のように

ゴトゴト エーヨーオ トランダカラ。
グツグツ 栄養を 取らないんだから。

(C オシムキ°ノ ホーカ° イー) ニダサンダカラ。
(C 押し麦の 方が いい) 煮出さないんだから。

イッショニ コメト イッショニ エーテ ニチモーダカラ。
一緒に、 米と 一緒に 入れて 煮てしまうのだから。

アリヤ タシカニ カラダノ タメニワ イーダケンドネ
あれは 確かに 体の ためには いいのだけれどもね、

(C ウン) ムキ°ッチュ ヤツワ。
(C うん) 麦という やつは。

ホーシテネ、 ナント イッテモー、
そうしてね、 なんと 言っても、

ソショクノ ホーカ[°] ケンコーデスネ。 タシカニ。
粗食の 方が 健康ですね。 確かに。

イマデワ ビヨーキオネー、 アノー クイモンデ、
今では 病気をねえ、 あのう 食い物で、

ジブンデ ツクル ト イッテルカラ。
自分で 作る と 言っているから。

イヨ イマデノ ヒトワ ビヨーキオ、 ネ、
×× 今の 人は 病気を、 ね、

21↑22

ウマイ モノ タイヘン[83]、 ネ、
うまい もの[を] たくさん、 ね、

エーヨーダッテ タイヘン トレバニー、
栄養だって たくさん とればねえ、

ヤッパリ ヨク ネーデスヨ、 イノ タメニワ。
やはり よく ないですよ、 胃の ためには。

フンダカラ ビヨーキワ オーイ ッチュ ワケダネ。
それだから 病気は 多い という わけだね。

ムカシノ ホーカ[°]
昔の 方が

ケンコーニワ ケンコー ッチュー ワケダ。
健康には[=健康と言えば] 健康 という わけだ。

119C : エーヨーカ。 ヨスキ°ルダ。

栄養が よすぎるんだ。

120B : ソレガ。 イマ イッタヨーニネ、 ソショクツチュー ワケダヨ。

それが 今 言ったようにね、 粗食という わけだよ。

ソショクワ タシカニ、 カラダノ タメダネ。

粗食は 確かに、 体の ためだね。

121A : ムカシワ チャオー[84] アラッテモ、 ネ、

昔は 茶碗を 洗っても、 ね、

ナベオ アラッテモ、 ソノ ミズワ ステタ コトン ナイノ。

鍋を 洗っても、 その 水は 捨てた ことが ないの。

ミンナネー バケツオ ソバー オイテ

みんなねえ バケツを そばに 置いて、

ミンナ ソノー アラッタノオ ミンナ トットイテ、

みんな その 洗ったのを みんな 取っておいて、

ミンナ ソレー イレテ、 ホシテ ソレオ ハタケー カケル。

みんな それへ 入れて、 そして それを 畑へ かける。

ミンナ ソーシタ。

みんな そうした。

イマデノ シワ コメオ ソイデモ[85]

今の 人は 米を 研いでも

山梨 22-3

ソコエ スット ナカ[。]シニ シチャ シチマー。
そこへ すっと 流しに[=流して] ×× してしまう。

ホンダケ ソノ一 ヤッパシ クセガ[。] ヌケナンデネー、
そうだけれども その やはり 癖が ぬけなくてねえ、

イマ イマモネー、 ソイデモ トッテオク。
×× 今もねえ、 研いでも [その水を]取っておく。

ホイデ ハタケー モッテツテ マタ ステルケンド。
それで 煙に 持つていって また 捨てるけれども。

イマデノ シワ ソーユー コト ゼンゼン ナイ。
今の 人は そういう こと[は] 全然 ない。

ミンナ ソコデ アラッテ ミンナ ソコエ
みんな そこで 洗つて みんな そこへ、

ミンナ ゴハンノ ゴハンツブデモ
みんな ごはんの ごはん粒でも

(C ウン ゲスイドーエ ミンナ イレチモー ン)
(C うん、 下水道に みんな 入れてしまう うん)

ミンナ イレチモー。 ダケン モー クセデネー、
みんな 入れてしまう。 だけど もう 癖でねえ、

ソーユー コトガ[。] デキン。 ミンナ
[私は] そういう ことが できない。 みんな

122B : オトートイ ワケダネ、 ヒリョー ッチュー ナカッタカラ。
大切な わけだね、 肥料 という[のが] なかったから。

フンダカラ ヒリヨーダッテ (A ***)
それだから 肥料だって (A ***)

ヤマー イッテ キダー ハイテキテ、 ネ、
山に 行って 木枝を 掃いてきて、 ね、

ホイ アキン ナルト エー キノハーグ[°]ラ ト イッテネ、
それ 秋に なると ええ 木の葉蔵 と 言ってね、

ニ アノ、 ヒヤ ヒヤクショーノ オクラ ッチュ ワケダヨ、
× あの、 ×× 百姓の お蔵 という わけだよ。

ソレー トーカクレー ヘー キノハオ ハク モノナルト、 ネ、
それへ 十日くらい もう 木の葉を 掃く もの/// ね、

ヒヤクショーノ オクラナ ワケデスヨ。
百姓の お蔵な[=お蔵という] わけですよ。

ゲンリョーダモノ、 タイヒノ ゲンリョーダモノ、
原料だもの、 堆肥の 原料だもの。

キノハウ トーカ、 ウマー カットク イエジャーネ
木の葉は 十日。 馬を 飼っておく 家ではね、

ウマノ ササオ、 カ カチクノ、
馬の 笹を、 × 家畜の、

ヤッパ フユワ アノー クサカ° タランデショ?
やはり 冬は あのう 草が 足りないでしよう。

フンダ ササー カッテキテ一テネ
それだ[から] 筐を 刈ってきていてね、

ササオ トッテモ イツカカ ト一カモ カッテキテ、 ネ、
��を 取っても 五日か 十日も 刈ってきて、 ね、

ホシテ アノー コンドワ、 ネ、
そして あの 今度は、 ね、

イマノ ハジメノ モシキドノヨ一一、
今の はじめの ///のように、

ソイデモッテモ、
それでもっても[=そうしても]

クイキデ ナクテモ[86] トレンカラ、
区域で なくとも 取れないから。

コレモ ト一カクレーダーナー。
これも 十日くらいだなあ。

ホレダケワ カナラズ イッタ モンダ、
それだけは 必ず 行った ものだ。

ヤマエ、 ネ、 ノーカジャ。
山へ、 ね、 農家では。

山梨 22-6

123C : ソーユー コトニ アケクレタダ。
そういう ことに 明け暮れたんだ。

124B : ソーユー、マー ムカシノ ジダイダネ。
そういう、まあ 昔の 時代だね。

22↑

山梨県塩山市1978注記

[1] オホートー

ほうとう。太めのうどんを、野菜などと一緒に味噌で煮込んで作る、山梨の郷土料理。丁寧の接頭辞の「オ」をつけて「オホートー」ということも多い。

[2] ノシタ

押し広げた。「ノス」は「押す」といった意味。

[3] ホイデ

それで。当該地域を含め山梨方言ではサ行音はハ行音に変化しやすく、この発話以後もサ行音がハ行音に変わる同様の例は頻出している。

[4] エレテー

入れて。当該地域を含め山梨方言では「イ」が「エ」に変わることが見受けられる。この発話以後も「イ」が「エ」に変わる同様の例が出現している。

[5] ニルダケド

煮るのだけれど。当該地域を含め山梨方言では助詞「ノ」は沈潜する。この発話以後も助詞「ノ」の沈潜はほぼ規則的に生じている。

[6] メーデ

Bが間投詞的に使う。69Bにも「メーデ」が出てくる。Aへの呼びかけか。

[7] オーイズラ

多いだろう。「ズラ」は現在推量。

[8] デッチテ

こねて。「デッチル」は「(練り物などを) こねる, 練る」の意。

[9] モレーバ

もらえば。「モラエバ」が「モレーバ」となった。すなわち連母音「アエ」が「エー」となった。当該地域を含め山梨方言では連母音の融合が多く、この発話以後も連母音の融合現象は頻出している。

[10] オン

俺。

[11] テンダッタ

手伝った。「手伝う」は当該地域では「テンドー」という。

[12] ッチュー

～という。「～という」は当該地域では「～ッチュー」もしくは「～チュ」となる。

[13] コー ャッテ

3Bにおいて、この部分まで話をしているとき、Bは実際に、ほうとうの生地をこねる動作を示しているようである。

[14] オデージン

金持ち。富裕な人。「デージン」ともいう。

[15] イクネン

何年。不定詞の「何～」は「イク～」となることが多い。「イクド」(何度。63Aに出現),「イクサイ」(何歳),「イクジ」(何時)など。

[16] イマデノーワ

イマデは「今」の意。「～のもの」の意の「～の」は、「ノー」と長音になる。

[17] タベチモー

食べてしまう。「～てしまう」は「～チモー」となる。

[18] ミソオケドーッテモ

味噌桶だっても。断定の「だ」は「ドー」となる。

[19] オイトッテ

置いたって。過去・確認の「た」は「トー」となる。「トー」が短く発音されて「ト」となることもある。

[20] イッソー

少しも。「イッソモ」や「イッサラ」という形で使われることも多い。

[21] オキャクン

お客様に。助詞の「に」は母音が脱落して「ン」となることがある。

[22] クレルラ

くれるだろう。「ラ」は現在推量。

[23] オメンルイ

麺類。山梨方言では、共通語では丁寧の接頭辞の「オ」をつけないものに「オ」をつける語がいくつかある。

[24] ウマクナクネーバ

うまくなければ。形容詞「ナイ」（無い）のこののような条件形は、高年層に見受けられる。

[25] ハー

もう。「はや（早）」が語源。「ハー」となることもある（59Aに出現）。

[26] コン

こと。

[27] クレナー

くれない。否定の「～ナイ」は、言い差しのときのみ「～ナー」となる。

[28] イーワ

いいよ。「ワ」は終助詞。主に男性が使用する。共通語の、女性が主に使用する「わ」とは異なる。

[29] ツクットカネー

作っておかなければ。「～なければ」は「～ネー」となる。

[30] アテトカネーバ

用意しておかなければ。「アテル」は「充当する、用意する」の意。「～なければ」は「～ネー」の他、「～ネーバ」となることもある。

[31] ケケテ

乗せて。「ケケル」は「乗せる」の意。

[32] スクモ

脱穀したあとに出るかす。もみがら。

[33] アナン

穴の。助詞の「の」は母音が脱落して「ン」となることがある。

[34] イケテ

埋めて。「イケル」は「埋める」の意。

[35] セーセー

たくさん。十分に。「飽きるほど」といった意味合いがある。

[36] ヨッチョイク°ルマ

各集落などで共同出資をして作った、水車利用の製粉精白加工施設。「ヨッチョイ」は「寄り合い」に由来する。「クルマ」は「水車」の「車」。

[37] クルマヤ

水車小屋。製粉所。製粉精白加工施設。

[38] イシオス

石臼。当該地域を含め山梨方言では「ウ」が「オ」に交替することがある。

[39] エライ

大変な。

[40] シ

人。「衆」に由来する。

[41] ヒケシ

挽きなさいよ。「シ」は命令形に接続する終助詞で、意味を強めたり、やわらげたりする。

[42] ジャン

～じゃないか。この場合、「ジャン」は「～ではないか」にあたる。

[43] コー コーデ

25Bにおいて、この部分まで話をしているとき、Bは実際に、歯車の回る様子を動作で示しているようである。

[44] タベルジャ

食べるなら。当該地域を含め山梨方言では「～ならば」という仮定表現が「～ジャ（一）」となる。これは「～のでは」に由来する形である。

[45] マナマシ

真魚箸。竹製もしくは木製の大きな菜箸。「マナバシ」というべきところを「マナマシ」と崩れて発音したと思われる。

[46] ネリコシ

32Bでは、最後の方では「ネリモチ」「ネリンボー」「オネリ」「ネリコシ」など、さまざまな名称が出てきている。Bは、この発話の最初では「ネリンボー」のことを話し、そこから「オネリ」の作り方へと話を持っていくが、その途中で混乱させてしまったようである。

- [47] マーシテ
加えて。「増して」に由来すると思われる。
- [48] ネラシテクリョー
練らしてくれよ。「～テクリョー」は「～てくれよ」の意。
- [49] ター
感動詞。まあ。山梨方言ではほかに「ター」「テッ」「レー」「レッ」など
の感動詞がある。
- [50] オマン
おまえ。同等か目下の者、親しい者に使う二人称。
- [51] シル
する。
- [52] エレロバ
入れれば。当該地域を含め山梨方言では仮定表現の「-eba」が「-oba」と
なることがある。
- [53] オシノ
地名。山梨県南都留郡忍野村。
- [54] コイバ
肥場。堆肥場。
- [55] X4サン
塩山に一軒あったというお産婆さん（助産婦）の名前か。
- [56] ハー
早く。もう。「はや」から。
- [57] ヨッチャッテ
集まって。「ヨッチャル」は「集まる」の意。「寄り集まる」に由来する。
- [58] ヒトッキリ
ひとしきり。一時期。
- [59] ホッタ
(どうもろこしの) 芯。実のへたのことをいうこともある。
- [60] ソーイッタオー
そういうこと。「ソーイッタモノ」といおうとして、発音が崩れたのだ

と思われる。

[61] アズキダマ

小豆。

[62] モシタ

燃やした。当該地域を含め山梨方言では「モヤス」より「モス」が多用され一般的である。

[63] コムキ[°]ッコナデノモネー

小麦の粉でなくてもねえ。「デノモネー」は、「デナクテモネー」とでもなるべきところが崩れて発音されたのだと思われる。

[64] デル

できる。できあがる。当該地域を含め山梨方言では共通語の「できる」を「デル」といい、共通語の「出る」を「デキル」という。

[65] カミカネ

地名。以前の神金村。1954(昭和29)年の合併で塩山市になった。

[66] ホズレ

穂。「穂連れ」に由来すると思われる。

[67] テンデーッコ

手伝いっこ。手伝いをしあうこと。

[68] ゴレカンマワシ

「ごろかんまわし」ともいう。木材を運搬する方法の一つ。大木を丸太切りにして、切り口の中心に金具をつけた支え棒を打ち込み、坂道を転がして運ぶ。丸太をそのまま車輪にして運ぶという方法である。

[69] トビッコ

駆けっこ。徒競走。当該地域を含め山梨方言では「走る」を「トブ」という。

[70] ジツー

田辺治通(たなべ・はるみち)。話の中では名前は音読みされて「ジツー」となっている。1878(明治11)~1950(昭和25)。神金村出身の官僚、政治家。第36代内閣である平沼騏一郎内閣において1939(昭和14)年4月7日より逓信大臣を務めた(1939(昭和14)年1月5日の第35代内閣発足時は内閣書記

官長)。また1927(昭和2)年より1932(昭和7)年には大阪府知事を務めた。

[71] サンカ[°]サン

不明。「三か村」、「三つの村」の意味か。

[72] オーフジ

地名。以前の大藤村。1954(昭和29)年の合併で塩山市になった。

[73] タマミヤ

地名。以前の玉宮村。1954(昭和29)年の合併で塩山市になった。

[74] エマシテ

煮て柔らかくして。「エマス」は「(麦を) 煮て柔らかくする」の意。

[75] トートカッタ

貴重だった。「トートイ」は「尊い、貴重な、大切な」の意。共通語の「とうとい」に比べ多用される。

[76] クロコ[°]マ

地名。山梨県東八代郡御坂町黒駒。

[77] ミサカチョー

地名。山梨県東八代郡御坂町。

[78] イビリュー モロコシ

焼きとうもろこし。「イビリュー」は「イビリ」が崩れた発音になったものと思われる。「イビル」は「焼く」の意。「イビリモロコシ」といえば、囲炉裏の灰の中に埋めて焼いたものを指すこともあるが、この話脈から判断するに、通りで売っているものは火で焼いた「焼きとうもろこし」と考えられる。

[79] イビルク モロコシ

焼きとうもろこし。「イビリュー モロコシ」と同じ。

[80] オナカイレ

間食。山梨県内でも地域によって、午前中の間食を指したり、午後の間食を指したり、さまざまである。「ナカイレ」「オナケーリ」「ナケーリ」とも言う。

[81] ニテヤラー

煮てやるよ、炊いてやるよ。当該地域も含め山梨方言では、炊飯には「炊

く」ではなく「ニル」を使う。「ヤラー」は「ヤル+ワ」の融合した形。

[82] クレチモ一

やってしまう。与えてしまう。話し手が相手に与える場合、「クレル」を用いる。共通語の「(相手が私に) くれる」とは授受の方向が違う。

[83] タイヘン

たくさん。当該地域も含め山梨方言では量の多さを示す場合、「タイヘン」が多用される。

[84] チャオ一

このように聞こえるが、「茶碗を」と言おうとしたのが崩れたのだと思われる。

[85] ソイデモ

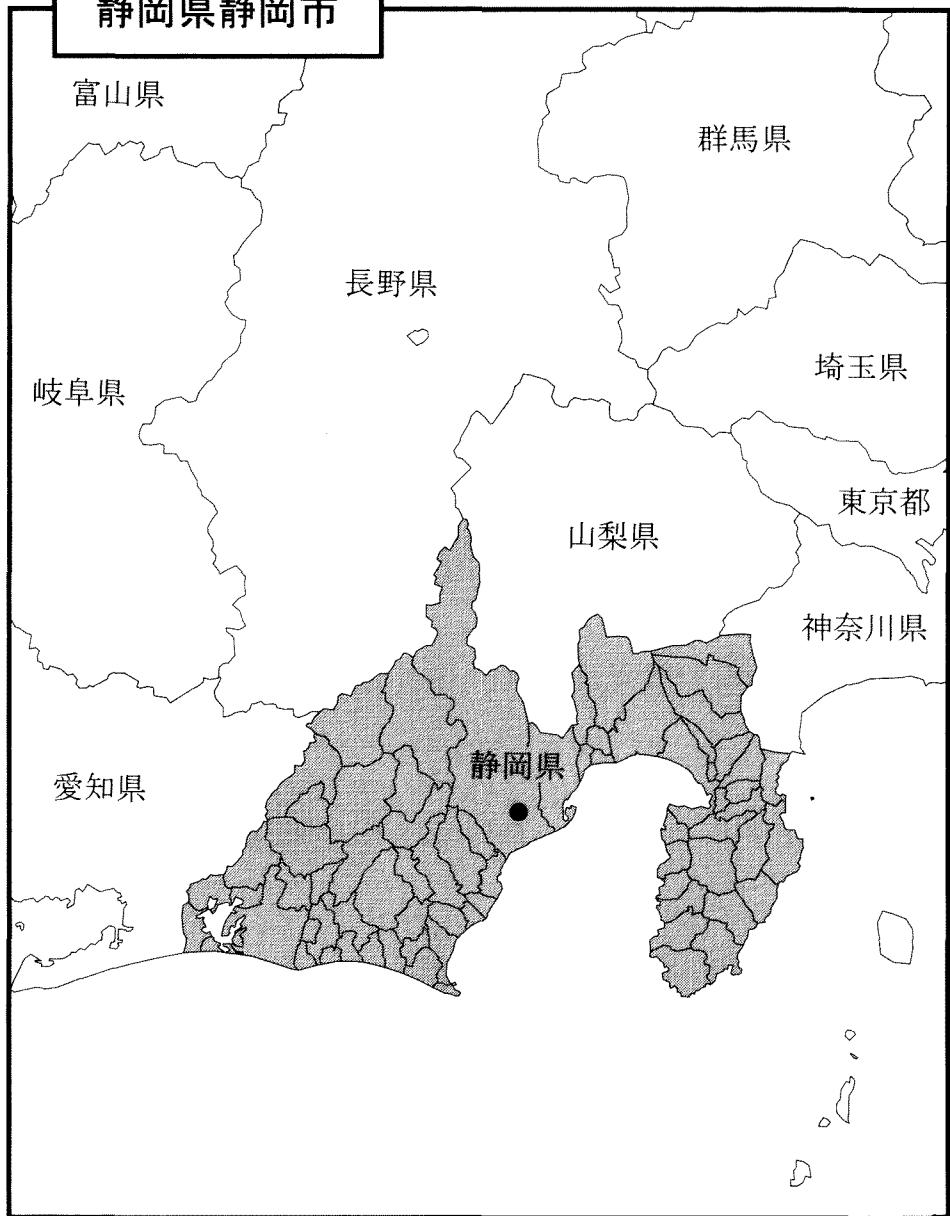
(米を) 研いでも。「(米を) 研ぐ」は当該地域では「ソグ」という。

[86] クイキデ ナクテモ

122Bでは、後半で、家畜のえさにする木の枝などを山に採りにいった話をしている。区域ごとに入山制限があったようにも聞き取れるが、詳細はこの発話からは不明。

**III. 静岡県静岡市
1979**

静岡県静岡市



静岡県静岡市1979話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	海野 銀一
	藤原 義太郎
	松永 惣之助
	山西 きみ
収録担当者	小泉 保
文字化担当者	小泉 保
	中田 敏夫
共通語訳担当者	小泉 保
解説担当者	小泉 保

(敬称略　項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	小林 澄子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

静岡県静岡市1979解説

収録地点名

しづおかけんしすおかし あしきほ おくぐみ
静岡県静岡市足久保奥組

収録地点の概観

位置

静岡市は静岡県の中央に位置し、収録地点の足久保は静岡市街地の北西部にある。

交通

足久保へは、静岡市街地のバスセンターから美和線奥長島行きで北西へ約50分。

地勢

静岡市の西側を流れ駿河湾へ注ぐ安倍川の河口から約15kmさかのぼった所に、西から流れ込んでくる足久保川がある。この足久保川の流域に足久保の集落が散在している。10kmあまりの足久保川の中央にあたる敷地を境にして、大字口組と奥組に分かれている。口組には平坦な田畠や茶畠が見られ、奥組では両側に山が迫っている。奥組は、敷地から栗島、谷沢、口長島、奥長島の順に上流へのびていて、最後の奥長島は三方が高い山で囲まれた行きどまりの集落である。

行政区画

足久保は、1871(明治4)年に静岡県に所属。1889(明治22)年に旧・安倍郡美和村の大字となり、1955(昭和30)年に静岡市に合併された。

戸数・人口

1975(昭和50)年10月1日現在、足久保は、世帯数582戸、人口2,583人である。なお、足久保口組は、静岡市街地の郊外の住宅地として団地化が急速に進み、近年戸数と人口が増加傾向にある。

産業

昔から茶の産地で、その品質は極めてよい。山村農業が主体で、戦前は炭焼きなどが盛んであったが、現在ではミカンの栽培も行われている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

静岡県の方言は、音韻・語法の面から「ナヤシ」（長野・山梨・静岡）方言に属し、俗に言う「ズラ」地帯に入る。特に、静岡市付近の方言は本州東部方言と本州西部方言との合流点にある。

音韻

(1) 連母音が融合する。

アイ, アエ → アエー [æ:]

アエ一タ (開いた)

ワエ一タ (沸いた)

ヤエ一タ (焼いた)

ハナエ一タ ← ハナイタ (話した)

アカエ一 (赤い)

アサエ一 (浅い)

ミアエ一 (見合い)

カエール (帰る)

オイ, オエ, ウエ → エー

ホセー (細い)

オベール (覚える)

フケー (服へ)

ウイ → イー

サミー (寒い)

次のように、融合しない例もある。

オイタ (置いた)

ウイタ (浮いた)

その他、以下のようなものもある。

ショイコ → セーコ (背負い道具)

オ一イ → オウエー (多い)

(2) 助詞「ワ」「オ」「エ」が、短母音で終わる2拍以上の名詞についていたとき、先行する母音と融合する。

ヤマー (山は)

イマー (芋は)

ニカー (肉は)

マミヤー (豆は)

カミヤー (紙は)

マツアー (松は)

ヤマー (山を)

イモー (芋を)

ニコー (肉を)

マミヨー (豆を)

カミヨー (紙を)

マツオー (松を)

ヤマエー (山へ)

イメー (芋へ)

ニケー (肉へ)

マメー (豆へ)

カメー (紙へ)

マツエー (松へ)

次の場合には、助詞との融合は生じない。

① 1拍の語

キワ (木は)

キオ (木を)

② 機音で終わる語

ホンワ (本は)

ホンオ (本を)

③ 長母音で終わる語

テッポーワ (鉄砲は)

テッポーオ (鉄砲を)

文法

(1) 動詞の過去形は「タ」または「タッケ」(回想), 形容詞・名詞述語の過去形は「ッケ」となる。

カエータ (書いた)

カエタッケ (書いた)

タカエッケ (高かった)

トリダッケ (鳥だった)

(2) 否定の「ない」は「ナエー」, 「なかつた」は「ナエーッケ」となる。

カカナエー (書かない)

タカクナエー (高くない)

トリジャーナエー (鳥ではない)

カカナエーッケ (書かなかつた)

タカクナエーッケ (高くなかった)

トリジャーナエーッケ (鳥ではなかつた)

(3) 条件形は次のようにになる。

カキヤー (書けば)

カエータラ (書いたら)

カカナケリヤ (書かなければ)

タカケリヤー (高ければ)

トリナラ (鳥なら)

トリデナエケリヤー (鳥でなければ)

(4) 中止形は次のようにになる。

カエーテ (書いて)

カキッコーシ (書かないので)

タカク (高く)

トリデ (鳥で)

(5) 動詞・形容詞の推量形は「ラ」, 名詞述語の推量形は「ズラ」で表される。

カクラ (書くだろう)

カエタッケラ (書いただろう)

タカエーラ (高いだろう)

タカエーッケ~~ヲ~~（高かっただろう）

トリズ~~ヲ~~（鳥だろう）

トリダッケズ~~ヲ~~（鳥だっただろう）

状況証拠にもとづく推定は「ズラ」（のだろう）で表される。

カクズ~~ヲ~~（書くのだろう）

カエータッケズ~~ヲ~~, カエータッケツツ~~ヲ~~（書いたのだろう）

タカエーズ~~ヲ~~（高いのだろう）

タカエーッケズ~~ヲ~~（高かったのだろう）

(6) 励誘の助動詞は「ザー」である。

カカザー（書こう）

(7) 可能形は、能力可能と状況可能で異なる形をとる。

カケール, カカサル（書ける）〈能力〉

カケル（書ける）〈状況〉

(8) 「ている」「てしまう」「ておく」は、「テル」「チャウ」「トク」となる。

カエーテル（書いている）

カエーチャウ（書いてしまう）

カエートク（書いておく）

(9) 理由は「モンダデ」で表される。

カクモンダデ（書くから）

タカエーモンダデ（高いから）

トリダモンダデ（鳥だから）

カエータモンダデ（書いたから）

タカエーッケモンダデ（高かったから）

トリダッケモンダデ（鳥だったから）

(10) 逆接の「けれど」は「ケーガ」となる。

カクケーガ（書くけれど）

タカエーケーガ（高いけれど）

トリダケーガ（鳥だけれど）

カカナエーケーガ（書かないけれど）

タカエーッケケーガ（高かったけれど）

トリダッケケ一ガ (鳥だったけれど)

(11) 助詞「が」「の」にあたるものは「ン」となる。

ヤマン (山が)

イモン (芋が)

ニクン (肉が)

マメン (豆が)

カミン (紙が)

ヤマン (山の)

イモン (芋の)

ニクン (肉の)

マメン (豆の)

カミン (紙の)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿、および、『静岡県の方言調査報告書（静岡県の方言一方言収集緊急調査報告書一）』（静岡県教育委員会、1984年）による。)

静岡県静岡市1979凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなmajiriで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるよう、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「一」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。 (句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

 そうです。 そうです。

、 (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

 市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

* * * 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

／＼＼ 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼー／ モジナンデスナ、

／＼＼＼ 「文字」なんですね。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意訳であることを示す。

例：イマ ュー

今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して |

[] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・

共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「静岡23-1」は CD トラック番号が23で、その1ページ目ということである。「静岡23-1」「静岡23-2」……「静岡23-6/24-1」……「静岡34-3」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑23, **23↑24**, …… **33↑34**, **34↑** のように表示される。

第8巻のCD（69分11秒）には、静岡県静岡市の談話、【お茶の話】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
23	p.168・ℓ.1	p.173・ℓ.9	0:02:06
24	p.173・ℓ.9	p.179・ℓ.7	0:02:04
25	p.179・ℓ.7	p.186・ℓ.7	0:02:28
26	p.186・ℓ.9	p.191・ℓ.11	0:01:58
27	p.191・ℓ.11	p.197・ℓ.15	0:02:14
28	p.197・ℓ.17	p.202・ℓ.3	0:02:04
29	p.202・ℓ.3	p.207・ℓ.15	0:02:03
30	p.207・ℓ.17	p.213・ℓ.13	0:01:59
31	p.213・ℓ.13	p.219・ℓ.15	0:02:05
32	p.219・ℓ.17	p.226・ℓ.13	0:01:58
33	p.226・ℓ.15	p.231・ℓ.17	0:01:54
34	p.231・ℓ.17	p.233・ℓ.19	0:00:50
計			0:23:43

静岡県静岡市1979談話

収録地点 静岡県静岡市足久保奥組

収録日時 1979(昭和54)年8月7日

収録場所 静岡県静岡市足久保奥組 話者A氏宅

話題 お茶の話

話者

- | | | | | |
|---|---|-------------|----------|----|
| A | 男 | 1906(明治39)年 | (収録時73歳) | 農業 |
| B | 男 | 1906(明治39)年 | (収録時73歳) | 農業 |
| C | 女 | 1909(明治42)年 | (収録時70歳) | 農業 |

司会者

- | | | | | |
|---|---|-------------|----------|-----------|
| D | 男 | 1902(明治35)年 | (収録時77歳) | 農業, 元菓子卸商 |
|---|---|-------------|----------|-----------|

調査者

- | | |
|---|--------------|
| 男 | (収録談話中に発話なし) |
| 男 | (収録談話中に発話なし) |

収録時間 (CD) 23分43秒

なお、「各地方言収集緊急調査」の報告書として、『静岡県の方言調査報告書(静岡県の方言一方言収集緊急調査報告書一)』(静岡県教育委員会発行, 1984(昭和59)年3月)が作成されている。

【お茶の話】

話し手

- A 男 明治39年生 (収録時73歳)
- B 男 明治39年生 (収録時73歳)
- C 女 明治42年生 (収録時70歳)
- D 男 明治35年生 (収録時77歳)

1 C : アノ ムカシ一 アシクボ ッテ ユー トコニヤー
あの 昔 足久保 と いう ところには
↑23
クチ[1]カラ オク[2]マデ ジューゴ[°]ケンシカ
口[組]から 奥[組]まで 15軒しか

ウチン ニヤーダソーナッキヤー。 (B ウーン)
家が なかつたそだよ。 (B うん)

ソレン ヘーカラ ジューゴケンノ ウチン アッテ
それが それから 15軒の 家が あって

ソノ シューカ[°] ヘーカラ ミンナシテノ アノー
その 人たちが それから みんなでね あのう

オチャ一 トッテ ソノ オチャ一 ヘーカラ
お茶を とつて その お茶を それから

エ一 エリヤ一 アノー シュヌリノ ハケー コシラエーテ エレテ
×× すごい あのう 朱塗りの 箱へ こしらえて 入れて

静岡 23-2

(D フーン) ソーシテ ショーク[。]ンサンニ アノ

(D ふうん) そうして 将軍さんに あの

ケンジョーシタダソーナケーカ[。] ソノ トキニ アノー
献上したのだそうだけれども その ときに あのう

ムラノ アノー ショーヤサンカ[。] ソノ キャータ モノ
村の あのう 庄屋さんが その 書いた もの[を]

チャント フトコロエ エレテ モッテッタダソーナケーカ[。]
ちゃんと 懐に 入れて 持って行ったのだそうだけれども

(B ハー) ソノ カキモノー アノー ショーヤサンノ

(B はあ) その 書きものを あのう 庄屋さんの[=が]

ミヤー イッタラ ダスコトン デキナクテ ダ ダス
[將軍の]前に 行ったら 出すことが できなくて × 出す

ヒマン ナクテ (B フーン) コーシテ アノー
暇が なくて (B ふうん) こうして あのう

ヘーフクシチャッテ ***

平伏してしまって ***

2 B : ウーン。ナルホド。ソー (C ウン) ソー ュー ワケダ
うん。なるほど。そう (C うん) そう いう わけだ

オソレイイッチャッテ。

恐れ入ってしまって。

3 C : ウン。 オソレイッチャッテ。 (A ウン) (B ウン)
うん。 恐れ入ってしまって。 (A うん) (B うん)

ヘーカラ コマッチャッテ {笑} アレーダッテ アノー
それから 困ってしまって {笑} あれだってあのう

ナンテ ュー トコダッ ツッタトコン
なんと いう ところだ と[将軍が]言ったところが

ソノ アシクボダ ッテ。
その 足久保だ って[庄屋が答えた]。

ソノ アシャー ナンテ ュー アシダ ッテ
その 「あし」は なんと いう 「あし」だ って

ユッタトコン
[将軍が]言ったところが

ソノー エレテアルダモンダンテ
そのう [書いたものは懐に]入れてあるのだから

ダスワケニ イカナクテ (B ウーン)
出すわけに いかなくて (B うん)

ヘーデ アノー ソノー フントワ
それで あのう そのう ほんとうは

アシノコノ アシ ト ュー ジダッケダケーカ°
「葦」の子の 「葦」 と いう 字だったのだけれど

静岡 23-4

ソレガ° ヘージヤー アシノ アシカ ッテ
それが それでは 「足」の 「足」か と

ショーク°ンカ° キータモンダンテ
将軍が 聞いたものだから

(B フーン。 ハー。 {笑}) ソーダ ッテ {笑}
(B ふうん。 はあ。 {笑}) そうだ って {笑}

ウソ ユッテシマッタダッテ。 (B ウーン) (A {笑})
嘘[を] 言ってしまったんだって。 (B うん) (A {笑})

ヘーデ ソレカラ アシクボカ° アノー
それで それから 「葦」久保が あのう

アシン ナッチャッタダッテ。 (D ハー)
「足」[久保]に なってしまったんだって。 (D はあ)

アシノ アシクボン ナッチャッタダッテ。 (B フン)
「足」の 足久保に なってしまったんだって。 (B ふん)

ヘーデ アノー ショーク°ンサンカ° ュー コトニヤ
それで あのう 将軍さんが 言う ことには

ソレカラ アシクボノ オチャワ ヒヤー アノー ソノー¹
それから 足久保の お茶は もう あのう そのう

ナカ° ワル***
名が 悪い***

静岡 23-5

4 B : ノマネー ッテ。 ノマ ノマネア ッテ。 ウン。
飲まない って。 ×× 飲まない って。 うん。

5 C : ノマニヤー ッテ ュー コトン ナッテ ヘーデ ヨシン
飲まない って いう ことに なって それで 止めに

ナッタダソーナッキ。 {笑} (A・B {笑})
なったのだそうだった。 {笑} (A・B {笑})

ソーュー ハナシモ キータッキ。 (B ホーカナ)
そういう 話も 聞いたっけ。 (B そうかな)

ソレカラー コッチー マズ アシクボノ ウチモ
それから こっち まず 足久保の 家も

フエタモンダイノー。 (B ウーン) ジーブン。 (B ウン)
増えたものだなあ。 (B うん) ずいぶん。 (B うん)

6 A : ジューゴケンダッケカナー。
15軒だったかなあ。

7 C : ジューゴケンダッテ ムカシ。 (A ハー)
15軒だって 昔。 (A はあ)

8 B : フーン。 ソーダッケカナー。
ふうん。 そうだったかなあ。

9 C : シキジ[3]ニ ゴケン アッテ (A ウン)
敷地に 5軒 あって (A うん)

モロカ[°]一[4]ニ イッケン アッテ (A・B フン)
諸川に 1軒 あって (A・B ふん)

ヘーカラ アノー シンメーハラ[5]ニ
それから あのう 神明原に

ヤッパ イッケンダカ ニケン アッテ (B フーン)
やっぱり 1軒だか 2軒 あって (B ふうん)

フナンザー[6]ニモ イッケンダカシカ ニヤーッケダッテ。
船沢にも 1軒だかしか なかったんだって。

(A フーン) ヘーデ コッチニ アノー ナカ[°]シマ[7]ノホーニ
(A ふうん) それで こっちに あのう 長島のほうに

23↑24

ヤッパ ニサンケ[°]ンシカ ニヤーッケダッテ。
やっぱり 2、3軒しか なかったんだって。

(B ソーダッキカナー) (A フーン)
(B そうだったのかなあ) (A ふうん)

ソレデ ソックリ ガッペーシテ (B フーン)
それで そっくり 合併して (B ふうん)

ジユーゴケンダソーナッキヨ。 (B ハー) ソノ トージニ。
15軒だそうだったよ。 (B はあ) その 当時に。

10A : ソノ ジブンニ ヤッパ ソノ ケンチョーシル チャワ
その 頃に やっぱり その 献上する 茶は

静岡 24-2

アノー クリジマノ チャコ[。]ヤ ッテ イマ ュー ホレ
あのう 栗島の 茶小屋 って 今 いう ほれ

メーションカ[。] アルダケーガ[。] (C ウン)
名所が あるのだけれども (C うん)

ソコデ ャッパ コサエタダカシラ。
そこで やっぱり こしらえたのかしら。

11C : ドーモ ソコジャー マダ チャコ[。]ヤナンテ ュー モナー
どうも そこでは まだ 茶小屋なんて いう ものは

ニヤーダ ニヤーラシーナ。 (A ハー) ソーユー ウチャ。
×××× ないらしいな。 (A はあ) そういう 家は。

(A フーン) ソレカラ ゴノ コンダ ソーユー コター。
(A ふうん) それから 後の ことだ そういう ことは。

12A : フーン。 ナルホド。 (C ウン)
ふうん。 なるほど。 (C うん)

ジャ チャコ[。]ヤン デキタ ジブンジャー
じやあ 茶小屋が できた 頃なら

ヒヤー ソートー エー ナンテ ユーカ ソノ
もう 相当 ああ なんと いうか その

イクネンモ タッタ アトン ナルワケダ。 ウーン。
何年も たった 後に なるわけだ。 うん。

13C：ウン。 ソーダ ソーダ。

うん。 そうだ そうだ。

14B：アメリケー ソノー ヤル トキニ デキタラシージャ***

アメリカへ そのう やる 時に できたらしいじや***

チャコ[。]ヤ ッテ ユーノンナ。

茶小屋 って いうのがな。

15C：アー ホーキャ。 (B ウン) (A ウーン)

ああ そうかい。 (B うん) (A うん)

ヘージャ マダ ズーット イマノ {笑}

それでは まだ ずっと 今の {笑}

ソレコサ (A ウン) アレダ ソリヤ マダ アシクボカ[。]

それこそ (A うん) あれだ それは まだ 足久保が

タンダ ジューゴケンシカ ニヤー ッテ ューダンテ。 {笑}

たつた 15軒しか ない と いうのだから。 {笑}

(A {笑} ジュー ジューゴケンジャー)

(A {笑} ××× 15軒では)

ゼンブデサ。 (A ウーン)

全部でさ。 (A うん)

ソノトキニ ヘーデモ ワシラン アタリヤ アッタダソーナ[8]

その時に それでも 私たちの あたりは あったのだそだよ

C ゃ。

C は。

16B : ゾーカナ。 ウーン。 (A フーン。 ナルホド)
そうかな。 うん。 (A ふうん。 なるほど)

17C : アー。 アノー シキジニ Cニ Aニ
ああ。 あのう 敷地に C[家]に A[家]に

ヘーカラ Dニ X1ニ (A ウン)
それから D[家]に X1[家]に (A うん)

X2ト ゴケン アッタソーナ。
X2[家]と 5軒 あったそうだ。

18B : ハー。
はあ。

19A : ナルホド。
なるほど。

20C : ヘーデ アノー ムラノ コター {笑}
それで あのう 村の ことは {笑}

ソーユーニ ワカルダケーカ。 ヘーデ アノー
そういうように わかるのだけれど それで あのう

シンメハラニ イ ノ ムラエー イクト
神明原に × の 村へ 行くと

静岡 24-5

X3サン テ ホイ (A ウン ウーン)

X3さん って ほら (A うん うん)

アノウチ イッケンダソーナヨ。 (A ウーン) (B ウン)

あの家 1軒だそうだよ。 (A うん) (B うん)

ウン。 ヘーデ モロカ[。]一ノ ホーイ イクト

うん。 それで 諸川の ほうへ 行くと

X4サンカ[。] ヤッパ イッケンダカ (B ウーン)

X4さんが やっぱり 1軒だか (B うん)

21A : ウーン。 ナルホド

うん。 なるほど

22C : ト ヘーカラ アノー ドコダッキ。

と それから あのう どこだっけ。

23A : ヤソオカ [9] ジャー

八十岡では

24C : ウン。 ヤソオカニ ニケン アッタットウツキヤ。

うん。 八十岡に 2軒 あったといったなあ。

25A : ウーン。 X5ト (C ウン)

うん。 X5[家]と (C うん)

X6ク[。] ラエーダッケズラヤナー。 (C ホーダ)

X6[家]くらいだったのだろうなあ。 (C そうだ)

静岡 24-6

26B : チャコ[。] ヤカラ ソノ一 ウシン ヒカセテ ダエーテ
茶小屋から そのう 牛に 引かせて 出して

シミズ[10]カラ
清水から

27C : ウン。 ソリヤ ヒヤー アノ ホレ
うん。 それは もう あの ほら

28B : ヤッタッテ コッチノ コンズラ モット。
やったって こっちの ことなのだろう もっと。

29C : コッチノ コンダナ。 (B ウン) (A フーン)
こっちの ことだな。 (B うん) (A ふうん)

ヘーデ ムカシャー オチャモ トートシー モンダッケダヨ。
それで 昔は お茶も 尊い ものだったんだよ。

ワシラン ワシン ジューハチノトキニ
私たちが 私が 18[歳]の時に

ヨメッコニ キタダッキナ[11]
嫁に 来たのだったな

コノ アシクボ ッテ ュー トケー。
この 足久保 と いう ところへ。

(B フーン。 ソーカナー) (A ウン)
(B ふうん。 そうかなあ) (A うん)

シキジー。 (B フーン)

敷地へ。 (B ふうん)

ヘーデ アノー ソノトキニヤ ホレ サンニンデ オチャワ
それで あのう その時には ほら 3人で お茶は

オラン ツムダッキ。 (A フン) (B ハ一)

私たちが 摘むのだった。 (A ふん) (B はあ)

ソノ オチャ ツンデサ ヘーカラ アノー トーサンカ°

その お茶[を] 摘んでね それから あのう おとうさんが

24↑25

コシャウダッキ コーシテ ハウチ[12]カラナ。

こしらえるのだった こうして 葉打ちからね。

{笑} オチャ コシャーテ。

{笑} お茶[を] こしらえて。

30B : ウン。 ハウチカラ。 ムカシャー ソーダッケデナー。

うん。 葉打ちから。 昔は そうだったからなあ。

31A : シタカラ モムダッケッテナ。 (C ウン)

下から もむのだったそだだからな。 (C うん)

32C : ヘーデ オラン ウチャ ヒヤー オラン ザエーショア

それで 私の 家は もう 私の 郷里は

オチャン ムカシカラ イキヤー[13]ツキモンダンテサ (A ウン)

お茶が 昔から 多かったものだからさ (A うん)

コーチャー コー テマエシノ キキャーカ。 アッタダイナ。
こうしては こう 手回しの 機械が あったのだよな。

(B ウーン) (A ハ一)

(B うん) (A はあ)

ヘーデ コッヂ キタラ ニヤーダイナ マダ。
それで こっち[に] 来たら ないんだよな まだ。

ヘーダモンダンテ コーシチャ コー アノ ハウチカラ
だから こうしては こう あの 葉打ちから

(A {笑}) オチャー シチャー

(A {笑}) お茶を しては

ヘーカラ デンク^リ[14]オ ャッチャーナ。
それから でんぐりを やってはなあ。

(A ウン) (B ウン) アショ一 ボタボタ

(A うん) (B うん) 足を[=に] ぼたぼた

ボタボタ オテーチャ オチャ モムダッキダヨ。
ぼたぼた 落としては お茶[を] もんだものだよ。

ヘーデ アノ一 ソーシテ オチャー コシャーッテナー。
それで あのう そうして お茶を こしらえてなあ。

ソノ オチャン マズ イッショーケンメ ツンダ
その お茶が まず 一生懸命 摘んだ

ゼンブノ ワシラン ザエーサンカ[。]ナ
全部の 私たちの 財産がな

タンダ ヒヤクエン トレタダヨ。 (B フーン)
たった 100円 かせいだのだよ。 (B ふうん)

ソノ トージニ。 ワ
その 当時に。 ×

33A : ヒヤクエンジャ エーホーダ。 イカエ一ホーダ***
100円なら いいほうだ。 多いほうだ***。

34B : ヒヤクエンジャー トレタホーダッケズラナー。
100円なら かせいだほうだったのだろうなあ。

35C : ヒヤクエン トレタダヨ。
100円 かせいだのだよ。

36A : ウン。 イカエ一ホーダッケズラ。 (B ウーン)
うん。 多いほうだったのだろう。 (B うん)

37C : ヘーデ ヘーカラ コンター オキヤーコサンオナー デヤーフ
それで それから 今度は お蚕さんをなあ ××××

デヤーハチク[。]ルマデ ホレ コロコロ コロコロ アノ ホレ
大八車で ほら ころころ ころころ あの ほら

ヒーテ (B ウーン) カネッパンノ アノ クルマデ。
引いて (B うん) 金属の輪の あの 車で。

静岡 25-4

ソーシチャ クーワ キッテキチャー アノー シルダッキンサ。
そうしては 桑[を] 切ってきては あのう するのだったがね。

(B ウーン) ソノ マタ アノー チャ ャットデ
(B うん) その また あのう 茶[を] やつと

オヤーテ[15]デサ。 ヘーカラ オキャーコ カウダヨ
終わらせておいてね。 それから お蚕[を] 飼うのだよ

チーットバカ マタ。 ソーシテ オキャーコ カッチャー
少しばかり また。 そうして お蚕[を] 飼っては

ヒヤー イルトサ (B ソーダッケナ) ソノマニヤー
もう いふとね (B そうだったな) その間には

ヒヤー ミンナン アノー オキャーコ カワニヤー
もう みんなが あのう お蚕[を] 飼わない

シューワナー (B ウン) タオ ユエタリ シルダヨ。
入たちはなあ (B うん) 田を 植えたり するのだよ。

(A ウーン) ヘーデ
(A うん) それで

38B : シコ°ト マーイチャーッテ[16]ナー。 (A {笑})
仕事[を] しまってなあ。 (A {笑})

39C : ウン。 シコ°ト マーイチャッテ。 (B ウン) (A ウン)
うん。 仕事[を] しまって。 (B うん) (A うん)

静岡 25-5

ヘーデ オラアタリヤ キ ソレコサ キカ。 モメチャー
それで 私あたりは × それこそ 気が もめでは

マデ フーント {笑} (B {笑}) ソーダッケズラ**
まるで ほんとう {笑} (B {笑}) そうだったのだろう**

オヨソ クローシテサ (B ウン) ソーシチャー ヘーカラ
だいたい 苦労してね (B うん) そうしては それから

オキヤーコデ マタ ソノ ヒヤクエン トッタダヨ。
お蚕で また その 100円 かせいたのだよ。

(B フーン) ヘーデ ヘーカラ ソノ トシニ アノー マダ
(B ふうん) それで それから その 年に あのう まだ

オレン キタバッカノ コンダッキンサ。 (A フン)
私が 来たばかりの ことだったんだとね。 (A ふん)

オラン トーサンカ° タンボ カッテクリョー ナンテ
私の おとうさんが 田んぼ[を] 買ってくれ なんて

アノー ミセノ X7サンカ° X7
あのう 店の X7さんが X7

X7ツアンカ° (A ウン) (B ウン) アノー
X7さんが (A うん) (B うん) あのう

タンボ カッテクリョー ナンテ ユーダヨ。 (B フーン)
田んぼ 買ってくれ なんて いうのだよ。 (B ふうん)

X8サン タンボ カエヨ。 オレン ウルンテ ッテ
X8さん 田んぼ 買えよ。 私が 売るから って

ゾー ュッテクレテサ。 (B フーン) ヘーカラ
そう 言ってくれてね。 (B ふうん) それから

ナンダリ ニヒヤクエンシカ ゼニン ニヤーダイナー
なんといつても 200円しか お金が ないのだよなあ

オキャーコデ (B フーン) ヒヤクエン
お蚕で (B ふうん) 100円

オチャデ ヒヤクエン (B {笑}) トッテ {笑}
お茶で 100円 (B {笑}) かせいで {笑}

(A ホーカナ。 {笑}) ヘーカラー ソノー {笑}
(A そうかな。 {笑}) それから そのう {笑}

ソノ ゼニデ カウダンテ ドーシズ ナンツッタコンサ
その お金で 買うのだから どうしよう などといったところがね

アレデモ アノー ニヒヤクゴジューツボバカノ ゾノ
あれでも あのう 250坪ばかりの その

タンベツダダイナ。 (A ウーン) (B ウーン) ゾノ
反別なんだよな。 (A うん) (B うん) その

タンボガ。 (A ウーン) (B アー) ゾレン
田んぼが。 (A うん) (B ああ) それが

静岡 25-7

ニヒヤクエンデ カッタジャン[17] ソン トキ。
200円で 買ったじゃない その 時。

(B フーン) ドーモ イマ オレン ヒチジュッサイニ
(B ふうん) どうも 今 私が 70歳に

ナルダケン ソン トキ ジューハチグリャーン トキノ コト
なるのだけれど その 時 18[歳]くらいの 時のこと

(B フーン) ジューハチデ ヨメッコニ キテ
(B ふうん) 18で 嫁に 来て

ソノ トージダッキデ。
その 当時だったので。

40A : マー ソンナコンダッキズラナー。 (D ***)
まあ そんなことだったのだろうなあ。 (D ***)

41B : ニヒヤクエン トレタジャ タマンナエー オチャト
200円 かせいだのでは たまらない お茶と
オキヤーコデ タマンナエーモンダッキ***
お蚕で たまらないものだった***

42A : ソンナコン*** ソンナコンダッキズラ。 ウーン。
そんなこと*** そんなことだったのだろう。 うん。

43C : {笑} ヤットデ ソノクリヤーダッキヨ。 (B ウーン)
{笑} やつと そのくらいだったよ。 (B うん)

静岡 25-8/26-1

ソンナコンデ マズ ジーブン ムカシャー クローシタダヨナー。
そんなことで まず ずいぶん 昔は 苦労したのだよなあ。

44B : ャットジャー ヨーイナ コンジャ ナエーナ。
やっと[そのくらい]では 容易な ことでは ないな。

ニヒヤクエン トルッテ コターナー。 ソリヤー。
200円 かせぐって ことはなあ。 それは。

45C : オヨソ クローシタダヨ。 (B フーン)
たいてい 苦労したのだよ。 (B ふうん)

25↑

— 中 略 —

46C : ツユン アノ カラツユダッキモンダンテ (A ウン)
梅雨が あの 空梅雨だったものだから (A うん)

↑26

ナカナカ クローシタダイナ タンボモ。
なかなか 苦労したのだよな 田んぼも。

47A : ソーダッケツラヤー。
そうだっただうなあ。

48C : ウン。 セーデサ アノー イツモ ホレ ジョソーザイ ットウ
うん。 それでね あのう いつも ほら 除草剤 という
アノー コー タマノ アノー ツボノ ショードコ シルダヨ。
あのう こう 玉の あのう 粒の 消毒を するのだよ。

静岡 26-2

(A ウン) (B ハーン) ユエテ イッシューカン タツト。
(A うん) (B はん) 植えて 1週間 たつと。

(A ウン) ソーシテ コー ソックリ タンボ イチメンニ
(A うん) そうして こう そっくり 田んぼ 一面に

フットクトサ クサン ナンニモ ハエニヤーダヨ。
ふっておくとね 草が なにも 生えないのだよ。

(A フン) (B フーン) コトシャー ホレ ツユン
(A ふん) (B ふうん) 今年は ほら 梅雨が

カラダモンダデナ。 (B ウーン) ヘーダモンダンテ
空[梅雨]だものだからな。 (B うん) それだものだから

アノー ソリョー シル トキン ニヤーッキダヨ。
あのう それを する 時が なかつたのだよ。

49A : *** ウーン。 ウン。 ホーカ。
*** うん。 うん。 そうか。

50C : ミズン ヒルト ソノ イネン イタムモンダンテナ ャッパ。
水が 乾くと その 稲が 傷むものだからな やっぱり。

(A ウン。 ホーカ ホーカ) ヘーデ アノー アレダヨ。
(A うん。 そうか そうか) それで あのう あれだよ。

ションナクテ ソリョー シニヤーモンダンテ
しようがなくて それを しないものだから

静岡 26-3

クサン ハエチャッテ クサン ハエチャッテナ。 {笑}
草が 生えてしまって 草が 生えてしまってな。 {笑}

(A {笑}) (B フーン) マーデ {笑}
(A {笑}) (B ふうん) まるで {笑}

エリヤーメニ アッテサ。 (B フーン)
ひどいめに あってさ。 (B ふうん)

クサトリバッカ トーカモ カカッテ シ シタッキンサ。
草取りばかり 十日も かかるて × したけれどもね。

51B : ジョソーザイオ マエータッテ ×× アメン
除草剤を まいたって ×× 雨が

フラナエーモンデ シヨンナエーダイネ。
降らないものだから しようがないのだよね。

52C : ウン。 マクコトン デキニヤー。
うん。 まくことが できない。

53B : ウーン。 アー。 マクコトン デキナエーカ。 ウン。
うん。 ああ。 まくことが できないか。 うん。

54C : ウン。 マクコトン デキニヤー。 ヘーダモン
うん。 まくことが できない。 それだもの [=だから]

55B : マエータジャー ナエーダネ。
まいたのでは ないのだね。

56C : ウン。 マカニヤーダ。

うん。 まかないとだ。

57B : ホーカ。 ウーン。 アメン フリヤ イーダッケツランネー。

そうか。 うん。 雨が 降れば よいのだっただろうがねえ。

58C : ウン。 ソーダ。 アメン フリヤ イーダッキ。

うん。 そうだ。 雨が 降れば よいのだった。

(B ウーン) ナンショ ココラン タンボ ホー

(B うん) なにしろ ここらの 田んぼ[は] ほら

ヤッパー ミズカカリソ ワリーモンダンテ。 (A ウン)

やっぱり 水のかかりが 悪いものだから。 (A うん)

ミズマーリン ワリーモンダンテ ドーシテモナ デタ トコノ
水のまわりが 悪いものだから どうしてもな 出た ところの

タンボタ チガ[°]ッテサ。

田んぼとは 違ってね。

59A : ミズン

水が

60B : ヨビミズダデナー。

よび水だからなあ。

61C : ウン。 ヨビミズダデ。 (B ウーン)

うん。 よび水だから。 (B うん)

静岡 26-5

62A：ミズン キレタデナー。 (C ウーン)

水が きれたからなあ。 (C うん)

63B：ソーダッケカナー。 {咳} (C ウーン)

そうだったかなあ。 {咳} (C うん)

64C：ホイデ オットシャー マタ オットシデサ

それで 一昨年は また 一昨年でさ

イネン オゾクテ[18] アノー アレダッキヨ。

稻が 悪くて あのう あれだったよ。

シラハカ[°]リビヨー[19] ッテユー アノー ビヨーキン デテサ。

しらはがり病 という あのう 病気が 出てね。

(B ウーン) イネノ ハカ[°] シロク カレルダイナ。

(B うん) 稲の 葉が 白く 枯れるのだよな。

(B アー) ウン。 ソレデ ヘーカラサ

(B ああ) うん。 それで それからさ

アノー コメン トレナエート コマル トモッテ ャッパ

あのう 米が とれないと 困る と思って やっぱり

トショリヤ シンピヤーニ ナルダイナ。 {笑}

年寄りは 心配に なるのだよな。 {笑}

(B ウーン。 ソーダ。 ソーダイナー)

(B うん。 そうだ。 そうだよなあ)

静岡 26-6/27-1

へーカラ コトシャー クーホド ニャート コマル ナンテ
それから 今年は 食うほど ないと 困る なんて

オレン シンピヤーシタラ オラン トーチャンカ[。] ホーダナー
私が 心配したら うちの おとうさんが そうだなあ

コトシャ ドーモ カウ カ ナケリヤー カウバッカダ ナンテ
今年は どうも 買う × なければ 買うばかりだ なんて

ソ イッキンサ。 ナニ ヘー ヘーデモ トレル トキ
そう 言ったがね。 なに ×× それでも とれる 時[に]

ナッテサ ヘーカラ アノー ターラン ナッタラ キクモ
なってね それから あのう 俵に なつたら 聞くのも

ワリーンテサ イクヒョーバカ トレティルダカ トモッテ
悪いからさ 何俵ばかり 取れているのか と思って

26↑27

モノオキヨー アケテ ウチノ シューカ[。] イナエー トキ
物置を 開けて うちの 人たちが いない 時

キ キクノモ ワリーンテ オレンナー {笑} (B ウーン)
× 聞くのも 悪いから 私がなあ {笑} (B うん)

アノー {笑} スケベコンジョーデナー {笑} (A {笑})
あのう {笑} 助平根性でなあ {笑} (A {笑})

(B フーン) アノー (A ***) イヤ {笑}
(B ふうん) あのう (A ***) いや {笑}

カンジョーシテミズ トモッタダイ (A {笑}) アトデサ。
勘定してみよう と思ったのだよ (A {笑}) 後でね。

(B ウーン) (A ウン) ソーシタトコン ヘーカラ
(B うん) (A うん) そうしたところが それから

オラン トーチャン エー ヒトダモンダンテ (B ウーン)
うちの おとうさん[は] よい 人だものだから (B うん)

コトシモ バーチャン アノー コメン オゼーッキケーガ°サ
今年も ばあちゃん あのう 米が 悪かったけれどもね

ワリヤー アノー モミニ シテ ヒーテミタラ トレタモンダンテ
わりに あのう 粉に して ひいてみたら とれたものだから

コトシモ エーカンニヤ トレタンテ マンマモ ゾンブン
今年も かなり とれたから ご飯も 十分

クッテクリョー ッテ。 {笑} (B ウーン)
食ってくれ って。 {笑} (B うん)

ソ一 ュッテクレテナー。 (B ソーカナ)
そう 言ってくれてなあ。 (B そうかな)

65A : オランホーワー コノ タンボン ナエーモンダデナ。 (C ウン)
私のほうは この 田んぼが ないものだからな。 (C うん)

イマジャ コメン アマッテ コマル ナンテ ユーガ°
今では 米が 余って 困る なんて 言うが

静岡 27-3

ヤッパー トシン ヨッタ セーダカ
やっぱり 年が よった [=年を取った] せいなのか

ソノー {笑} (C {笑}) コメン ココジャ
そのう {笑} (C {笑}) 米が ここでは

トレナエーダモンダデ オチャバッカデ ホレ
とれないのだから お茶ばっかりで ほれ

クッテルダモンダデナー。 (C ウン) ナンショ
食っているのだからなあ。 (C うん) なにしろ

コメン トレナエー ナンテ ュート キガ[°]
米が とれない なんて 言うと 気が

ヒケルヨーナ [20] ナー ヤッパ。
ひけるようだなあ やっぱり。

66B : ソーダナー。 ソーダナー。
そうだなあ。 そうだなあ。

67C : ソーダヨ。 ミンナカ[°] トレナエー ナンテ ュートナー。
そうだよ。 みんなが とれない なんて 言うとなあ。

(B ウーン)
(B うん)

68A : ナー。 フンダデ ミンナノダッテモ
なあ。 それだから みんなのだって

静岡 27-4

タント トッテクレサイシリヤー (C ウーン。 ソーダ)
たくさん とつてくれさえすれば (C うん。 そうだ)

ミンナン {笑} アンシンシティラレル。 (C {笑})
みんなが {笑} 安心していられる。 (C {笑})

69B : トレタ ッテ ュヤ ウレシーケーカ°
とれた と いえば うれしいけれども

トレナエー ト ナルト コマル トモーダ。
とれない と なると 困る と思うのだ。

70C : {笑} ソーダイナー。 {笑} (B ウーン)
{笑} そうだよなあ。 {笑} (B うん)

71A : ナー。 {笑} ***
なあ。 {笑} ***

72B : カッテ クーホーダモンダデ。
買って 食うほうだから。

73A : ホーダヨ。
そうだよ。

74C : ムーカシャ ホレ アサモ ハヤクカラ バンケ°モ オソクマデ
昔は ほら 朝も 早くから 晩方も 遅くまで
ハタラクモンデナー。 (A ウン) コーメモ クッタダエナー。
働くからなあ。 (A うん) 米も 食ったんだよなあ。

静岡 27-5

(A ハー) ニジュッピョーノヨー トッタコメオ ソレオ ミンナ
(A はあ) 20俵あまり とった米を それを みんな

クッチャッテサ。 ソレデ マダ タリナクテ ムキ[。]ヨー
食つてしまってね。 それで まだ 足りなくて 麦を

オミヤー ニジューニヒョーグリヤー トッタダヨ。
あなた 22俵くらい とったのだよ。

アノ オームキ[。]ヨー ニジュッピョーグラエー トッチャサ。
あの 大麦を 20俵くらい とってはね。

ヘーデ コムキ[。]ヨー アノー ニヒョーグラエー トッタダヨ。
それで 小麦を あのう 2俵くらい とったのだよ。

(A ウーン) ソリョ ミンナ クッチャッタ オミヤー。
(A うん) それを みんな 食つてしまった あなた。

タリナエーク[。]リヤーニ。 (A {笑})
足りないくらいに。 (A {笑})

ドーシテ ヘーデモ ソー {笑} *** (A {笑})
どうして それでも そう {笑} *** (A {笑})

75B : ××× メシオ カワネーダケン ウルサク クッタダイ
××× 飯を 買わないのだけれど かなり 食ったのだよ

コメオナー。 ナンシロ メシオ クッタダイナー。
米をなあ。 なにしろ 飯を 食ったんだよなあ。

静岡 27-6

76C : マーズ クッタダナー。 ドーノクラエー クッタズー
とにかく 食ったんだなあ。 どのくらい 食ったのだろう

77B : テモリ ハチハイ ッテ ユコト ユッタダケーカ[。] エ
手盛り 8杯 って いうこと いったのだけれど ×

オンナシュダッテモエ クーダヨナー。
女人たちだって 食うのだよなあ。

78C : ソレデ サツマダッテモ ジーブン サエータサ。 (B ウーン)
それで さつまいもだって ずいぶん 植えたさ。 (B うん)

オマエー ニタンブグラエー サエータ。 (B ウーン)
あなた 2反くらい 植えた。 (B うん)

ソレデ キョーシツ[21]モ シルニヤー シタケーカ[。]サ。
それで 供出も するには したけれどもさ。

ソレモ (B ウーン) クッチャッテサ。
それも (B うん) 食ってしまってさ。

79A : ワカエー トキナ ナンニモ ホカニ イマノ ヨーニ
若い 時な なんにも 他に 今の ように

ソノー イエーヨーブンノ モノン コメダケニ
そのう 栄養分の ものが 米だけに

タヨッティタモンダデ (B ソーダッケナー) (C ウン)
頼っていたから (B そうだったなあ) (C うん)

静岡 27-7/28-1

タント クッタダイナ。 (B ウン)
たくさん 食ったのだよな。 (B うん)

80C : タント クッタダイナ。 (A ウン)
たくさん 食ったんだよな。 (A うん)

81B : ナンシロ クッタダイナ。
なにしろ 食ったんだよな。

82C : ソレデ イモデモ マダ ツクッタダンテナ ヤミヤー。
それで 今でも まだ 作ったのだからな 山へ。

(B ウーン) ムカシャ ヤミヤーバッカ ホイ
(B うん) 昔は 山へばかり ほら

イモモ ユエタダ。 ヤボ一 カッチャ一。
[里]芋も 植えたのだ。 薺を 刈っては。

83B : ウン。 サトイモ ッテ ユーノ。
うん。 里芋 つて いうの。

84C : ウン。 サトイモ。
うん。 里芋。

27↑

— 中 略 —

85A : ヤッパ ヤッパー コノ一 オチャノ タネー ハジマリヤー
やっぱり やっぱり この お茶の 種[の] 始まりは

↑28

静岡 28-2

ミナミノ ホーワ アノ キューシューノ ホーエ コー ナー
南の ほうは あの 九州の ほうへ こう なあ

オキナワノ ホーカラ キューシューエ コー ミナミノ ホーオ
沖縄の ほうから 九州へ こう 南の ほうを

ルートン コー キタラシーダヨ。 (C ホーカナー) ウン。
ルートが こう きたらしいのだよ。 (C そうかなあ) うん。

86B : アッチノ ホーカラナ。 (A ウン) シナカラ。 フネン。
あっちの ほうからな。 (A うん) 中国から。 船が。

(A ウン)

(A うん)

87A : {咳} ヘーカラ ココラノ オチャー ヤッパ
{咳} それから ここらの お茶は やっぱり

チューゴ[°]クオ トーッテ チョーセンオ ワタッテ (B ウーン)
中国を 通って 朝鮮を 渡って (B うん)

コー キタダナ。 (C ウーン) (B ハー)
こう 来たのだな。 (C うん) (B はあ)

ヘーダデ コー キタマーリンノト ミナミマーリト (B ウーン)
それだから こう 北まわりのと 南まわりと (B うん)

フタツ アッタ。 (B ウーン。 ソーカナー) (C ウーン)
ふたつ あった。 (B うん。 そうかなあ) (C うん)

静岡 28-3

ヘデ ショーイチコクシユン アノー オチャ モッテキタ
それで 聖一国師が あのう お茶[を] 持ってきた

ツテ ユーダケン アリヤ ヤッパ チューコ[。]クノ ホー
って いうのだけれども あれは やっぱり 中国の ほう

チョーセンエ マーッテ キタラシーダン。 (C ホー)
朝鮮へ まわって きたらしいのだが。 (C ほう)

(B ウーン) ウン。 ヘーダデ キューシュージャー アノー
(B うん) うん。 それだから 九州では あのう

ナンダカ アソコニ ナンダカ クチ一 デソーデ デナエーケーカ[。]
なんだか あそこに なんだか 口へ 出そうで 出ないけれども

ナンダカ ツテ ュー トコン アッテサ。 ヘーカラ オチャー
なんだか と いう ところが あってね。 それから お茶は

コッチノホーワ ヤッパ シゾーカンナー ホンバニ
こっちのほうは やっぱり 静岡がなあ 本場に

ナッテルダケーガ[。]サ。 (B ウン) イワユル
なっているのだけれどもね。 (B うん) いわゆる

ルートニヨッテ ヤッパ チカ[。]ウズラヨ。 (C ホー)
ルートによって やっぱり 違うのだろうよ。 (C ほお)

ウン。

うん。

88B：ソーダカモシンナエナー。

そうなのかもしないなあ。

89D：マ ドッヂニシテモ アー ソノ チューゴ[。]クカラ

ま どっちにしても ああ その 中国から

キタコトワ キタワケダネ。

きたことは きたわけだね。

90A：ウーン。 ムコーカラ キタダナ。

うん。 向こうから きたのだな。

91D：ソレデ ムコーエ イッテ (A ウーン)

それで 向こうへ いって (A うん)

オチャワ ヒジョーニ クスリニモ ナル ッテ ユーワケデモッテ
お茶は 非常に 薬にも なる と いうわけで

ソノ一 トチコゾー ッテ ノワ トチヤ[22]カラ デタ
そのう 栢小僧 と いうのは 栢屋から 出た

オッサンラシーケン。 (A ウン。 ソーダ ソーダ)

お坊さんらしいけれども。 (A うん。 そうだ そうだ)

ヒジリイッコクコクシタ チガウズラ。

聖一国師とは 違うだろう。

92A：ウン？

うん？

93D：ヒジリイッコクシ ッチュ ヤツ。

聖一国師 という やつ。

ヒジリイッコクシ ッツノカ° アノ オチャノ アレデモッテ
聖一国師 というのがあの お茶の あれでもって

トヨダ[23]ノ アソコニ アルケガ キネンヒカ° アルケーカ°
豊田の あそこに あるけれど 記念碑が あるけれども

94A：ソレター チカ°ウズラナ。 ウーン。

それとは 違うのだろうな。 うん。

95B：チカ°ウカモシンナエーナー ソレタナー。 ウーン。

違うかもしれないなあ それとはなあ。 うん。

96D：ソレトワ チカ°ウ ヒトダネ。

それとは 違う 人だね。

97A：ウン。 ショイチコクシダンテ アノヒター。

うん。 聖一国師だから あの人は。

アリヤ イマ アソコニ キヨートニ ホレ
あれは 今 あそこに 京都に ほら

イカッチャーアルズラケーカ°サ オテラニ。 (D ウン ウーン)
埋まつてはいるのだろうけれどもね お寺に。 (D うん うん)

ホレデ ャッパ アノー オーカー[24]ノホーノ
それで やっぱり あのう 大川村のほうの

ヒトダケーカ。 オーカーカラ シゾーカマデッテユート
人だけれども 大川から 静岡までというと

リテーカ。 ホレ コッチター アシクボー コー ケーユシテ
道のりが ほら こっちとは 足久保を こう 経由して

28↑29

ユクター サンリク[。]ラエー トイーダヨナ。 (C ホー)
行くのとは 3里くらい 遠いのだよな。 (C ほう)

ミチノリ ミチノリン。

道のり 道のりが。

98B : ソンナラヨーダナー。 オーカームラ (A ウン)
そんな感じだなあ。 大川村 (A うん)

マーッタジャナー。 (A ウン)
回ったのではなあ。 (A うん)

99A : ヘーダデ ムカシコンダモンダデ ホレ イズレモ
それだから 昔のことだから ほら いずれも

アエーンデ ワタラニヤー ナンナエーダモンダデナー。
歩いて 渡らなければ ならないのだからなあ。

ヘーカラ コッチオ コー マーッテ イッタダナ。
それから こっちを こう まわって 行ったのだな。

イマミタエーニ ノリモノカ。 アッテナヨージャー
今みたいに 乗物が あるようだったら

静岡 29-2

ムコ一ノ ホ一カ[。] ドーロモ イーシサ ホレ (B ウン)
向こうの ほうが 道路も よいしね ほれ (B うん)

ワキヤ一ネーダケーカ[。] デ ヤマー コエチャ一 コー ユク。
わけはないのだけれども。で 山を 越えては こう 行く。

ヘーデモ リテーデ サンリカラ チカ[。]ウラヨ。
それでも 道のりで 3里から 違うだろうよ。

100C : ホ一カナー。

そうかなあ。

101A : オナジ トチザ[25]カラ シゾーカエ デルノト。
同じ 栃沢から 静岡へ 出ると。

102B : ソーダカモシンナエーナ。
そうなのかもしれないなあ。

103A : イマ ユー コッヂエ コー マールノトジャナ。 (C ウーン)
今 いう こっちへ こう まわるとではな。 (C うん)

104B : アルク イジョー ホカニ ナエーダッケデ

歩く 以上 ほかに ないのだったから

チカエー トコ チカエー トコ ヤマー ヤマー
近い ところ 近い ところ 山を 山を

アエーンジャッタダナ。
歩いてしまったのだな。

静岡 29-3

105A : ホーダ。 {笑} チカエー トコ アエーンダダナー。 アシデ
そうだ。 {笑} 近い ところ 歩いたんだなあ。 足で

106B : イクラ ミチン エーックテモ ソノ ト一イトコワ ノボ
いくら 道が よくても その 遠いところは ××

マーラレナエーダッケツラヨ ャッパ。 ジカンカ°
回れなかつたんだろうよ やっぱり。 時間が

カカッチャウデナ。 (A ホーダ)
かかってしまうのでな。 (A そうだ)

107A : デ トチザーエ イクニ ココ ナンショ
で 栢沢へ 行くのに ここ なにしろ

イマジャ一 ハエ一 トシン ヨッタデ
今では もう 年が よつた[=年を取った]から

ナンダケーカ° トーケ°マデ ココ ョンジュップンジャー
なんだけれども 峠まで ここ 40分なら

イ イケタデナ。
× 行けたのでな。

108B : アー ソーカ。
ああ そうか。

109A : ウン。 コッカラナ。 (B ウーン)
うん。 ここからな。 (B うん)

静岡 29-4

ソシテ ムコーニ ニジュップンジャー ホレ クダリダモンダデ
そして 向こうに 20分なら ほら 下りだものだから

(B ウン) オリタダヨ。

(B うん) 降りたのだよ。

110B : イチジカンジャ ャッパ イケタダカ。
1時間なら やっぱり 行けたのか。

イチジカン テコト ユッケン。
1時間 ということ いうけれども。

111A : イチジカンジャー イケタナ。 (B ウーン)
1時間なら 行けたな。 (B うん)

ダン リテートシテモ ヘーダデ
だが 道のりとしても それだから

ソ一 タンター ナエーダヨナ。 (B ウーン)
そう たくさんは ないのだよな。 (B うん)

112B : ヨンジュップンシャ チット エラエークラエーダッケツラヨ
40分では 少し 大変なくらいだっただろうよ。

ホーダケン。
それだけれど。

113A : ロッキロ。 ハコノマエー ソ ソコデ。
6キロ。 // X そこで。

114B : アノー トーケ°マデサ。

あのう 峠までね。

115A : ウン?

うん?

116B : トーケ°マデ ョン アレ ョン

峠まで ×× あれ ××

117A : ヨンジュップンジャー

40分では

118B : イケタカナー。

行けたかなあ。

119A : イ イケタヨ。 (B ウーン) オレン アエーンデミテ

× 行けたよ。 (B うん) 私が 歩いてみて

*** (B ソーカナ) {笑} チューナ

*** (B そうかな) {笑} というのは

オラン カカ一 ムコ一ノ ホ一ノ ヒトダモンダデナ。

うちの おかあさん[は] 向こうの ほうの 人だものだからな。

(C {笑}) {笑} イワユル

(C {笑}) {笑} いわゆる

120D : トニカク アシクボワ ソノ一 オチャニヤー テキシテタ

とにかく 足久保は そのう お茶には 適していた

トコダッテデ ココエ ャッタワケダネー
ところだつていうことで ここへ やつたわけだねえ

トーワ。 (A ソーズラナ) ダカラ イマダニ
/// (A そうなのだろうな) だから いまだに

アシクボノ オチャワ ノミイー ッテ ワケデモッテ
足久保の お茶は 飲みやすい という わけでもって

イマダニ ャッテルデショ一。
いまだに やつているでしよう。

121A : ホーズラ。 ソレデ ャッパ ダンダン ホレサ
そうなのだろう。 それで やっぱり だんだん ほらさ

チカコ[°]ロジャナ (D ウン) ヒンシュカエーリョー
近頃ではな (D うん) 品種改良

シテクルモンダデ。 (B ウン) マー エートコー ジッ
してくるものだから。 (B うん) まあ よいところ ××

チンミン ヨクテ ヒンシュカエーリョー シタモンダデ
地味が よくて 品種改良 したものだから

29↑30

マツ セケンニヤー マケナエー。 (D ウン) トウート
まあ 世間には 負けない。 (D うん) というと

ホラー フクヨーダケーガ[°] (B ウーン。 ソーダナ)
ほらを 吹くようだけれども (B うん。 そうだな)

静岡 30-2

(C {笑}) マズ オチャ ッテユヤー アシクボッテモ
(C {笑}) まず お茶 といえば 足久保といつても

カケ[。]ンジャーナエーダヨ。

間違いではないのだよ。

122C : ヘーダケン ア
 そうだけれど ×

123B : ドーモ ヤブキタ[26]ン エータッテモ ナンタッテ
 どうも やぶきたが よいといつても なんといつても

ヤッパ コノー アシクボノ オクノ アノー ホレ
やっぱり この 足久保の 奥の あのう ほら

ヤブキタニヤー カナワナエーナー アジン。
やぶきたには かなわないなあ 味が。

(C ウン。 ソーズラヨ)
(C うん。 そうなのだろうよ)

オナジー ヤブキタデモ。
同じ やぶきたでも。

124A : チンミン ジカ[。] エーダヨ。
 地味が 地が よいのだよ。

125B : ジカ[。] エーダ。 イヤ。 ラシーナー ドーモ。
 地が よいのだ。 いや。 らしいなあ どうも。

静岡 30-3

126C : ノミジヤ カエ一 クル シューガ[。]
できあがったお茶[を] 買いに 来る 人たちが

アシクボノ オチャデナケリヤー ヒヤー ノメーナエ一 ッテ
足久保の お茶でなければ もう 飲めないと

ユージャンカ (B ウーン) イマジヤー。
いうではないか (B うん) 今では。

127A : ヘーカラ コサエーテミテ チカ[。]ウ。 (C ウン)
それから こしらえてみて 違う。 (C うん)

オチャン。 (B ウーン。 ソーカナー) ウン。
お茶が。 (B うん。 そうかな) うん。

アン コレカラー コノ一 シズハタ[27]ノホーエ マーッテ
ああ これから この 賤機のほうへ まわって

コー アカツチマン トケー イクトナ (B ウン)
こう //の ところへ 行くとな (B うん)

オチャー イマ コー コー テデ コサエーテイテサ (B ウーン)
お茶は 今 こう こう 手で こしらえていてね (B うん)

ヨーヤク コレデ イーオチャン ナルカナー ト
ようやく これで よいお茶に なるかなあ と

オモッタ ジブンニヤ パーット キチャウダヨ。
思った 頃には ぱあっと きてしまうのだよ。

128B : アー ソーカナー。

ああ そうかなあ。

129A : ウーン。 デ ココランナー コー モッテサエ イリヤー
うん。 で ここらのは こう もってさえ いれば

イツマデモ コー シトシト シテル (B ウーン)
いつまでも こう しとしと している (B うん)

ヘーダデ マックレー イー チャン デキルダヨ。
それだから 真っ黒い よい 茶が できるのだよ。

130C : エー オチャン デキルダナー。 (A ウン)
よい お茶が できるのだなあ。 (A うん)

131A : ヘダン アブラケン オーイ ッテ ューダカ
それだけど 油気が 多い と いうのか

132B : ドーモ オチャジャ一 オリヤー クローシタヤー
どうも お茶では 私は 苦労したよ

アノー ホレ コサエールニ。 (A {笑}) (C {笑})
あのう ほれ こしらえるのに。 (A {笑}) (C {笑})

デンク°リン タエーヘンデ。
でんぐりが たいへんで。

133C : ミンナ ソーズラ。
みんな そうなのだろう。

静岡 30-5

134B : ドーモ オチャジャ一 クローシタナ一。
どうも お茶では 苦勞したなあ。

135A : ヘーデモ {笑} ハエ一 オチャノ ケンキューカエーモ
それでも {笑} もう お茶の 研究会も

コンタ ツズケテ サンネン ヨネン イッタダカシラン。
今度 続けて 3年 4年 行ったのかしら。

136B : アー ホーカー。
ああ そうかあ。

137A : アソコノ ハラダ[28]ノ アレー ワカエ一 シューニ ***
あそこの 原田の あれ 若い 人たちに ***

ケンキューカエ一
研究会

138C : ヨク ヤルナ一。
よく やるなあ。

139B : コッチデモ オジーサン ヤッタダッキヨ。
こっちでも おじいさん やったのだったよ。

アノー ココデ (A ウーン) (C ウン)
あのう ここで (A うん) (C うん)

レンシューオ ヤッタダヨ。 (C ウン。 ウン)
練習を やったのだよ。 (C うん。 うん)

静岡 30-6

ココデ ャッパ。 ナー。 ャッ レンシュー ナンツー
ここで やっぱり なあ。 ×× 練習 なんという

モンドアリヤー。 ケンキューカエーカ。
ものだ あれは。 研究会か。

140A : レ レンシューダナ。
× 練習だな。

141B : サンネンバカ ャッタナー ココデ。 コノウチデ。
3年ばかり やったなあ ここで。 この家で。

142A : ホーダ。
そうだ。

143C : ホーカー。
そうかあ。

144B : ウン。 ウラモ イッテ ャッタダケーカ。
うん。 私も 行って やったのだけれども。

(C ウン。 ウン)
(C うん。 うん)

145A : レンシュー。 レンシュー ャッタダヨ。
練習。 練習 やったのだよ。

146B : モーチット ャッテサ アノー カイオ コサエーテ
もうちょっと やってさ あのう 会を こしらえて

アノー アリヨー コサエーリヤー イーダ。
あのう あれを こしらえれば よいのだ。

コノオジーサンカ[。] メンジョ ダシャー イーダッケ ッテ
このおじいさんが 免状[を] 出せば よいのだった って

オリヤー オ ユッタダヨ。 グズッタッケ。 イツダッケカ。
私は × 言ったのだよ。 ぐずったっけ。 いつだったか。

(A {笑}) (C {笑}) モッタエーナエーッケ ッテサ。
(A {笑}) (C {笑}) もったいなかつた ってさ。

サンネンモ ヤッタダデサ。
3年も やったのだからさ。

147C : モッタナエー。 ウーン。 モッタナエーッケナー。 (A フン)
もったいない。 うん。 もったいなかつたなあ。 (A ふん)

148B : ウーン。 トクベツニ オチャノ アイツオ ャッテサ。
うん。 特別に お茶の あれを やってさ。

30↑31

(C ウーン) コーシューオ ウケテサ。
(C うん) 講習を 受けてさ。

149A : デ コトシモ イッテキタデ アレ アノー
で 今年も 行ってきたので あれ あのう

ヤソオカノ ケンキューカエーエ。
八十岡の 研究会へ。

静岡 31-2

150C : ウーン。 イッテキタ。 (A ウーン) ウーン。
うん。 行ってきた。 (A うん) うん。

151B : アレ ドコデ ャッタ ッテモ
あれ どこで やった といつても

ホフクロノ センセーミタエーニ*ノ ダレデモ デキルヒトカ[。]
////の 先生みたいに*の だれでも できる人が

ヤリサエーシリヤ イツデモ エーダデサ。
やりさえすれば いつでも よいのだからね。

(C ソーダナー) ヤー ャッテサエーシリヤー (A ヘーデモ)
(C そうだなあ) ×× やってさえすれば (A それでも)

ソレン ダンダン アレン ナッテクルダイナ
それが だんだん あれに なってくるのだよな

アノ ホレ ケーケン ナッテクルダイ。
あの ほら 経験[に] なってくるのだよ。

152A : キヨービワ ヘーデモサ ソノー タダ テモミ ッテ ュー
この頃は それでもね そのう ただ 手もみ って いう

ホンノ ホゾンダケ ホレ ヤルダモンダデナ。
ほんの 保存だけ ほれ やるのだものだからな。

(C フン。 {笑}) ワズーカダカシカ コサエーナエーモンダデ
(C ふん。 {笑}) わずかしか こしらえないものだから

静岡 31-3

ラクダダン。 オレン シンショ シンショーナ モンワ
楽なのだが。 私が 身上 身上のようないものは

モタナエー マダ ワカエー シューノ ジブンニヤー
持たない まだ 若い 人たちの 頃には

アレダッケナー ヤッパ シタカラ ホレ コレ キカエーカ[。]
あれだったなあ やっぱり 下から ほら これ 機械が

ナクテ シタカラ コサエールダモンダデ イチソチニ
なくて 下から こしらえるのだものだから 1日に

ニカンメク[。]ラエー アゲナケリヤー (C ウーン)
2貫目くらい あげなければ (C うん)

ショソナエーダッケン。 (B ウーン) ドーモ {笑}
しかたないのだったが。 (B うん) どうも {笑}

アサノ イチジカ ニジジブンニヤ オキテ
朝の 1時か 2時頃には 起きて

153C : ヘージャー ドノクリヤー メカタン イクモンメダッケダ?
それでは どのくらい 目方が 何匁だったのだ?

154A : ナニ。
なに。

155C : シ シトッポイロ [29]カ[。]
× 1ほいろが。

156A : イヤ ソレ ニカンメ。
いや それ 2貫目。

157C : アー ホーカ。
ああ そうか。

158A : ナマハデ ニカンメダッケ。
生葉で 2貫目だった。

159C : ナマハデ ニカンメナ。 (A ウン)
生葉で 2貫目な。 (A うん)

160B : ゴヒヤクメダナ。
500匁だな。

161C : ヘージャー ゴヒヤク
それでは 500[匁]

162A : ウン。 ゴヒヤクク[°]ラエーダ。 ヨツツ
うん。 500[匁]くらいだ。 四つ

コサエーナケリヤー ホレ。 (C ウン。 ウン)
こしらえなければ ほら。 (C うん。 うん)

163B : ゴヒヤクメジャー タエーヘンダゼ。
500匁では たいへんだよ。

164C : ヨツツ コサエール ハウチカラジャナ。
四つ こしらえる 葉打ちからではな。

- (A ウン。 ウン) (B ウン。 ウン)
(A うん。 うん) (B うん。 うん)

165A : タエーヘンダッケヨ。
たいへんだったよ。

166B : ゴヒヤクメノチャワ ヨーイナコンジャ ナエーデ ナマハワナー。
500匁の茶は 容易なことでは ないから 生葉はなあ。

- (A タエーヘンダ*) (C ウン)
(A たいへんだ*) (C うん)

ヤマホド アルデ ホエロエナー。 (C ウーン)
山ほど あるから ほいろへなあ。 (C うん)

ホエロモ イカエーダッケナー ムカシャー。
ほいろも 大きいのだったなあ 昔は。

167A : ホエロモ {笑} イカエーッキケン (B ウーン)
ほいろも {笑} 大きかったけれど (B うん)

168C : オラン ザエーショワ アノ ウチマキ[30]ノ ウチャーナー
私の 郷里は あの 内牧の 家はなあ

(A ウン) オチャン イキヤーニヤ イキヤージャナエーカ。
(A うん) お茶が 多いには 多いではないか。

コトシラ アノ ホレ ニトンドンキダカ コシャータ ッテ。
今年あたり あの ほれ 2トンぐらいだか こしらえた って。

静岡 31-6

(B ウーン) (A ウーン)
(B うん) (A うん)

169B : ソーカナー。

そうかなあ。

170C : ナー。 ソレデ (B ウーン)
なあ。 それで (B うん)

フタリッキリデ ャッテルダヨ。 (A フーン) (B フーン)
二人きりで やっているのだよ。 (A ふうん) (B ふうん)

ジーブン {笑}
ずいぶん {笑}

171B : アノー ハタケカラ コサエールマデカ?
あのう 番から こしらえるまでか?

172C : ウン。 コシャルマデ。 (B ホーカナー) トルカラナ。
うん。 こしらえるまで。 (B そうかなあ) とるからな。

173B : ウーン。 ハー キカエーイッポーダネアー。 ウーン。
うん。 もう 機械一方だねえ。 うん。

174A : キカエーダデ
機械だから

175C : キキャーオ コー フタリカ°リモ カッテ アルダケン
機械を こう 二人で刈れる機械も 買って あるのだけれども

ヤッパナ。 (B ウーン) アノー
やっぱりな。 (B うん) あのう

トーサンカ。 カラダン イキャー シトズラ。 (B ウン)
おとうさんが 体が 大きい 人なのだろう。 (B うん)

カーサンカ。 ワリヤー コシーモンダンテナー {笑}
おかあさんが 割に 小さいものだからなあ {笑}

ヤマノ チャバタケジャー コー ヤッパ
山の 茶畠では こう やっぱり

176A : チョードクヘーカー {笑}
////////// {笑}

177C : チョーセツン トレニヤーダッチョヤ。 {笑} (B ホー)
調節が とれないのだそ�だよ。 {笑} (B ほう)

(A ウーン) ナー。
(A うん) なあ。

ヘーデモ ニトンドンキダカラサー。 (A ウーン) (B ウーン)
それでも 2トンくらいだからさあ。 (A うん) (B うん)

31↑32

178B : ウチンマキモ オチャノ カッコーワ イー トコダナー。
内牧も お茶の かっこうは いい ところだなあ。

(C ウン) コエオ シルモンダデ。 イロワ イーナー。
(C うん) 肥料を するものだから。 色は いいなあ。

179C : ソレダケーカ。 ヤッパ オラン ザエーショノ アタリン
それなのだけれども やっぱり 私の 郷里の あたりが

ウ オチャジャヤ イキヤーホーダッケヤー。 ヤッパ。
× お茶では 多いほうだったよ。 やっぱり。

(A ウーン) ウン。
(A うん) うん。

180B : ナンチュー ウチダッケ。
なんという 家だった。

181C : X9。
X9。

182B : ウーン。 (A ウーン) (C ウン)
うん。 (A うん) (C うん)

183C : イキヤーダヨ オチャン ムカシッカラナー。 エリヤー
多いのだよ お茶が 昔からなあ。 すごく

チャバタケン アルダ。 (A ウーン) (B ウーン)
茶畑が あるのだ。 (A うん) (B うん)

コトシラ ホレ シモン ナンニモ サーンニヤーダヨ。
今年あたり ほら 霜が なんにも 障らないのだよ。

シモン**
霜が**

184B : ウチマキヤー カミカ一?

内牧は 上か?

185C : カミダ。

上だ。

186B : カミナ一。

上なあ。

187C : ウン。 (B ウーン) カミノ ホレ アノ一 ナカ[°]シマノナ
うん。 (B うん) 上の ほら あのう 長島のな

(B ウン) アノ一 ナンテッタッキ ホ一。

(B うん) あのう なんといつたっけ ほら。

アノウチカラ ヨメッコニ キタ。

あの家から 嫁に きた。

188B : ナンテッタ。 ウン。 ホーダ。

なんといつた。 うん。 そうだ。

189A : X10ネーカ。

X10おねえさんか。

190C : ウン。 オ ウン。

うん。 × うん。

191B : X10ネーノ ウチダケーカ[°]。

X10おねえさんの 家だけれども。

静岡 32-4

192C : ウン。 ソノ スク° キンジョダヨ ヤッパ。 (A ハーン)
うん。 その すぐ 近所だよ やっぱり。 (A はあん)

193B : X11ツアンノ。
X11さんの。

194C : ウーン。
うん。

195B : キンジョヤ。
近所か。

196C : X11ツアント インキョホンケン ナッテルダ
X11さんと 隠居本家に なっているのだ

オランチャ。
私の家は。

197B : ホーカ。 (C ウン) ホーヤー。
そうか。 (C うん) そうか。

198C : アッチン X11ツアンノホーカ° ホンケデナー。 (B ウン)
あっちが X11さんのほうが 本家でなあ。 (B うん)

オラン ウチノ インキョダダーレ。 (A フーン)
私の うちが 隠居なんだよ。 (A ふうん)

199B : ヘージャー イチバン オクノウチジャー ナエーダカ。
それでは 一番 奥の家では ないのか。

静岡 32-5

200C : イチバン オクノウチャー マター アリヤー ホレ アノー
一番 奥の家は また あれは ほら あのう

X12サン ト ユー ヒトト (B ウン)

X12さん と いう 人と (B うん)

X13サン ト ユー ヒトン (B ウン)

X13さん と いう 人が (B うん)

コノウチカラ ホレ (B ウン。 ソーダ) キタダモンダデナ。

この家から ほれ (B うん。 そうだ) きたのだものだからな。

(B ウン)

(B うん)

201B : X10サン。 オ オ ウン。 オ オクノウチ。

X10さん。 × × うん。 × 奥の家。

イチバン オクダズラ。

一番 奥だろう。

202C : ウン。 X13サンノウチ。 ヘーカラ ホレ アノー
うん。 X13さんの家。 それから ほれ あのう

サーヤ[31]カラ ホレ キタジヤン ヨメッコニ。 ナ。

沢谷から ほら 来たじやない 嫁に。 な。

(A ウン) サーヤノ ホレ カラダ チカラモチ。

(A うん) 沢谷の ほら 体 力持ち。

203A : カーチ ***

/// ***

204B : カーチ ***

/// ***

205C : ウン。 X14ン ウチカラ

うん。 X14の 家から

(A ウン。 ウン)

(A うん。 うん)

206B : ウン。 ウン。 ホーダ。 (C ウン) (A フーンカ)

うん。 うん。 そうだ。 (C うん) (A そうか)

ホーダッケ。 イチバン オクノウチエナ。

そうだった。 一番 奥の家へな。

207C : ウン。 イチバン オクノウチ。

うん。 一番 奥の家。

208B : ホーダッケナー。 X11ツアンノ ウチト ホンケンナッテ

そうだったなあ。 X11さんの 家と 本家になって

ホンケン ベッケン ナッテルダ。

本家が 別家に なっているのだ。

209C : インキョホンケン ナッテル。

隠居本家に なっている。

210B : ホーカナー。 (A フーン) ホーカ。

そうかなあ。 (A ふうん) そうか。

211C : ウーン。 モ モター イッケンダッケンナー。 (B フーン)

うん。 × もとは 1軒だったがなあ。 (B ふうん)

ウマク ナクテ ヘーカラ オヤーサ オラン インキヨノホーカ。
うまく なくて それから 親をさ 私の 隠居のほうが

オヤー ミタダデ。 (B ホーカー。 フーン)

親を 見たのだから。 (B そうかあ。 ふうん)

フタオヤ キャーコレー[32]サ。 オラン オヤン。

二親[を] 死ぬまで養ってね。 私の 親が。

ヘーカラ ホンケノホーワ (B フーンカ一)

それから 本家のほうは (B そうかあ)

オヤー ウッチャッチャッタダデ。

親を ほったらかしにしてしまったのだから。

212B : ホーダッケカナー。 (C ナー)

そうだったかなあ。 (C なあ)

213A : アレデ アノ タイショー タイショーニネンジブンニ

あれで あの 大正 大正2年頃に

ココニ キョードーコーバン デキテナ。

ここに 共同工場が できてな。

(B ウン。 ホーダッケナー) ココ ジュー (B ウーン)
(B うん。 そうだったなあ) ここ ××× (B うん)

ココノ ナカ[°]シマノ シューカ[°]

このこの 長島の 人たちが

ジュー ジューコ[°]ケンバカ アッタダカ。 ハエーッテル シュ。
××× 15軒ばかり あったのか。 入っている 人たち。

214B : ホー。 キョードー ハエーッタ シューンカ。
ほう。 共同[工場に] 入った 人たちがか。

215A : キョードー ハエーッタ シューン。
共同[工場に] 入った 人たちが。

216B : ホーダッケツラナー。 (A ウーン)
そうだったんだろうなあ。 (A うん)

シラナエーケーガ[°] ソーダッケツラナー。
知らないけれども そうだったんだろうなあ。

[32↑33]

217A : ヨカンメノ シカモ アノー ソジューキ[33]ダイナー。
4貫目の しかも あのう 粗揉機だよなあ。

(D ウーン) サンカ[°]ンゴヒヤクメノシカ ハエーラナエーケン
(D うん) 3貫500匁のものしか 入らないけれど

(B ウーン) ヨンカンメノー ホレ ソジューキダモンダデ。
(B うん) 4貫目の ほれ 粗揉機だものだから。

静岡 33-2

(B ホーダ) (C ウン) アレーン ニダエー アルダッケン
(B そうだ) (C うん) あれが 2台 あるのだったが

ソレデ コー フカエーチャー モ モッテッチャー アノ モム
それで こう ふかしては × 持っていってはあの もむ

モム ヒトン キマッティーイテサー ジュンパンニ コー
もむ 人が 決まっていてね 順番に こう

モンジャー (B ホーダ。 X15サンカ[°]ナ)
もんでは (B そうだ。 X15さんがな)

モンジャー クレルダッケナー。 {笑}
もんでは くれるのだったなあ。 {笑}

(B ウン。 ホーダッケナー) (C アー)
(B うん。 そうだったなあ) (C ああ)

カンカ[°]エーテミルト ナーンダカ バカバカシーヨーナ
考えてみると なんだか ばかばかしいような

ハナシダケーカ[°]。 (B ウーン) (C {笑})
話だけれども。 (B うん) (C {笑})

218B : アノジブンニ ウラン マシ[34]デ ナカマニ
あの頃に 私の あたりで 仲間に

ナリエナエーダッキヨ。 (A フーン)
なれないのだったよ。 (A ふうん)

X16ニーラン マシモッテ ソンナ ナカマニ
X16おにいさんたちの あたりでもって そんな 仲間に

ナリマータッテモ ウラン マシノ チャワ キカエーノ
なり続けたっても 私の あたりの 茶は 機械の

ナケー ハエーリヤー デテクルモンモ ナンニモ ナエー。
中へ 入れば 出てくるものも なにも ない。

ナクナッチャウ ッテ ユーダッキヨ。 (C {笑})
なくなってしまう と いうのだったよ。 (C {笑})

(A {笑}) キカエーデ モム チャワ ナエーダッキサ。
(A {笑}) 機械で もむ 茶は ないのだったね。

テデ ツンデ ホレ (C ウン) コセールダケダ。
手で 摘んで ほら (C うん) こしらえるだけだ。

(C ウン) (A ウーン) サンジッカンク°ライ
(C うん) (A うん) 30貫くらい

アリヤー エーダッケツライナー。 (C ウーン)
あれば よいのだっただろうよなあ。 (C うん)

(A ウーン) (C ウーン。 ウン) ウーン。
(A うん) (C うん。 うん) うん。

エーダ。 サンジッカンク°ラエー モンダッキヤレ。
よいのだ。 30貫ぐらい[の] ものだったなあ。

(C ウーン) ***

(C うん) ***

219A : ソノトキニ オレン ムカエーヤマー[35]

その時に 私が 向山は

X17ニーン トケー

X17おにいさんの ところへ

オチャシュー[36]ニ イッタッキヨ。

お茶衆に 行ったよ。

220B : ホーカナー。

そうかなあ。

221A : ソノジブンニ。

その頃に。

222B : フーン。 ホーダッキカナー。

ふうん。 そうだったかなあ。

223A : ニジューシコ^クラエーダッケツラナー。

24、5くらいだったんだろうなあ。

224B : X18ニーン トケー イッタッキカナー。 (A ウン)

X18おにいさんの ところへ 行ったかなあ。 (A うん)

225A : ホイデ アノー ムスメラン シチニン キティタッケヤ。

それで あのう 娘らが 7人 きていたっけよ。

静岡 33-5

(B フーン) ヘーデ ウチノ アノー
(B ふうん) それで うちのあのう

226B : チャツミン。

茶摘みが。

227A : ウン? チャツミン。

うん? 茶摘みが。

228B : ヤナキ[°]シンデン[37]カラ キタダッケーカ[°]。

柳新田から 来たのだったけれども。

(A ウン)

(A うん)

229A : ソノ一 ヒチニンノ シュート ウチノ ホレ カーサンカ[°]
そのう 7人の 人たちと うちの ほら おかあさんが

デルズラ。 (B ウーン。 ウン) デ ハチ ケッキョク
出るだろう。 (B うん。 うん) で ×× 結局

カンジョージヤー ハチニンデ ヒトリヤー マー ウチノ
勘定では 8人で ひとりは まあ 家の

シター セワー シ シングラエーダッキカモ シンナエーカ[°]。
人は 世話を × するくらいだったかも しれないが。

(B フーン) (C {笑}) ハチニンデ ツンデクル ヤツォー
(B ふうん) (C {笑}) 8人で 摘んでくる やつを

アノー シタニ ャット シタエー ホレ コーバン デキタトキダ。
あのう 下に やつと 下へ ほれ 工場が できた時だ。

アノー テンジンバシ[38]ノ コッチン トケーナー。
あのう 天神橋の こっちの ところへなあ。

(C ウーン)

(C うん)

230B : ホーダッケナー。 ウン。 ナカマデナー。 ホーダッケ。
そうだったなあ。 うん。 仲間でなあ。 そうだった。

231A : ヘーカラ ソレーエ イチジジブンニ オキテ オチャッパ
それから それへ 1時頃に 起きて お茶の葉

ショイクズイテサ ウチカラ。 (B ウーン) ソーシテ
背負いおろしてね 家から。 (B うん) そして

アソコデ フカエーテ ソジューキン ナケー イレチャーサ。
あそこで ふかして 粗揉機の 中へ 入れてはね。

ソレオ {笑} イマ テデ アケ[。]ルダケンナ。
それを {笑} 今 手で あげるのだけれどな。

イチンチニ ショイオレーテッテ フカエーテ ソジューキデ
1日に 背負いおろしていって ふかして 粗揉機で

33↑34

モ アー マー ハンブン モンダヤツォーサ (B ウン)
× ああ まあ 半分 もんだやつをさ (B うん)

静岡 34-2

ゴカンメ アケ[°]ナケリヤー (B ウーン) ホレ
5貫目 あげなければ (B うん) ほら

オエナエーダッケ。

終えないのだった。

232B : ホーダッケ。 ゴカンメク[°]ラエーネ。
そうだった。 5貫目くらいね。

233A : ハチニンデ ホレ ツンダモンダデ。
8人で ほら 摘んだものだから。

ソレオ オヤサナケリヤー ***
それを 終わらせなければ ***

234B : シマワラレナエーワナー。 (A ウーン) (C ウン)
しまえないよなあ。 (A うん) (C うん)

235A : ソレデ {笑} ホ X19サンワ {笑}
それで {笑} × X19さんは {笑}

オカエーコセンモンデ (B ウーン)
お蚕専門で (B うん)

ホレ X20ニーワ オカエーコバッカエ カッテタッケン
ほれ X20おにいさんは お蚕ばっかり 飼っていたっけが
(B ソーダッキカナー) ナンニモ シナエー。
(B そうだったかなあ) なんにも しない。

静岡 34-3

(B ウーン) ヘーカラ シマエーニ ワレン
(B うん) それから しまいに あなたが

イッショケンベー コサエーテ クレタデ ジャー ヒヨーオ
一生懸命 こしらえて くれたので では 日傭を

サンエン クレル ッテ ッテ
3円 くれる って いって

サンエン クレタッケン (B ウーン)
3円 くれたっけが (B うん)

ソノジブンノ サンエンテ ユヤー ナニヨー シタッテモ
その頃の 3円って いえば なにを したとしても

トレナエー ヒヨーダッケヨ。 {笑}
とれない 日傭だったよ。 {笑}

236B : ウーン。 ソーダッタカモシンナエナー。
うん。 そうだったかもしれないなあ。

237C : ソーズラナー。 (A ナー)
そうだろうなあ。 (A なあ)

238B : イチニン サンエンカ。
一人あたり 3円か。

239A : ウン。 イチンチ サンエンサ。 (B ウーン)
うん。 1日 3円ね。 (B うん)

静岡県静岡市1979注記

[1] クチ

地名。静岡市足久保口組。足久保地域は、足久保川の下流の口組「クチ」「クチク[。]ミ」と足久保川の上流の奥組「オク」「オクク[。]ミ」に分かれている。

[2] オク

地名。静岡市足久保奥組。

[3] シキジ

地名。敷地。

[4] モロカ[。]一

地名。諸川。

[5] シンメーハラ

地名。神明原。

[6] フナンザー

地名。船沢。

[7] ナカ[。]シマ

地名。長島。

[8] ソーナ

「ソーナ」は、伝聞の助動詞「そうだ」の終止形。終助詞「ヨ」「ヤー」、過去を表す「ケ」「キ」などに続く時にも「ソーナ」となる。

[9] ヤソオカ

地名。八十岡。

[10] シミズ

地名。清水。

[11] ヨメッコニ キタダッキナ

話し手C氏は、内牧生まれで、結婚して足久保奥組に居住。実家と婚家は同一方言区画内にある。

[12] ハウチ

葉打ち。手揉み茶の製造の一過程。

[13] イキヤー

「イカイ」は「大きい」という意味。ただし、量的に多いことを表す場合にも用いられることがある。

[14] デンク[°]リ

手揉み茶製造の一過程。

[15] オヤーテ

「オヤス」は自動詞「オエル」（終える）に対応する他動詞。

[16] マーイチャーッテ

「マース」は「してしまう」という意味。

[17] カッタジャーン

「ジャン」は念押し・強調などを表す終助詞。

[18] オゾクテ

「オゾイ」はほぼ「悪い」に相当する。容貌、顔色、服などに対して使われる。

[19] シラハガ[°]リビョー

葉が白く枯れる稻の病気。

[20] ヨーナ

「ヨーナ」は、様態の助動詞「ようだ」の終止形。助詞「ヨ」「ナー」などが続く時にも「ヨーナ」となる。

[21] キョーシツ

供出。民間の物資や食糧などを、一定の取り決めによって、政府に売り渡すこと。

[22] トチヤ

栁屋。屋号か。

[23] トヨダ

地名。豊田。

[24] オーカー

地名。旧・安倍郡大川村。現・静岡市大川。藁科川の最上流域にある。足久保地域の隣。

[25] トチザー

地名。旧・安倍郡大川村柄沢。現・静岡市柄沢。藁科川の上流左岸の山間部にある。

[26] ヤブキタ

お茶の一品種。

[27] シズハタ

地名。旧・安倍郡賤機村。現・静岡市賤機。賤機山の西、安部川下流左岸にある。

[28] ハラダ

地名。原田。

[29] ポイロ

ホイロ。焙炉。お茶の葉を焙じる用具。

[30] ウチマキ

地名。旧・安倍郡美和村内牧。現・静岡市内牧。安部川下流右岸、内牧川上流にある。

[31] サーヤ

地名。沢谷。足久保奥組の集落、口長島のかつての名称。

[32] キヤーコレーテ

死に水までとること。死ぬまで養うこと。

[33] ソジューキ

粗揉機。お茶を揉む機械。

[34] マシ

「マシ」「マーシ」は、「あたり」「ところ」という意味。

[35] ムカエーヤマー

山名。向山。

[36] オチャシュー

お茶衆。お茶を摘みに、他の土地へ出る人。

[37] ヤナキ[°]シンデン

地名。静岡市柳新田。賤機山の北東部にある。

[38] テンジンバシ
橋の名。天神橋。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次（昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話（1時間）

- ③老年層の女性2人の対話、または、老年層の女性3人の会話（1時間）
 - ④老年層と若年層との対話、または、両者を含む3人の会話（1時間）
 - ⑤老年層の男性2人の、目上の者と目下の者の対話（2時間）
 - ⑥場面設定の対話（1時間、各場面につき1～3分程度）
場面に応じて、老年層の男性2人の対話、または、老年層の男女各1人による対話
 - ⑦当該地域に伝わる民話（1時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、
 - ⑧老年層の女性2人の、目上の者と目下の者の会話（1時間）
または、
 - ⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2人の対話（1時間）
を収録する。
- ①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるよう、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道	山形県
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町	06a 新庄市
01b 十勝支庁中川郡豊頃町	06b 寒河江市
01c 渡島支庁亀田郡榎法華村	06c 東田川郡櫛引町
01d 渡島支庁松前郡松前町	06d 東田川郡朝日村
青森県	06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
02a 下北郡川内町	福島県
02b 北津軽郡市浦村	07a いわき市
02c 上北郡野辺地町	07b 大沼郡会津高田町
02d 三戸郡五戸町	07c 大沼郡昭和村
02e 弘前市	茨城県
岩手県	08a 高萩市
03a 久慈市	08b 久慈郡里美村
03b 宮古市	08c 水戸市
03c 遠野市	08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
03d 大船渡市	08e 古河市
03e 一関市	栃木県
宮城県	09a 大田原市
04a 本吉郡本吉町・歌津町	09b 日光市
04b 栗原郡築館町	09c 宇都宮市
04c 仙台市	09d 芳賀郡益子町
04d 亘理郡亘理町	09e 安蘇郡田沼町
04e 刈田郡七ヶ宿町	群馬県
秋田県	10a 利根郡片品村
05a 鹿角市	10b 吾妻郡六合村
05b 能代市	10c 前橋市
05c 仙北郡西木村	10d 邑楽郡大泉町
05d 河辺郡雄和町	10e 甘楽郡下仁田町
05e 湯沢市	

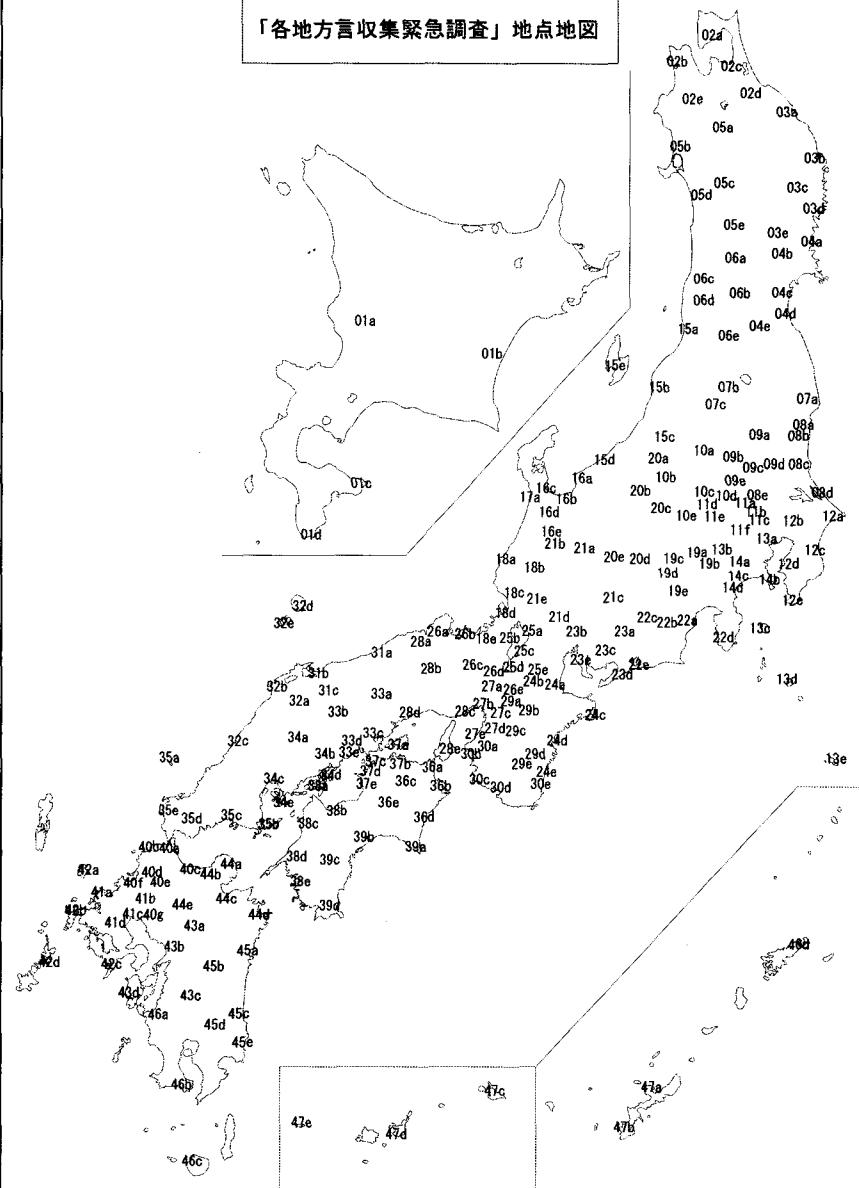
埼玉県	
11a 加須市	富山県
11b 南埼玉郡宮代町	16a 黒部市
11c 春日部市	16b 富山市
11d 児玉郡上里町	16c 氷見市
11e 秩父郡長瀬町	16d 砺波市
11f 入間郡大井町	16e 東礪波郡上平村
千葉県	石川県
12a 海上郡飯岡町	17a 羽咋郡押水町
12b 印旛郡印西町（→印西市）	福井県
12c 長生郡長生村	18a 坂井郡芦原町（→あわら市）
12d 木更津市	18b 勝山市
12e 館山市	18c 南条郡南条町
東京都	18d 敦賀市
13a 台東区	18e 遠敷郡名田庄村
13b 西多摩郡檜原村	山梨県
13c 大島町	19a 塩山市
13d 三宅村	19b 大月市
13e 八丈町	19c 莊崎市
神奈川県	19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
14a 愛甲郡愛川町	19e 南巨摩郡身延町
14b 横須賀市	長野県
14c 秦野市	20a 下水内郡栄村
14d 小田原市	20b 長野市
新潟県	20c 小諸市
15a 村上市	20d 伊那市
15b 西蒲原郡分水町	20e 木曾郡開田村
15c 十日町市	
15d 糸魚川市	
15e 佐渡郡佐和田町（→佐渡市）	

岐阜県		京都府	
21a 高山市		26a 中郡峰山町（→京丹後市）	
21b 大野郡白川村		26b 舞鶴市	
21c 中津川市		26c 船井郡丹波町	
21d 岐阜市		26d 京都市	
21e 捷斐郡徳山村（→藤橋村）		26e 相楽郡山城町	
静岡県		大阪府	
22a 静岡市		27a 高槻市	
22b 榛原郡本川根町		27b 大阪市	
22c 磐田郡水窪町		27c 八尾市	
22d 賀茂郡松崎町		27d 河内長野市	
22e 浜名郡新居町		27e 泉佐野市	
愛知県		兵庫県	
23a 北設楽郡設楽町		28a 豊岡市	
23b 西春日井郡師勝町		28b 朝来郡生野町	
23c 岡崎市		28c 神戸市	
23d 豊橋市		28d 相生市	
23e 常滑市		28e 洲本市	
三重県		奈良県	
24a 安芸郡美里村		29a 大和郡山市	
24b 阿山郡阿山町		29b 宇陀郡榛原町	
24c 志摩郡阿児町		29c 五條市	
24d 北牟婁郡海山町		29d 吉野郡下北山村	
24e 南牟婁郡御浜町		29e 吉野郡十津川村	
滋賀県		和歌山県	
25a 長浜市		30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町	
25b 高島郡安曇川町		30b 和歌山市	
25c 神崎郡能登川町		30c 御坊市	
25d 大津市		30d 田辺市	
25e 甲賀郡甲賀町		30e 新宮市	

鳥取県	
31a 鳥取市	36a 鳴門市
31b 米子市	36b 阿南市
31c 日野郡日野町	36c 美馬郡脇町
島根県	36d 海部郡海南町
32a 仁多郡仁多町	36e 三好郡東祖谷山村
32b 出雲市	香川県
32c 浜田市	37a 小豆郡土庄町
32d 隠岐郡西郷町	37b 木田郡三木町
32e 隠岐郡西ノ島町	37c 丸亀市
岡山県	37d 仲多度郡多度津町
33a 勝田郡勝央町	37e 観音寺市
33b 新見市	愛媛県
33c 岡山市	38a 越智郡大三島町
33d 小田郡矢掛町	38b 西条市
33e 笠岡市	38c 松山市
広島県	38d 大洲市
34a 三次市	38e 宇和島市
34b 府中市	高知県
34c 広島市	39a 室戸市
34d 因島市	39b 高知市
34e 安芸郡倉橋町	39c 高岡郡檮原町
山口県	39d 幡多郡三原村
35a 萩市	福岡県
35b 大島郡大島町	40a 北九州市
35c 徳山市（→周南市）	40b 遠賀郡芦屋町
35d 美祢市	40c 築上郡新吉富村
35e 豊浦郡豊北町	40d 飯塚市
	40e 嘉穂郡稻築町
	40f 福岡市
	40g 八女市

佐賀県	鹿児島県
41a 東松浦郡鎮西町	46a 出水市
41b 烏栖市	46b 摂宿郡頴娃町
41c 佐賀市	46c 熊毛郡上屋久町
41d 武雄市	46d 大島郡龍郷町
長崎県	沖縄県
42a 壱岐郡芦辺町（→壱岐市）	47a 国頭郡今帰仁村
42b 平戸市	47b 那霸市
42c 長崎市	47c 平良市
42d 南松浦郡奈良尾町	47d 石垣市
熊本県	47e 八重山郡与那国町
43a 阿蘇郡阿蘇町	
43b 熊本市	
43c 球磨郡錦町	
43d 天草郡天草町	
大分県	
44a 東国東郡国東町	
44b 宇佐市	
44c 大分郡挾間町	
44d 佐伯市	
44e 日田郡前津江村	
宮崎県	
45a 延岡市	
45b 東臼杵郡椎葉村	
45c 宮崎市	
45d 北諸県郡山田町	
45e 日南市	

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2004. 06. 30. 作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日
文化庁長官裁定
(昭和62年6月1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分	項目	目	目の細分	説明
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査 事 業 費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金 ○○文字化謝金 ○○協力謝金	調査員、調査補助員等謝金 資料
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費	通信運搬費 会場借上料	郵便、電信電話料等
			使用料及び賃借料	器具借上料	
			委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるものほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

- (1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話
- (2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話
- (3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「子どものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「子どもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

　話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

　収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

　話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

　話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

　目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

　場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

　話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

　民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

　必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

　録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るために基本的な留意点は次のとおりである。

　① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

　② 内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないで、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

　③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があるので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

　録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

　④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

　⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

　文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画 (() は実施要領・文字化の時間数)

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

(注) 3年次の「③ 民話」の収録不能のときは、2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

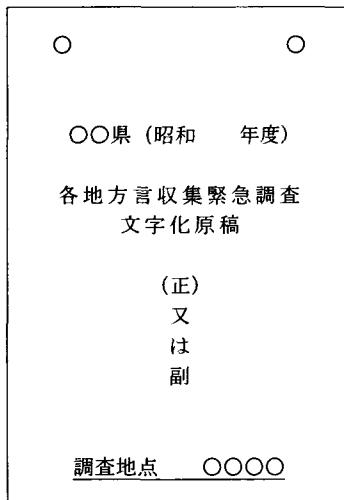
(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県		NO. 正 —○ (副)	補助要項 の記号
各地方言収集緊急調査録音記録票			
1	採録地点		
2	採録年月日		
3	話題・時間 A面	() 分	B面 () 分
4	話者		
5	採録機種		

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文化化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文化化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。



(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
 - ② 方言資料割付用紙
 - ③ 方言調査解説用紙
- } (別紙のとおり)

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（ア一（1））	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（ア一（2））		1
2年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（ア一（3））		1
3年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
計	③ 民話（オ） (民話が収録できないときは、(注) 参照。))	30	1
			9

（注）

民話の適當な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

（1）録音テープ

正……収録した生のテープ 1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）2部

（2）文字化原稿

正……手書き原稿 1部

副……正のコピー 2部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県	NO. 正 —○ (副)	補助要項 の記号	テープの ケース箱に 張り付ける ようにして ください。
各地方言収集緊急調査録音記録票			
1 採録地点			
2 採録年月日			
3 話題・時間 A面	() 分		
B面	() 分		
4 話者			
5 採録機種			

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和 年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
(正) 又 は 副	
調査地点 ○○○○	

(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)

- ② 割付用紙の左端の[]には話し手の略号を記入する。

- ③ カウンタつきの録音機を使用した場合は、その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分からち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」「、」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮したことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次的方式によってほしい。

(ア) 長音には「一」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ)ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [ma`ndo] (窓)

カング [ka`go] (籠) —高知方言など—

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwazi] (火事) —九州方言など—

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) —九州方言など—

(カ) [ti] [di] はティ、ディ、[tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) —高知方言など—

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸe`bi] (蛇) —奥羽方言など—

(ク) [jɛ] の音はイエで表わす。

例 イエダ [jeda] (枝) —九州方言など—

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akae:] (赤い) —岡山方言など—

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [age] (赤い) —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ ^{(イイ)→^ヒ} [kçimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には_____線を付けておく。

例 カステクレア—

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを_____線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレア ^{(イイ)→^ヒ} 「カステケロエ」または

「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を_____線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカ一 ^{(イイ)→^ヒ} 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、_____線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように（ ）を利用し、発言

が重複する部分に____線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ[°]トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレア一) アト スク[°]イ モッテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話はじめたような場合には、改行して、重複部分に____線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット
ナカ[°]ス キター。

B イヤ イソカ[°] スインダテ キヨーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー
×× ×××××

ゴジューEngラエージャッタカナー。

オ 笑い声などは文字化本文中に()に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを()に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声的特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

- ① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係
- ② 音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）
- ③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説、注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
 - 2 録音年月日
 - 3 録音場所
 - 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話しそうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
 - 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）
- なお、A、B、Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室（当時）、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)年度からは、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員

会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。

- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて、文字化のtextファイル、共通語訳のtextファイルを作成する。
- ⑬音声データは、サンプリング周波数22.050 kHz、量子化ビット数16 bitでデジタル化して、音声ファイル(wave形式)を作成する。そして、それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようとする。
- ⑮CDには、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地に赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声(waveファイル)、文字化(カタカナ表記、textファイル)、共通語訳(漢字かなまじり表記、textファイル)、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの(冊子、pdf)などを収録している。従来にはあまりなかった、

音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門）、委員として、熊谷智子（研究開発部門第二領域）、三井はるみ（研究開発部門第二領域）、井上優（日本語教育部門第一領域）、井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本の
ふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約200ページ、CD-ROM1枚、CD1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	11
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	10
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	8
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-8

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第8巻 長野・山梨・静岡

2004年6月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056

東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>